

令和7年度
佐久市男女共同参画社会に関する
市民意識調査報告書

令和8年3月

佐 久 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査結果の表示方法	1
7 回答者の属性	2
8 その他	5
II 調査結果	6
1 用語や制度などについて	6
2 世の中の男女平等感について	25
3 性別役割分担意識について	41
4 地域社会における活動について	48
5 政策・方針決定について	55
6 防災・災害復興について	58
7 ワーク・ライフ・バランスについて	66
8 ハラスメント・様々な暴力への対策について	75
9 困難な問題を抱える女性への支援について	81
10 男女共同参画社会の実現について	55
その他記述回答	89
III 調査様式	●

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画社会に関する意識や現状を把握し、「第5次佐久市男女共同参画プラン」を策定する基礎資料にするとともに、今後の男女共同参画施策の推進に活かしていくため、市民意識調査を実施するものである。

2 調査対象

佐久市居住の18歳以上の男女1,000人を層化無作為抽出

3 調査期間

令和7年11月1日から令和7年11月30日

4 調査方法

郵送による配布、郵送・インターネットによる回収

5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000 通	565 通	56.5%

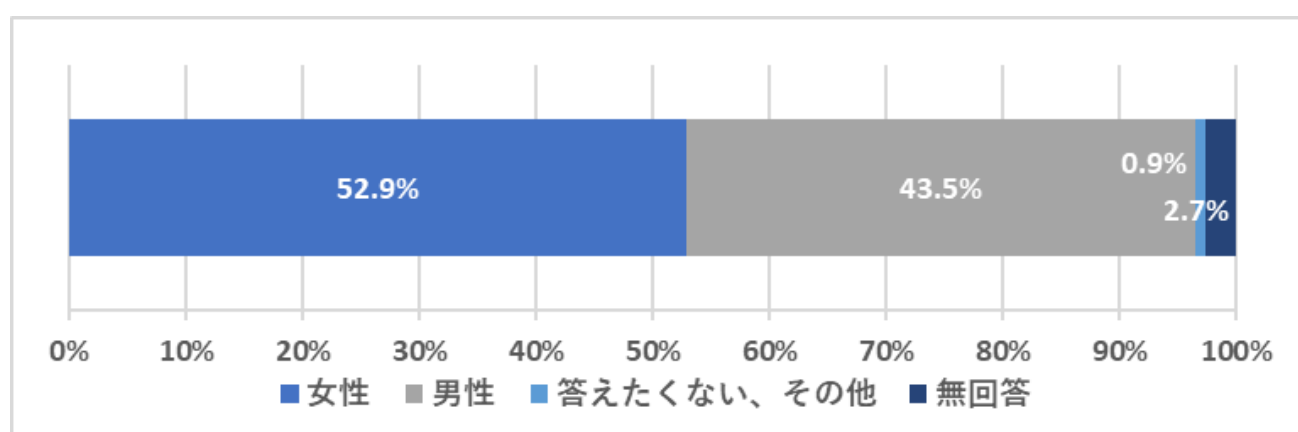
6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示す。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問の場合、選択項目が回答対象者数に対してどのくらいの比率かを示すため、比率の合計が100.0%を超える場合がある。

7 回答者の属性

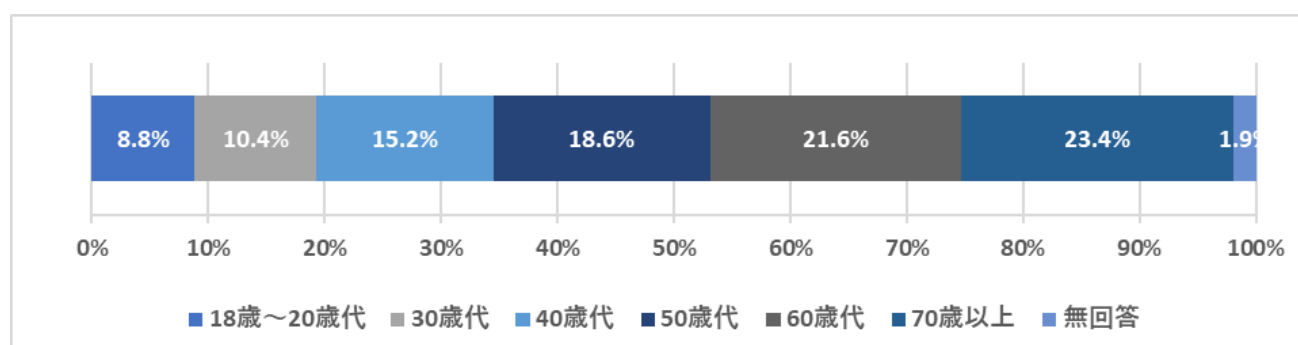
【性別】

	女性	男性	答えたくない、その他	無回答	全体
回答者数(人)	299	246	5	15	565
割合	52.9%	43.5%	0.9%	2.7%	100.0%



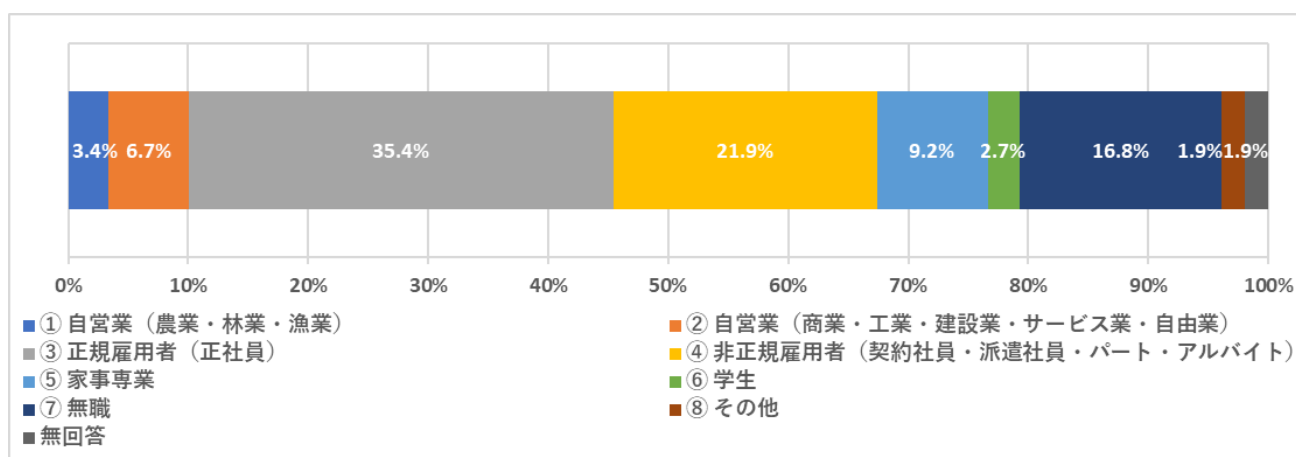
【年代】

	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	全体
回答者数(人)	50	59	86	105	122	132	11	565
割合	8.8%	10.4%	15.2%	18.6%	21.6%	23.4%	1.9%	100.0%



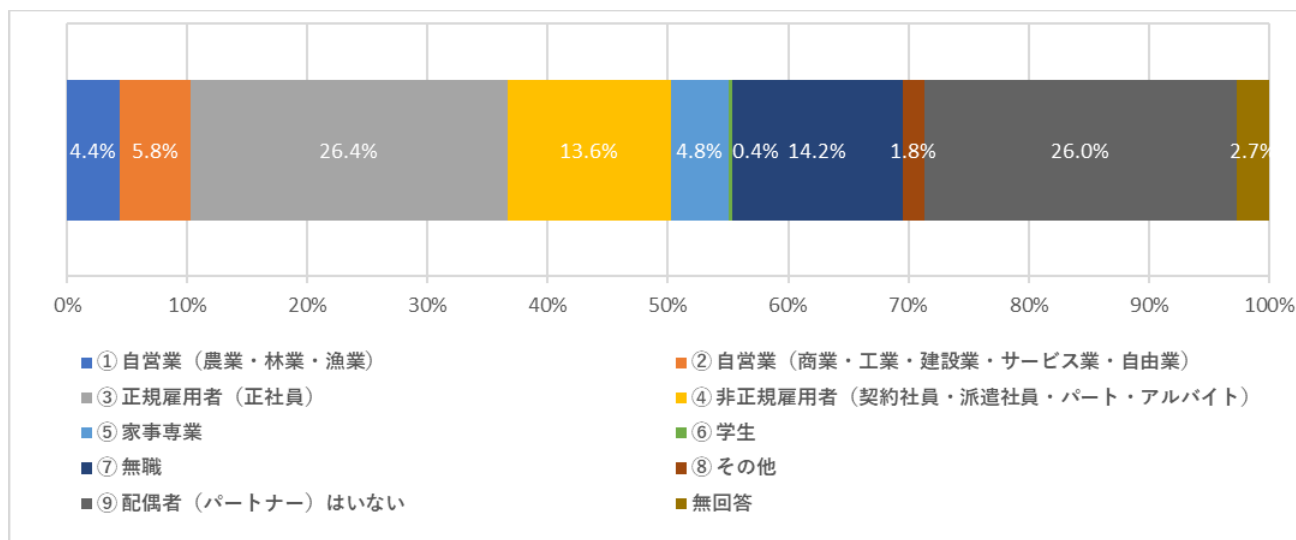
【回答者の職業】

	回答者数	割合
① 自営業（農業・林業・漁業）	19	3.4%
② 自営業（商業・工業・建設業・サービス業・自由業）	38	6.7%
③ 正規雇用者（正社員）	200	35.4%
④ 非正規雇用者（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト）	124	21.9%
⑤ 家事専業	52	9.2%
⑥ 学生	15	2.7%
⑦ 無職	95	16.8%
⑧ その他	11	1.9%
無回答	11	1.9%
総計	565	100.0%



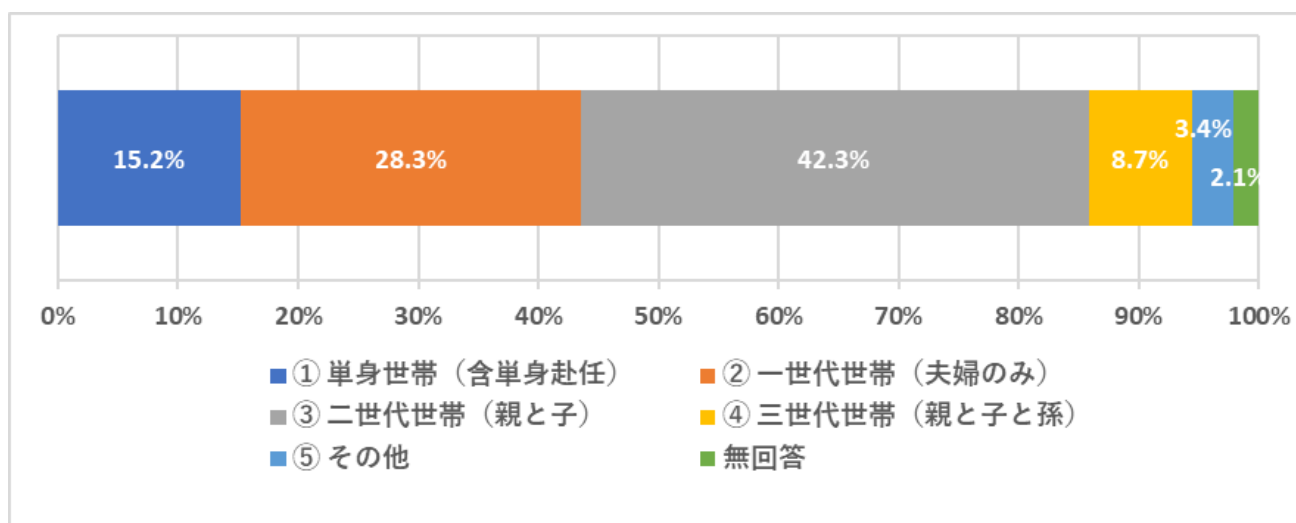
【配偶者の職業】

	回答者数	割合
① 自営業（農業・林業・漁業）	25	4.4%
② 自営業（商業・工業・建設業・サービス業・自由業）	33	5.8%
③ 正規雇用者（正社員）	149	26.4%
④ 非正規雇用者（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト）	77	13.6%
⑤ 家事専業	27	4.8%
⑥ 学生	2	0.4%
⑦ 無職	80	14.2%
⑧ その他	10	1.8%
⑨ 配偶者（パートナー）はいない	147	26.0%
無回答	15	2.7%
総計	565	100.0%



【回答者の家族構成】

	回答者数	割合
① 単身世帯(含単身赴任)	86	15.2%
② 一世代世帯(夫婦のみ)	160	28.3%
③ 二世世代世帯(親と子)	239	42.3%
④ 三世世代世帯(親と子と孫)	49	8.7%
⑤ その他	19	3.4%
無回答	12	2.1%
総計	565	100.0%



8 その他

[本報告書で結果を引用した調査]

<佐久市調査>

令和2年度調査 (令和2年11月実施 対象18歳以上1,000人 有効回収61.9%)

平成27年度調査 (平成27年11月実施 対象18歳以上1,000人 有効回収64.0%)

平成22年度調査 (平成22年6・7月実施 対象20歳以上1,000人 有効回収40.0%)

<長野県調査>

「男女共同参画に関する県民意識調査」(以下「県調査」と略)

(令和6年8・9月実施 対象2,000人 有効回収47.1%)

<内閣府調査>

「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下「内閣府調査」と略)

(令和6年9～11月実施 対象5,000人 有効回収53.5%)

(注)質問文言や選択肢が異なる場合があるので単純な比較は適当でない。

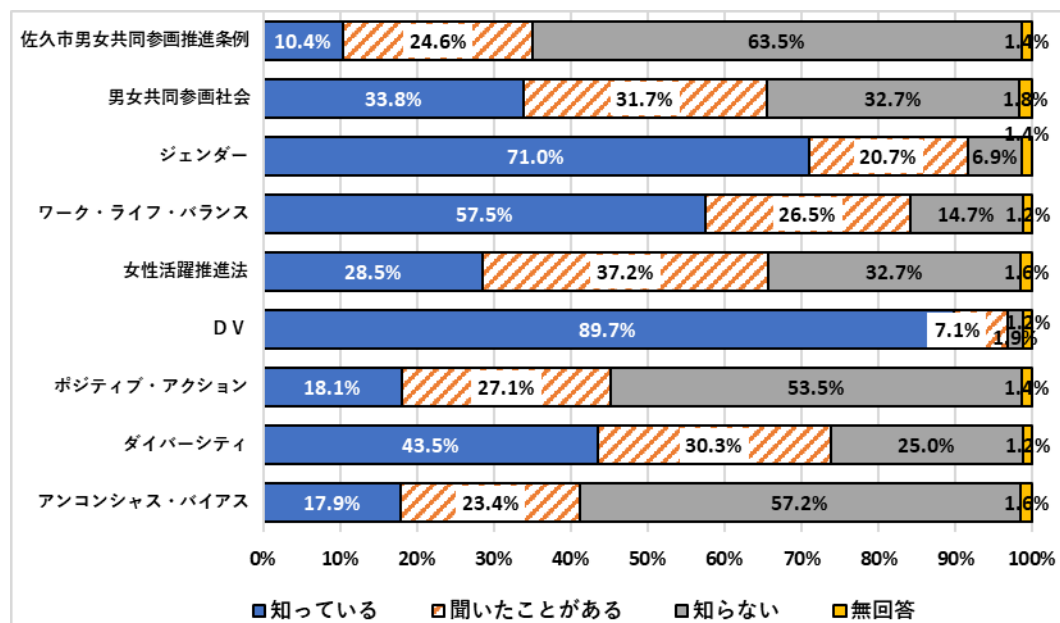
Ⅱ 調査結果

1 用語や制度などについて

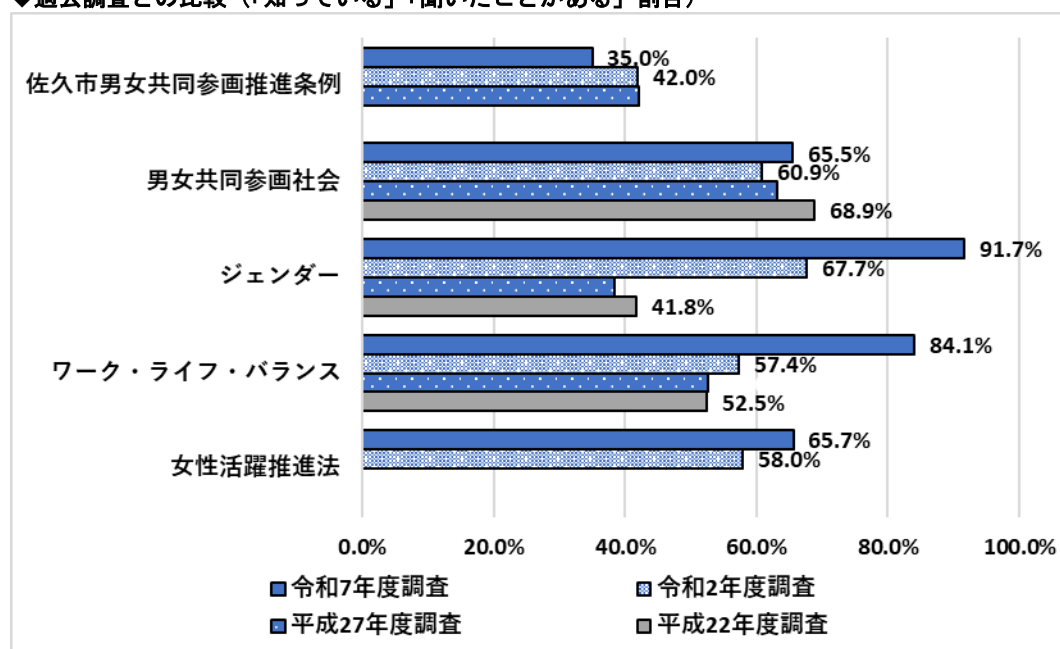
男女共同参画に関することばや言葉 条例の制定、施行 「知っている」「聞いたことがある」35.0%

問1 次にあげる男女共同参画に関することばや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

●「知っている」または「聞いたことがある」割合は「DV」で96.8%、「ジェンダー」で91.7%、「ワーク・ライフ・バランス」で84.0%、「ダイバーシティ」は73.8%の順に続いている。



◆過去調査との比較（「知っている」「聞いたことがある」割合）

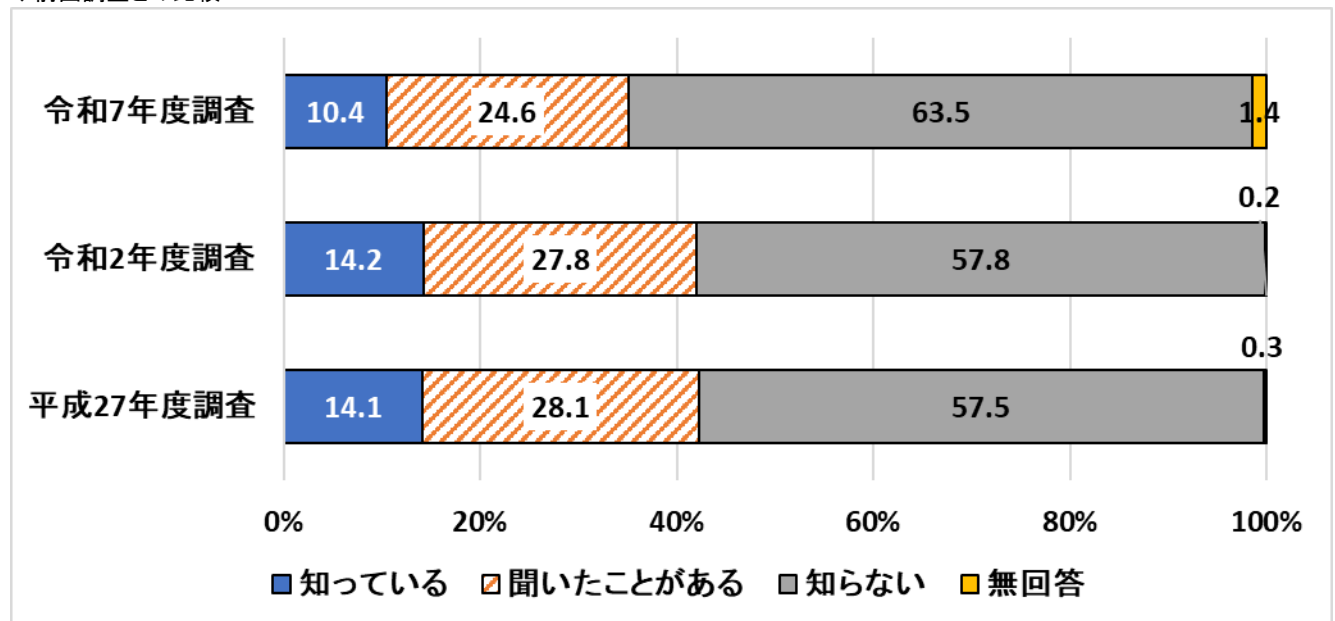


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

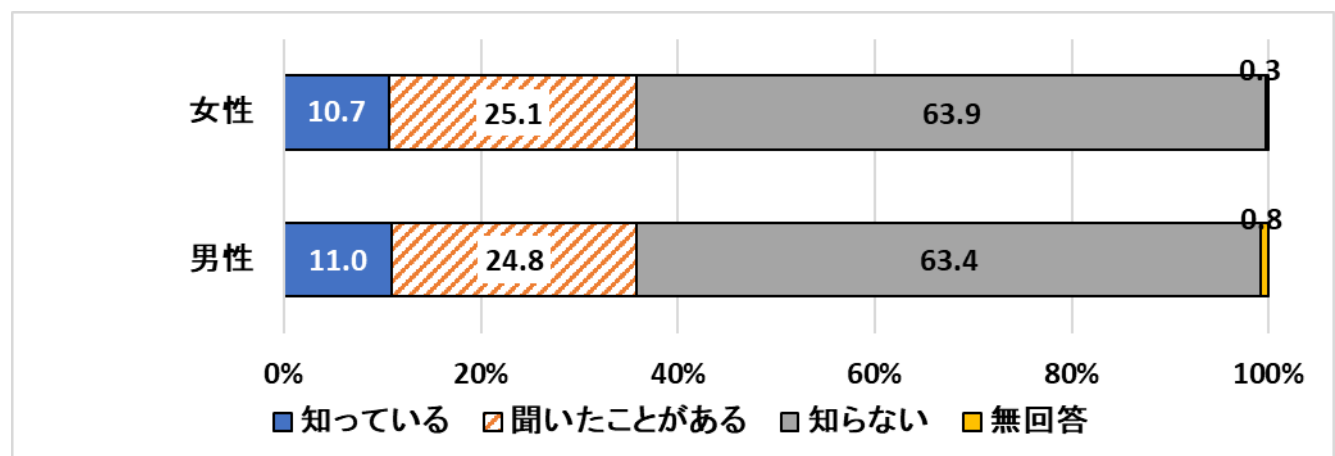
A 佐久市では「佐久市男女共同参画推進条例」を制定し施行していることをご存知ですか。

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は 35.0%で、「知らない」が 63.5%と半数を超えた。前回調査より認知度は減少している。
- 性別では、男女とも「知らない」と回答した割合は 6 割を超えている。
- 年代別では、30 歳代、40 歳代で「知らない」が 70%以上と高い一方、70 歳以上で「知っている」「聞いたことがある」と回答した割合は 51.5%と高めになっている。

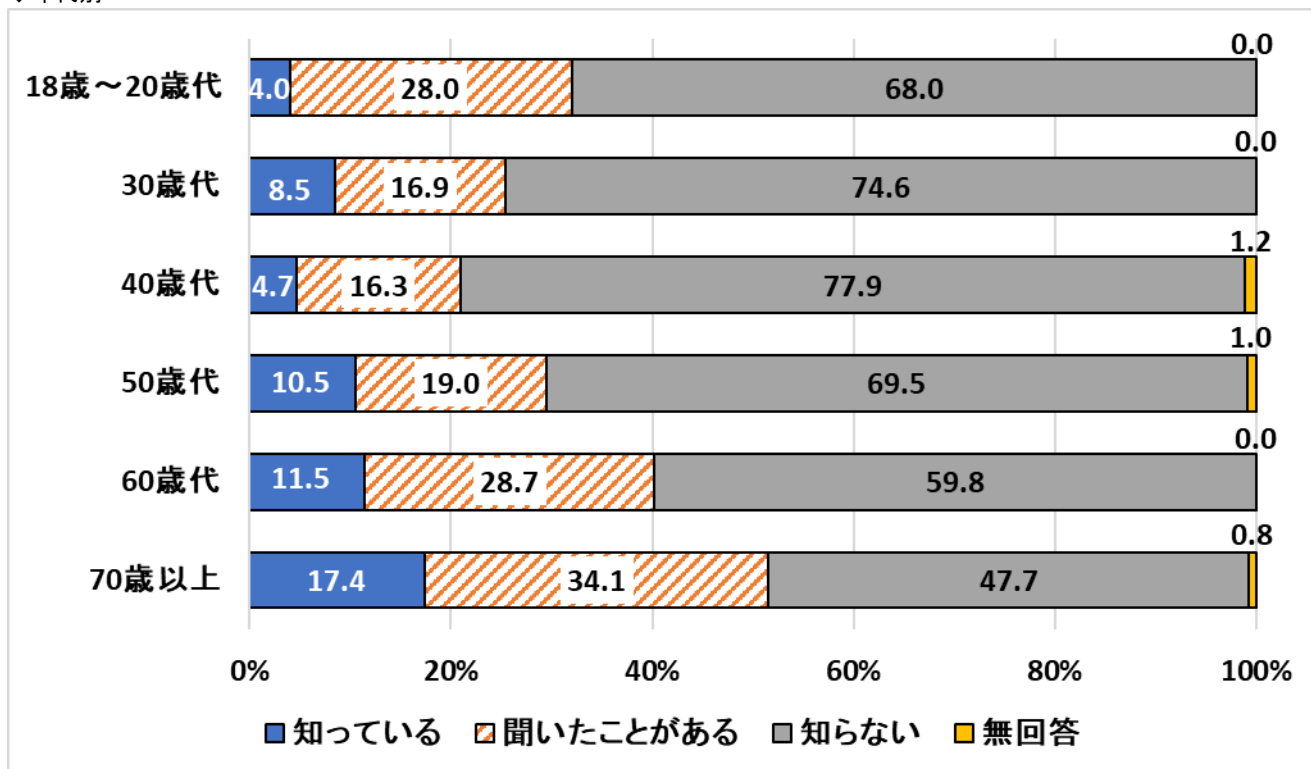
◆前回調査との比較



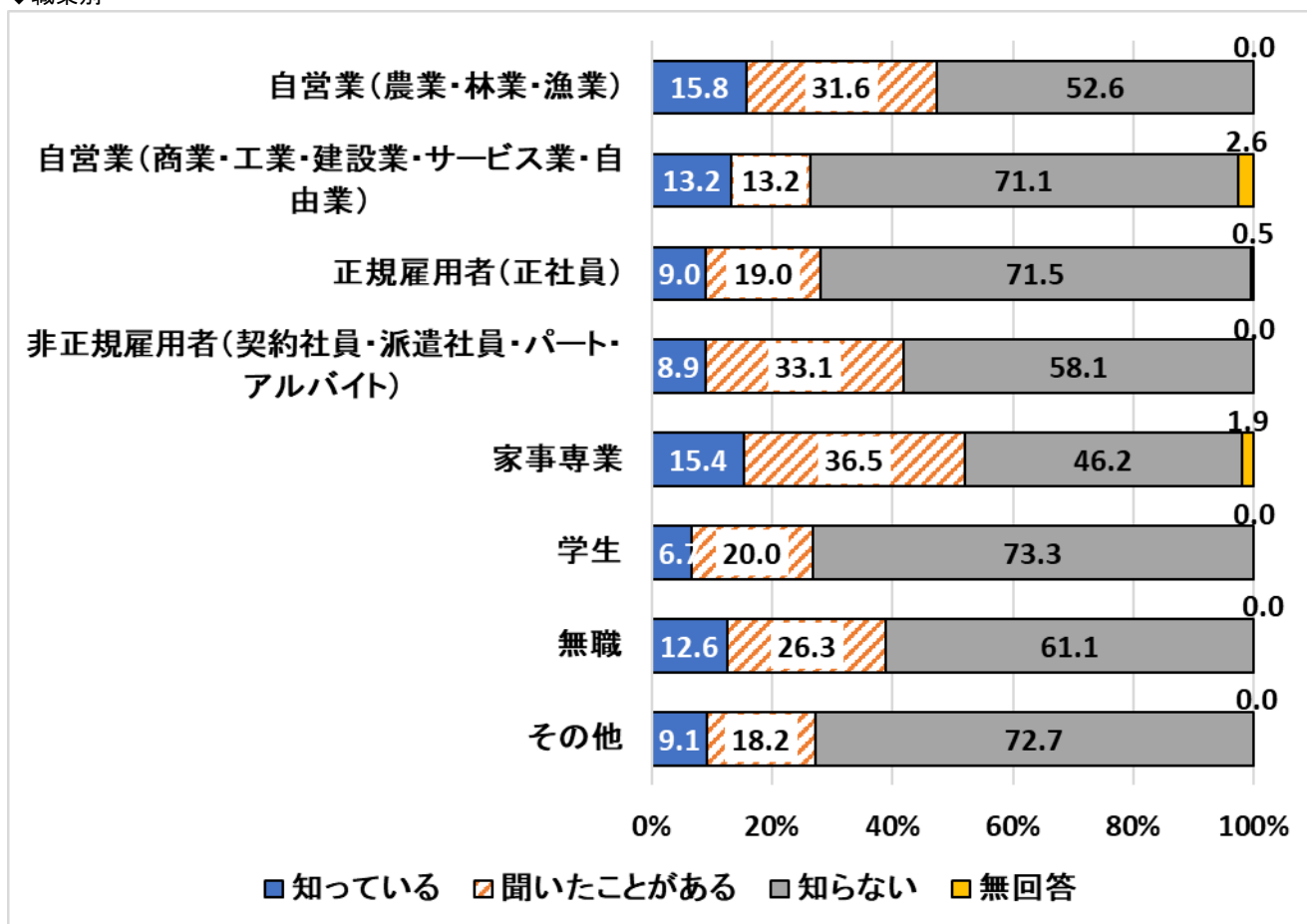
◆性別



◆年代別



◆職業別



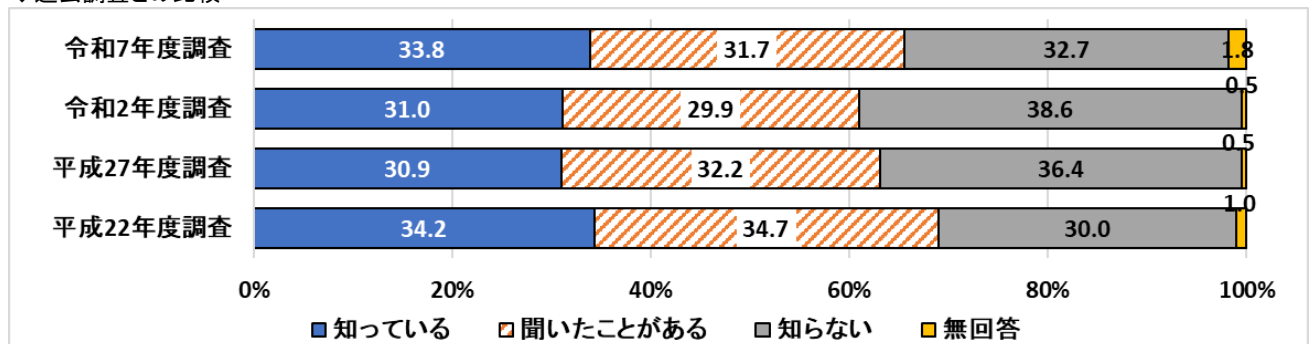
問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

B 男女共同参画社会

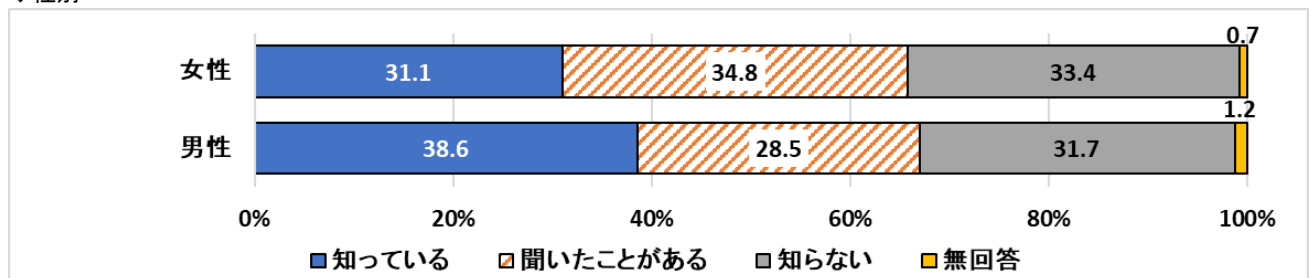
●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 65.5%となっている。前回調査から 4.6 ポイント増加した。

●年代別では、18 歳～20 歳代で「知っている」または「聞いたことがある」割合が他の年代より高くなっている。

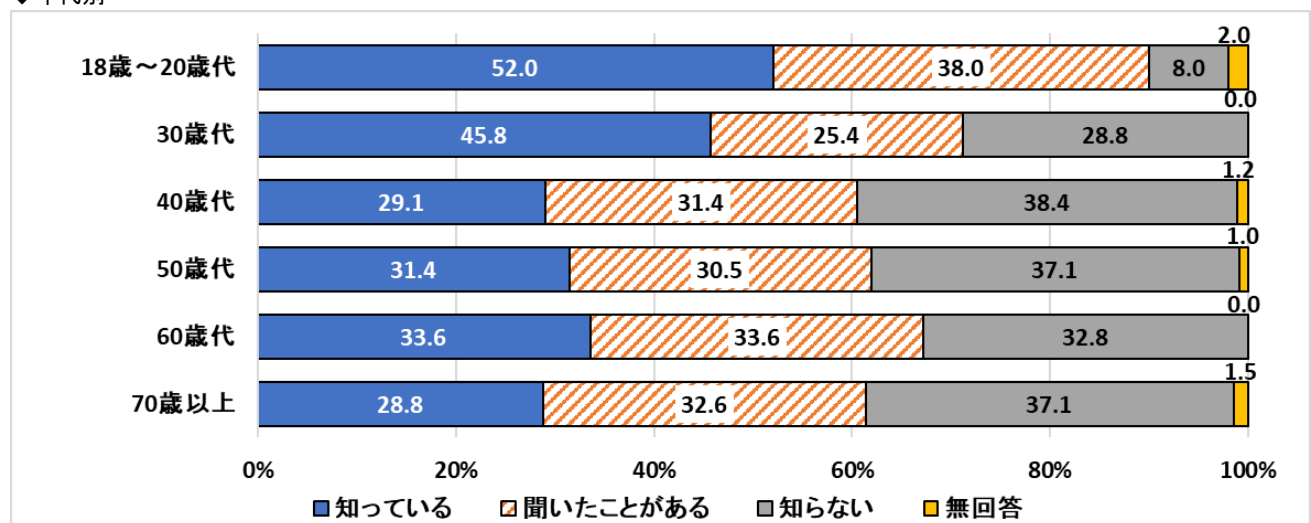
◆過去調査との比較



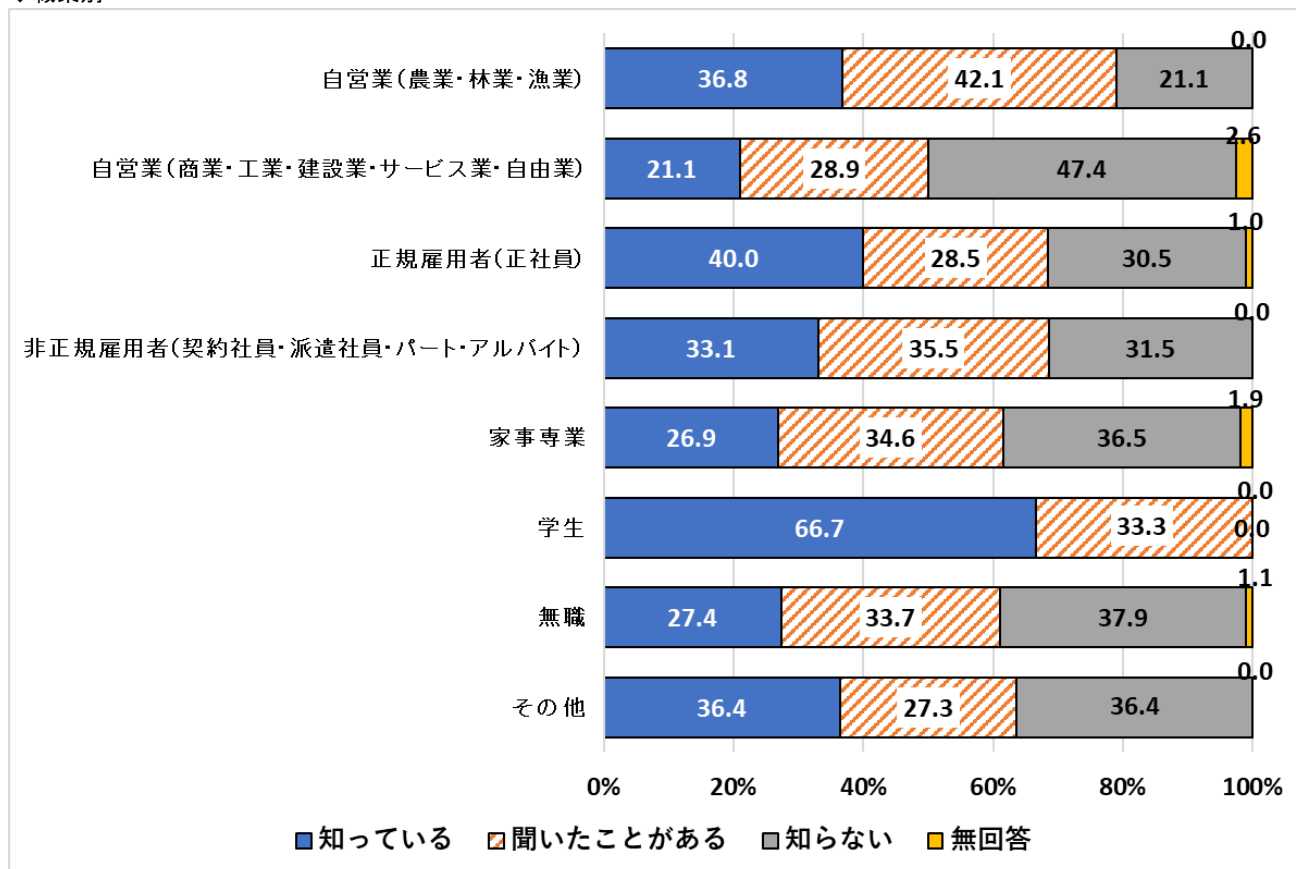
◆性別



◆年代別



◆職業別

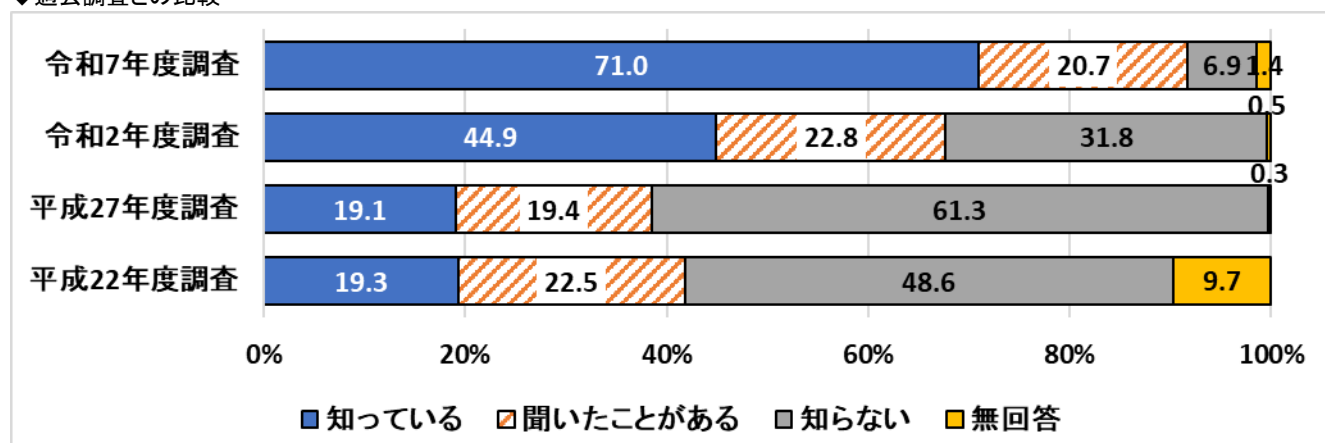


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

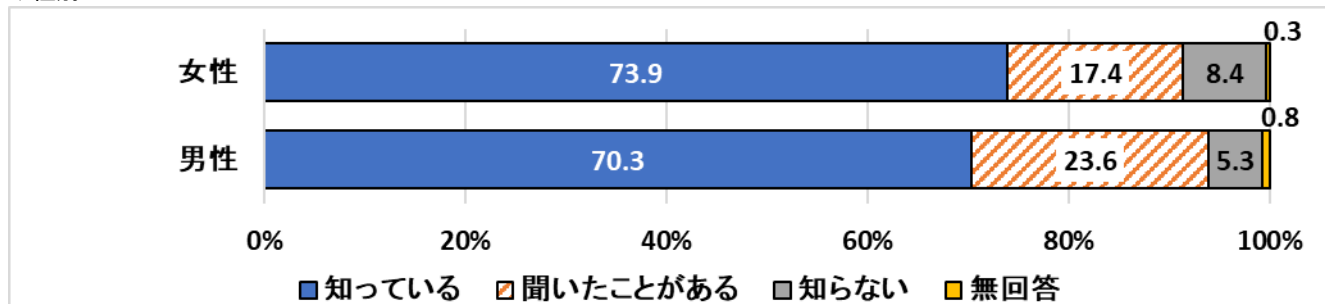
C ジェンダー

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は91.7%となっている。
- 前回調査と比べると「知っている」割合が26.1ポイント増加した。
- 性別では、「知っている」または「聞いたことがある」割合がほぼ同等であり、年代別では、70歳代以上で8割以上、それ以外の年代では9割を超えている。
- 職業別では、学生の「知っている」または「聞いたことがある」割合は100%となった。

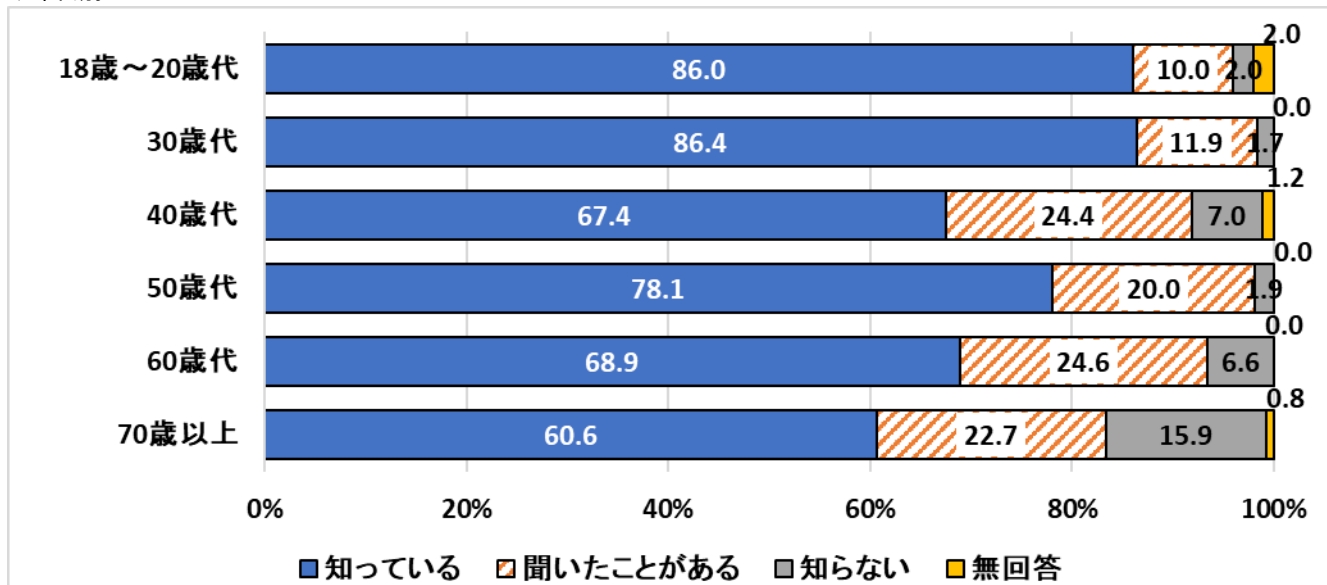
◆過去調査との比較



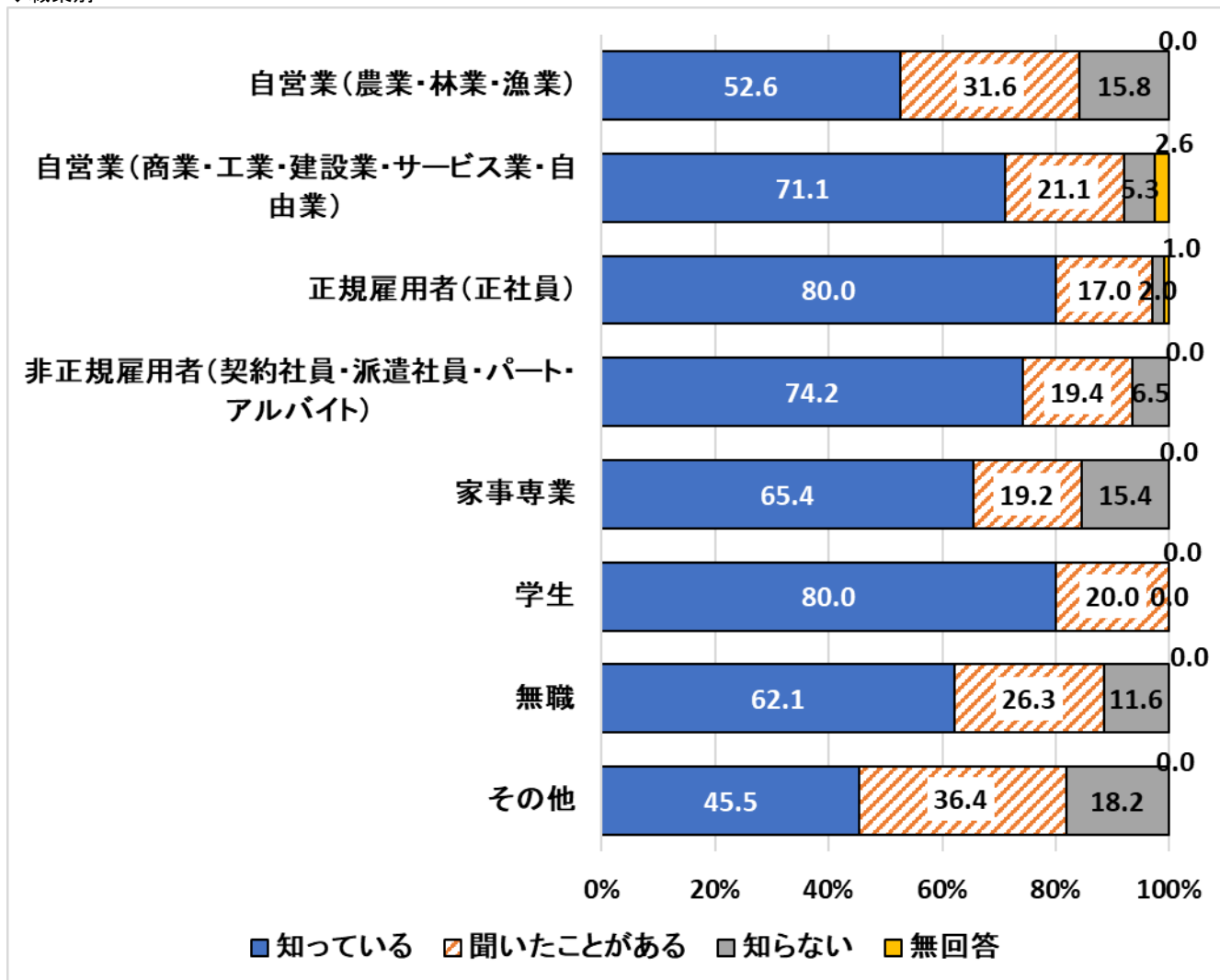
◆性別



◆年代別



◆職業別



問1 次にあげる男女共同参画に関することから言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～I それぞれについて、お答えください。

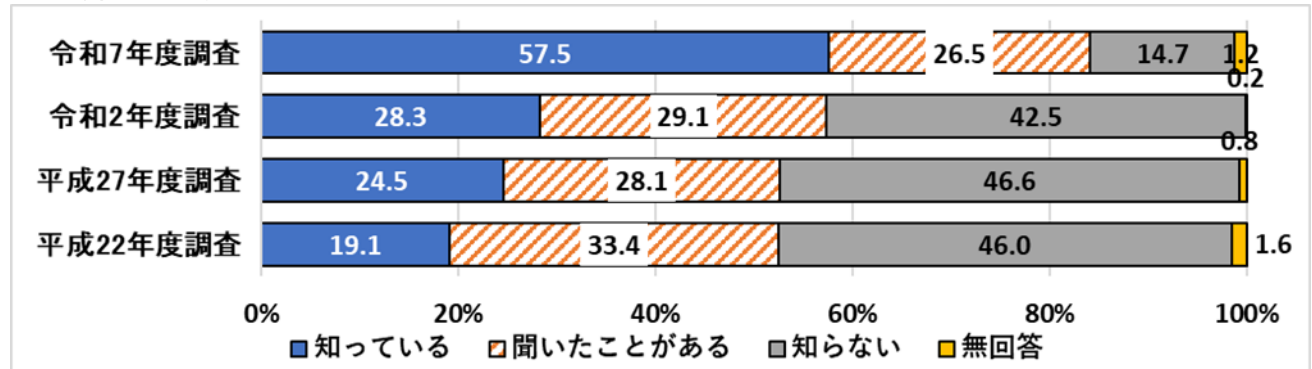
D ワーク・ライフ・バランス

●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 84.0%となっており、前回調査から 26.6 ポイント増加した。

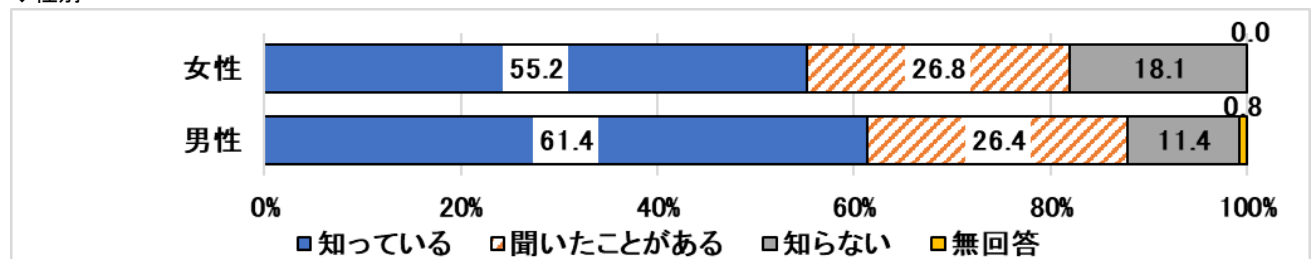
●年代別では、50 歳代以下で「知っている」が過半数を超えている。

●職業別では、学生の「知っている」または「聞いたことがある」割合は 100%となった。

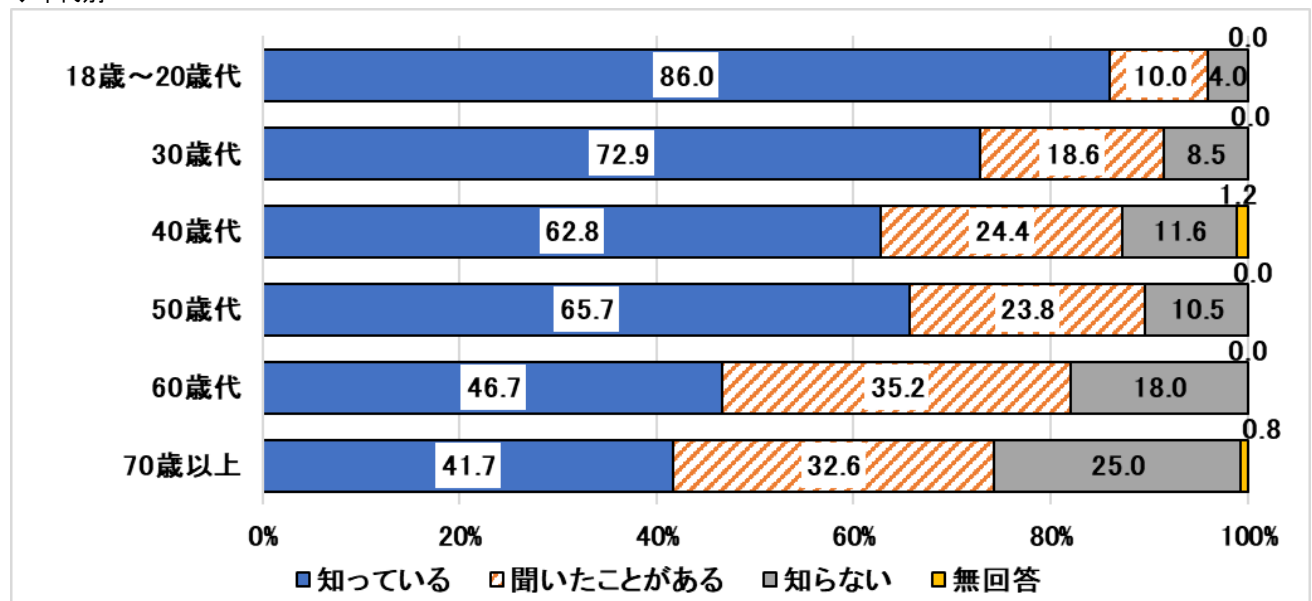
◆過去調査との比較



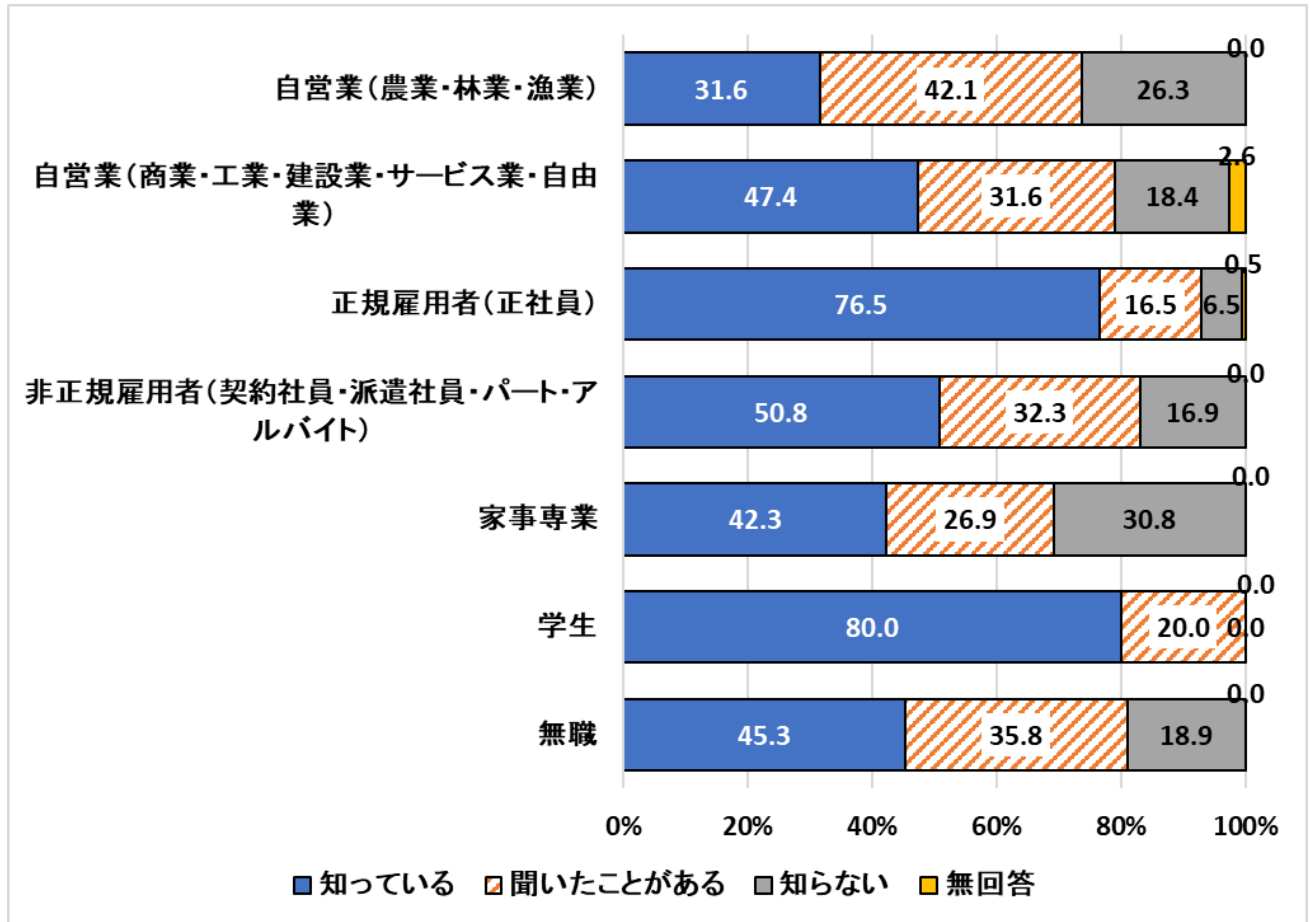
◆性別



◆年代別



◆職業別

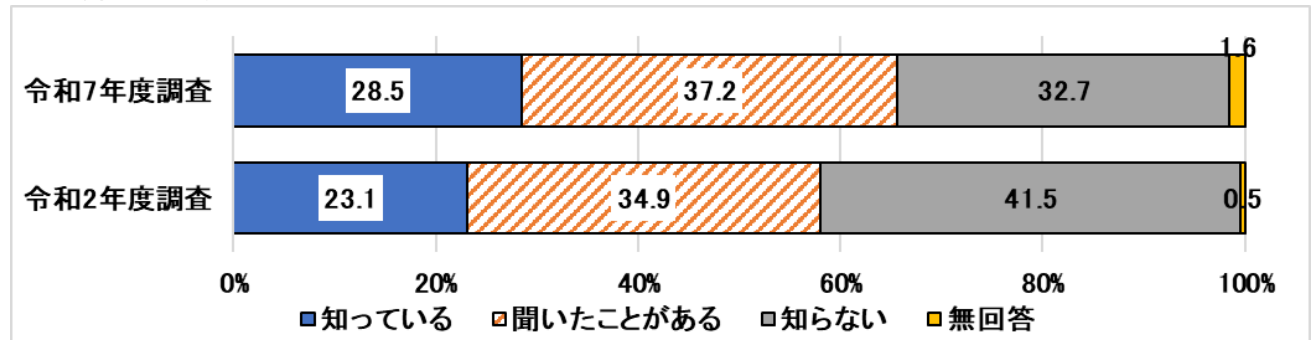


問1 次にあげる男女共同参画に関することから言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

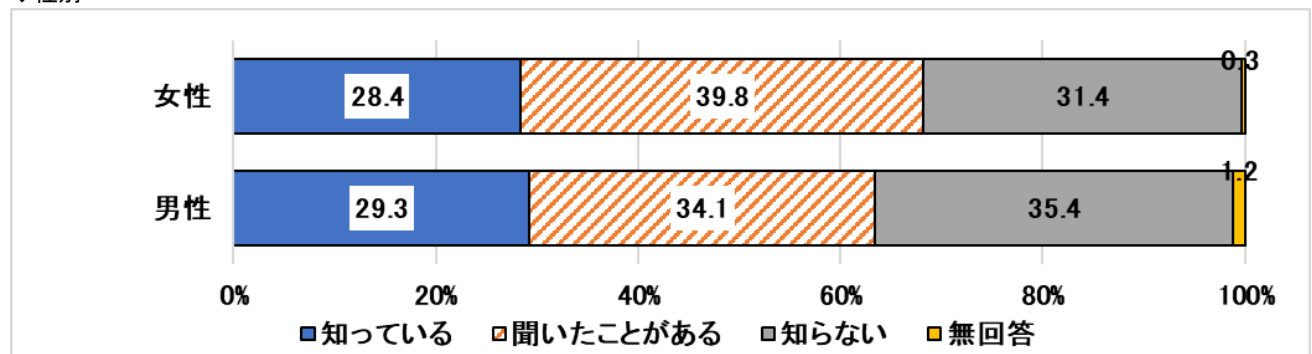
E 女性活躍推進法

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は65.7%で前回調査から7.7ポイント増加している。
- 年代別では、年代が低いほど「知っている」割合が高い傾向が見てとれる。

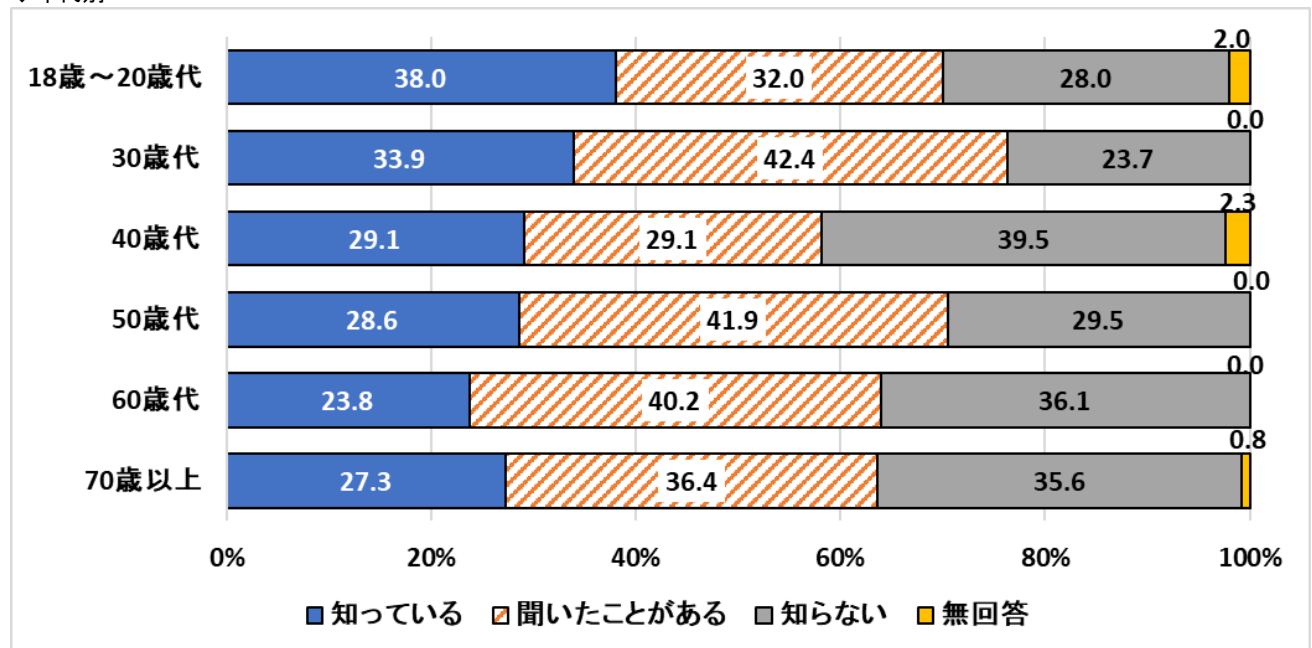
◆過去調査との比較



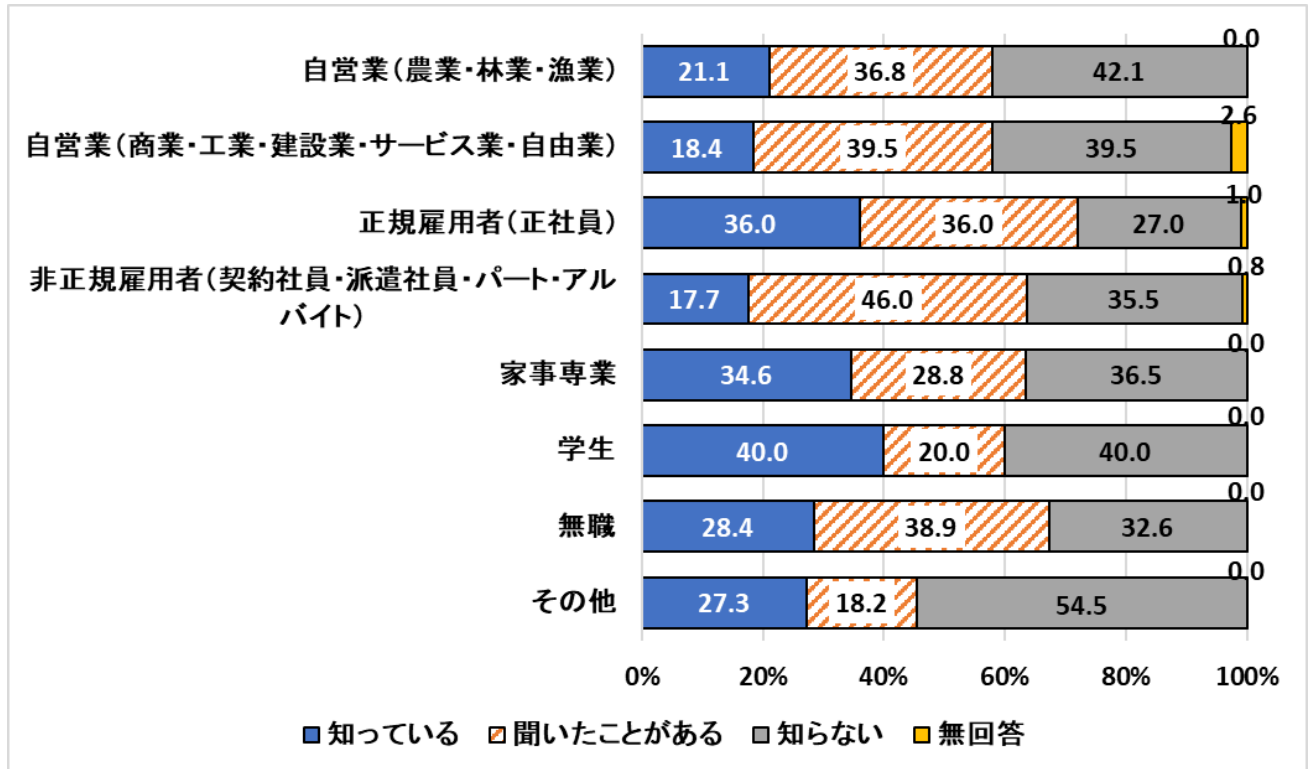
◆性別



◆年代別



◆職業別



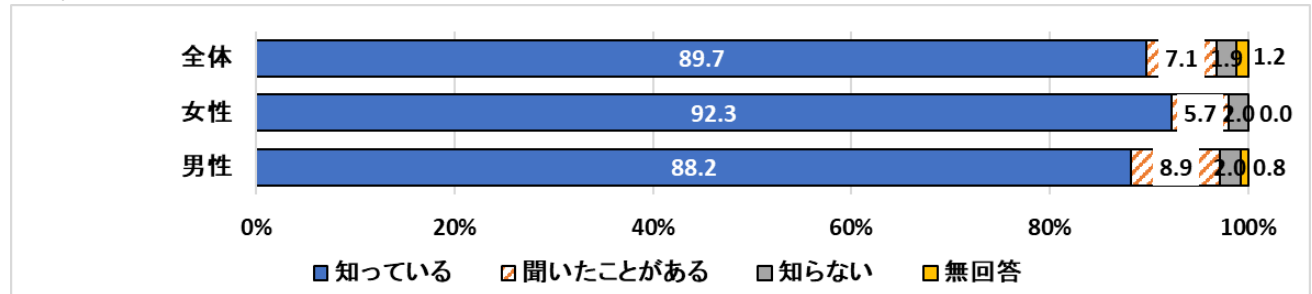
問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～E それぞれについて、お答えください。

F DV(配偶者(パートナー)への暴力)

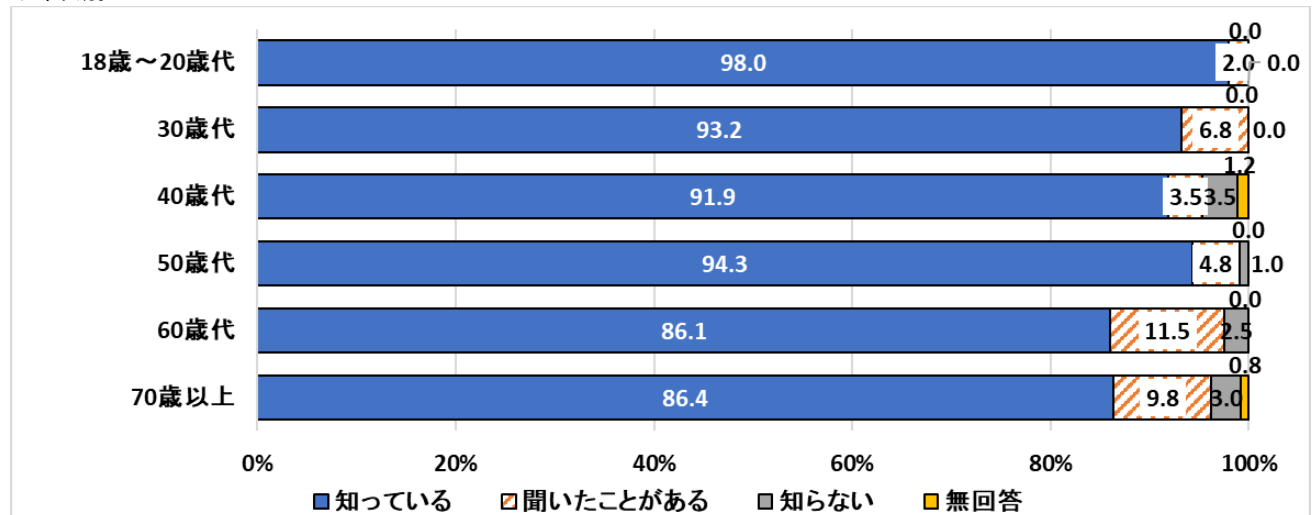
●「知っている」または「聞いたことがある」割合は 96.8%となっている。

●性別、年代別ともに「知っている」割合は高く、「聞いたことがある」まで含めるとすべて 9 割以上の割合となっている。

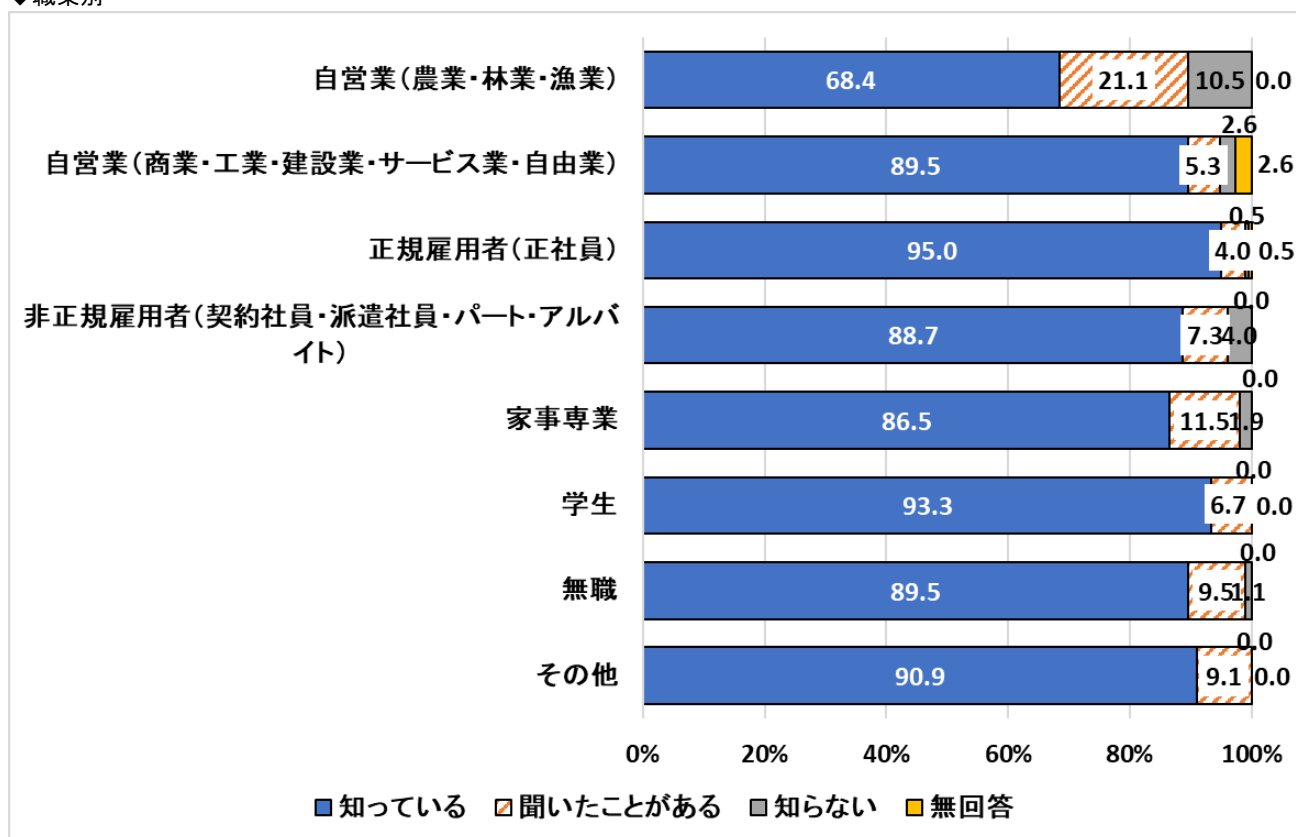
◆全体・性別



◆年代別



◆職業別



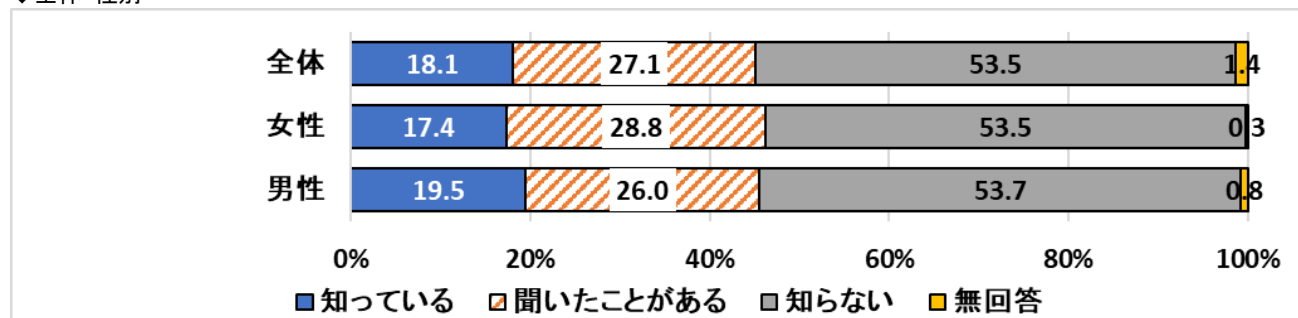
問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

G ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

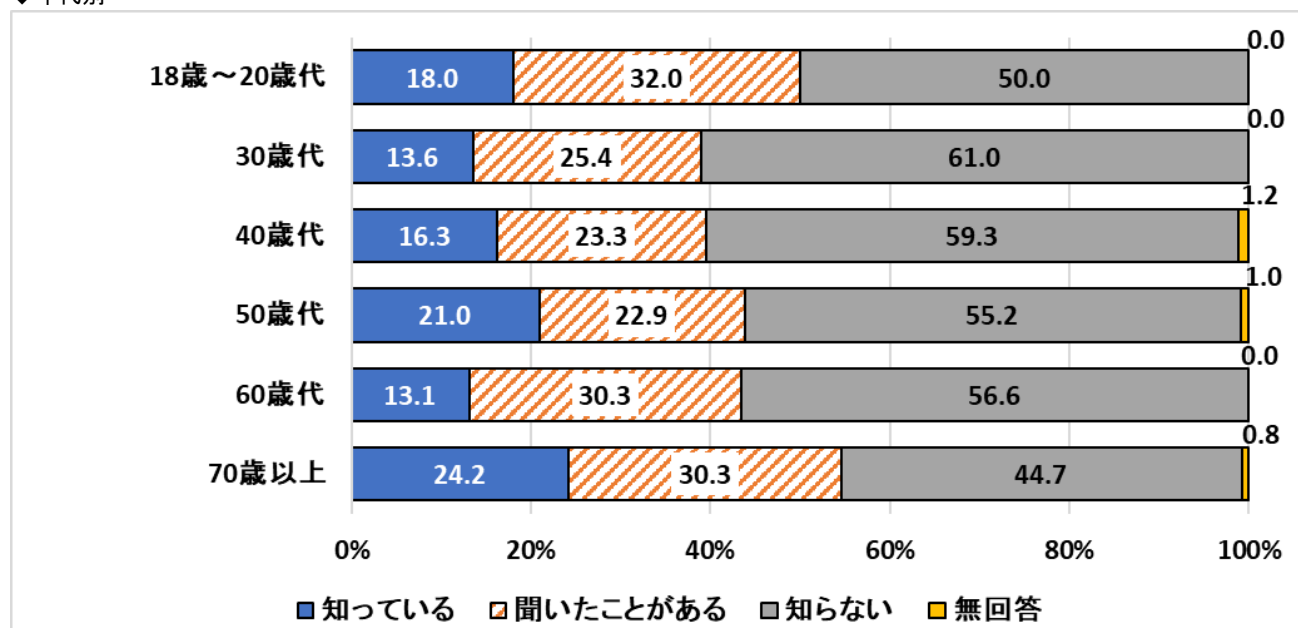
●「知っている」または「聞いたことがある」割合は45.2%となっている。

●年代別では、18歳～20歳代と70歳代以上で「知っている」または「聞いたことがある」割合が過半数を超えている。

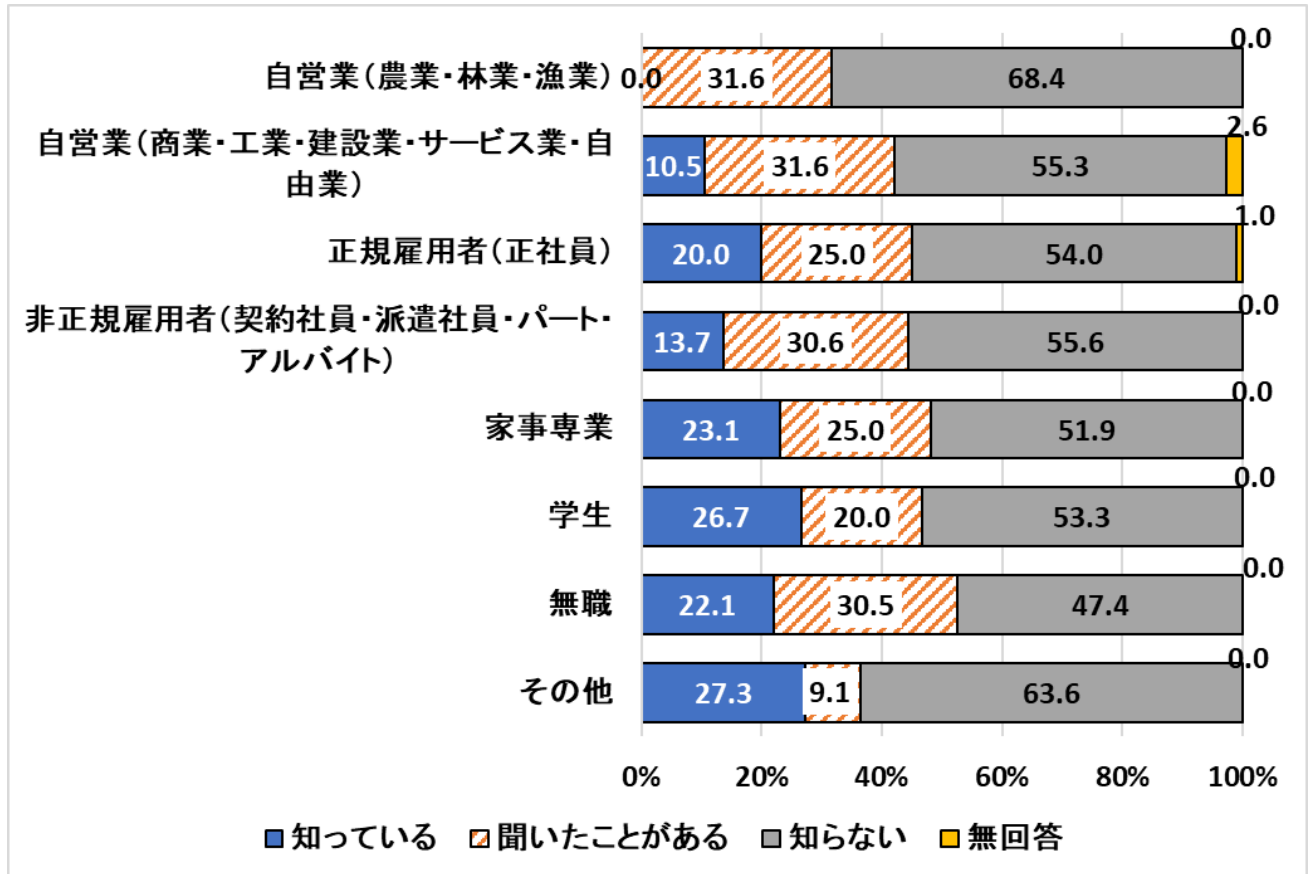
◆全体・性別



◆年代別



◆職業別

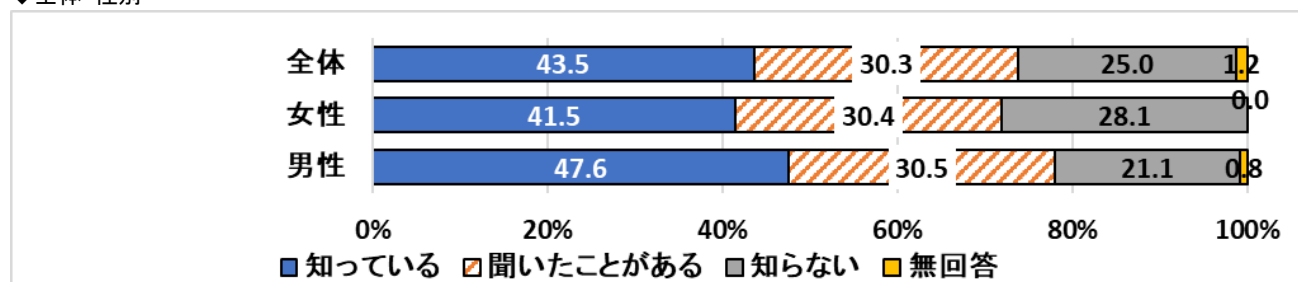


問1 次にあげる男女共同参画に関することがらや言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

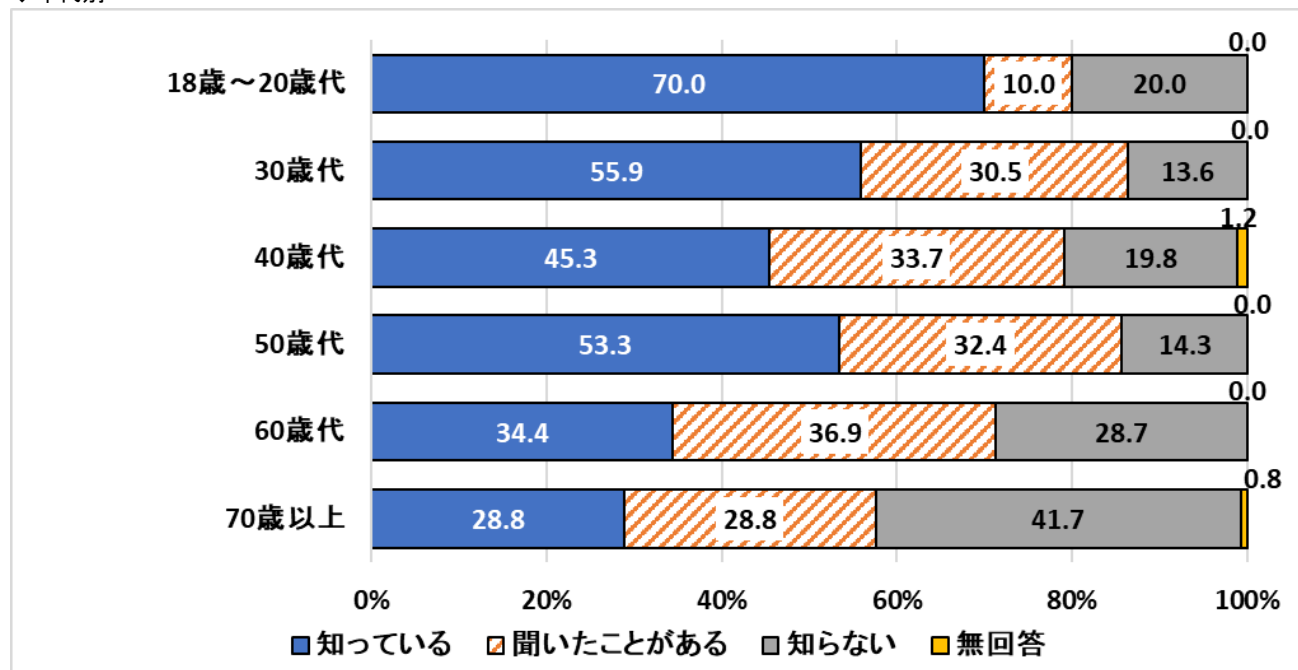
H ダイバーシティ(多様性)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は73.8%となっている。
- 性別では、「知っている」割合は男性が女性を6.2ポイント上回っている。
- 年代別では、「知っている」割合は年代が低いほど高く、年代が上がるにつれ低くなる傾向が見てとれる。

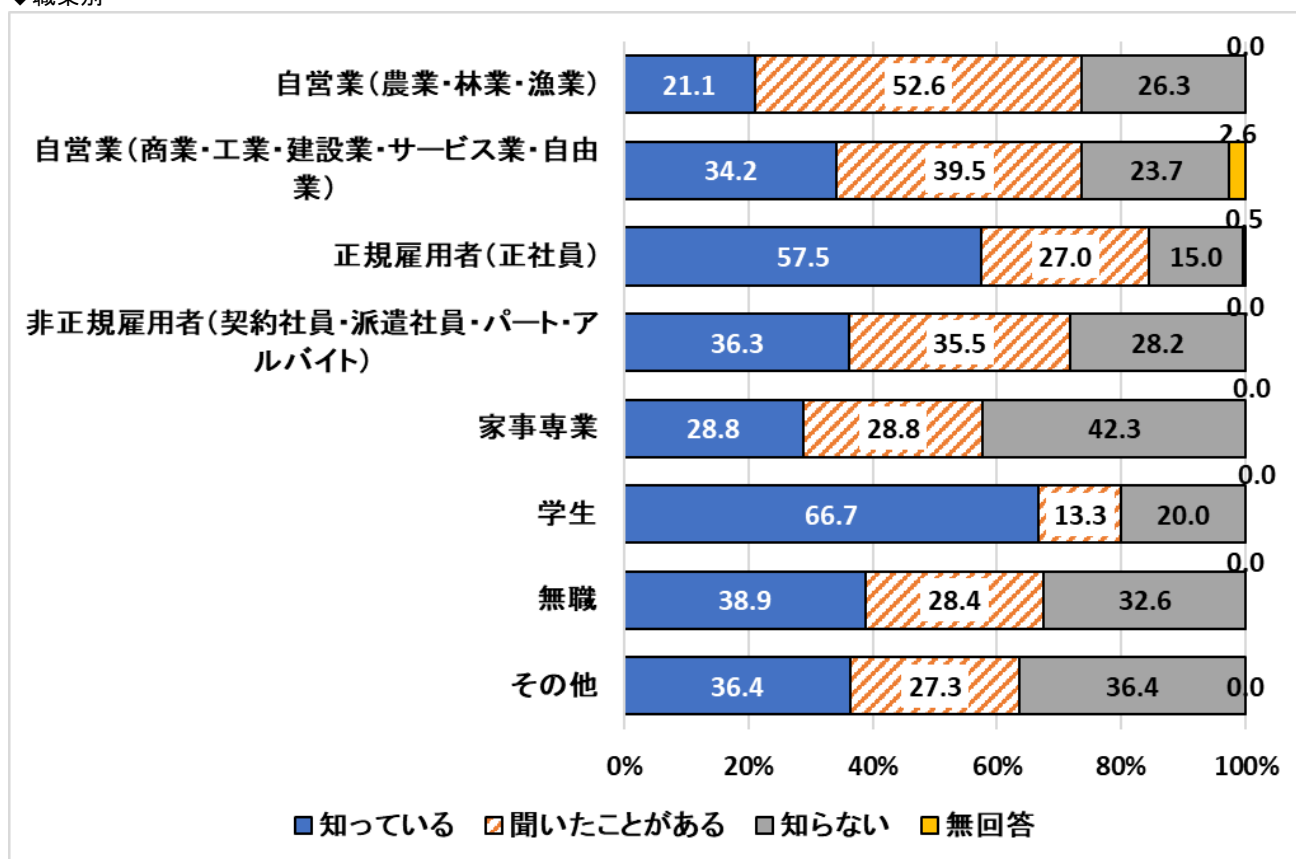
◆全体・性別



◆年代別



◆職業別

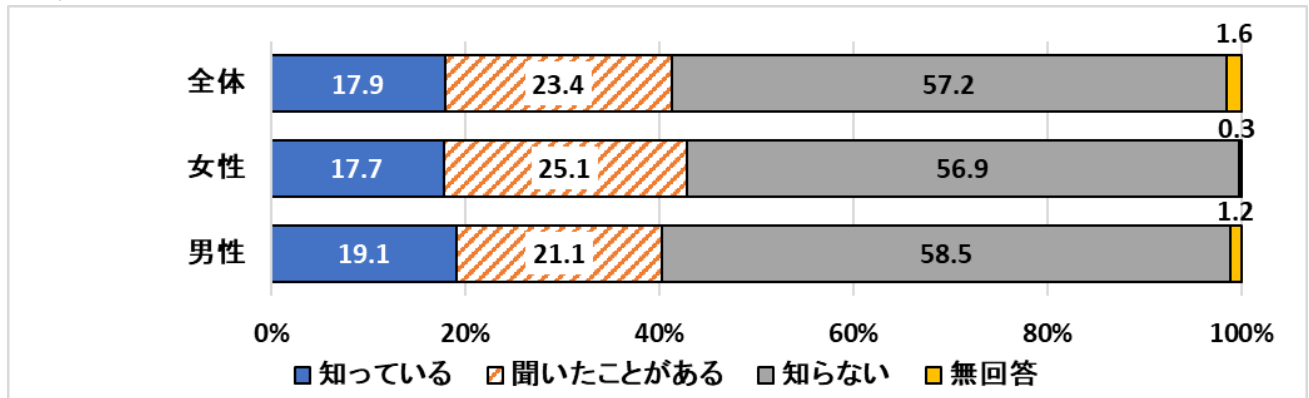


問1 次にあげる男女共同参画に関することから言葉についてご存知ですか。あるいは聞いたことがありますか。A～Iそれぞれについて、お答えください。

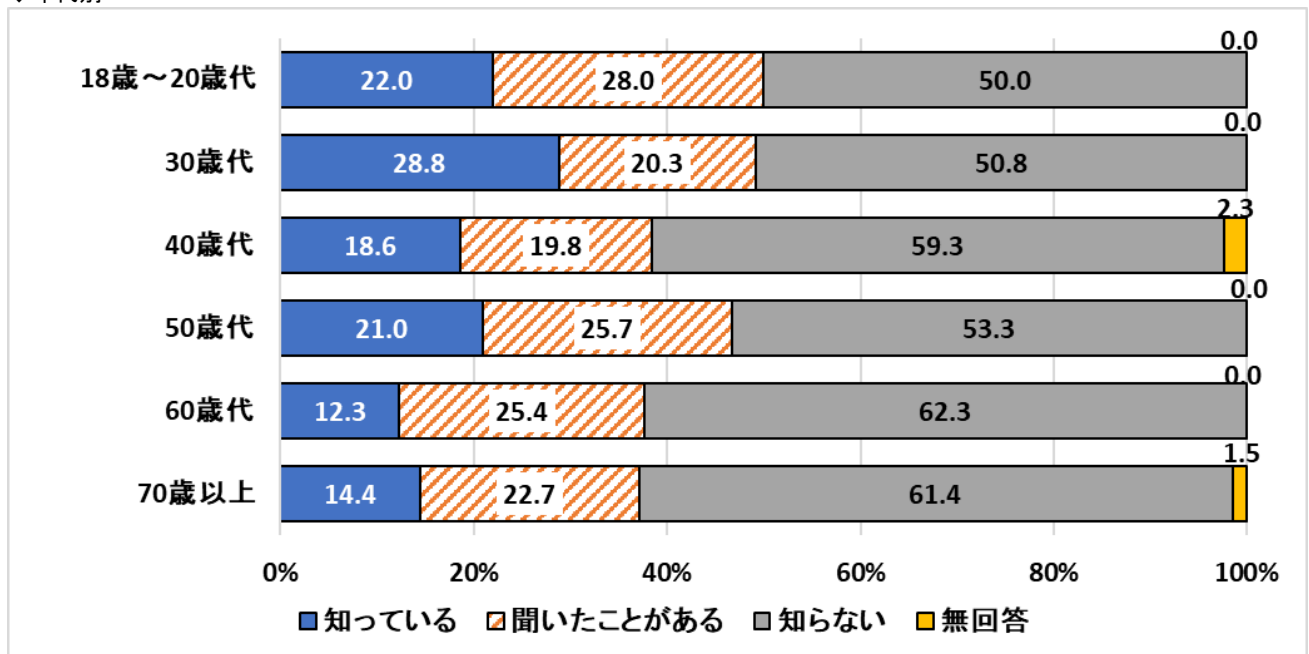
I アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は41.3%となっている。
- 性別、年代別、職業別ともに「知らない」割合が過半数を占めている。

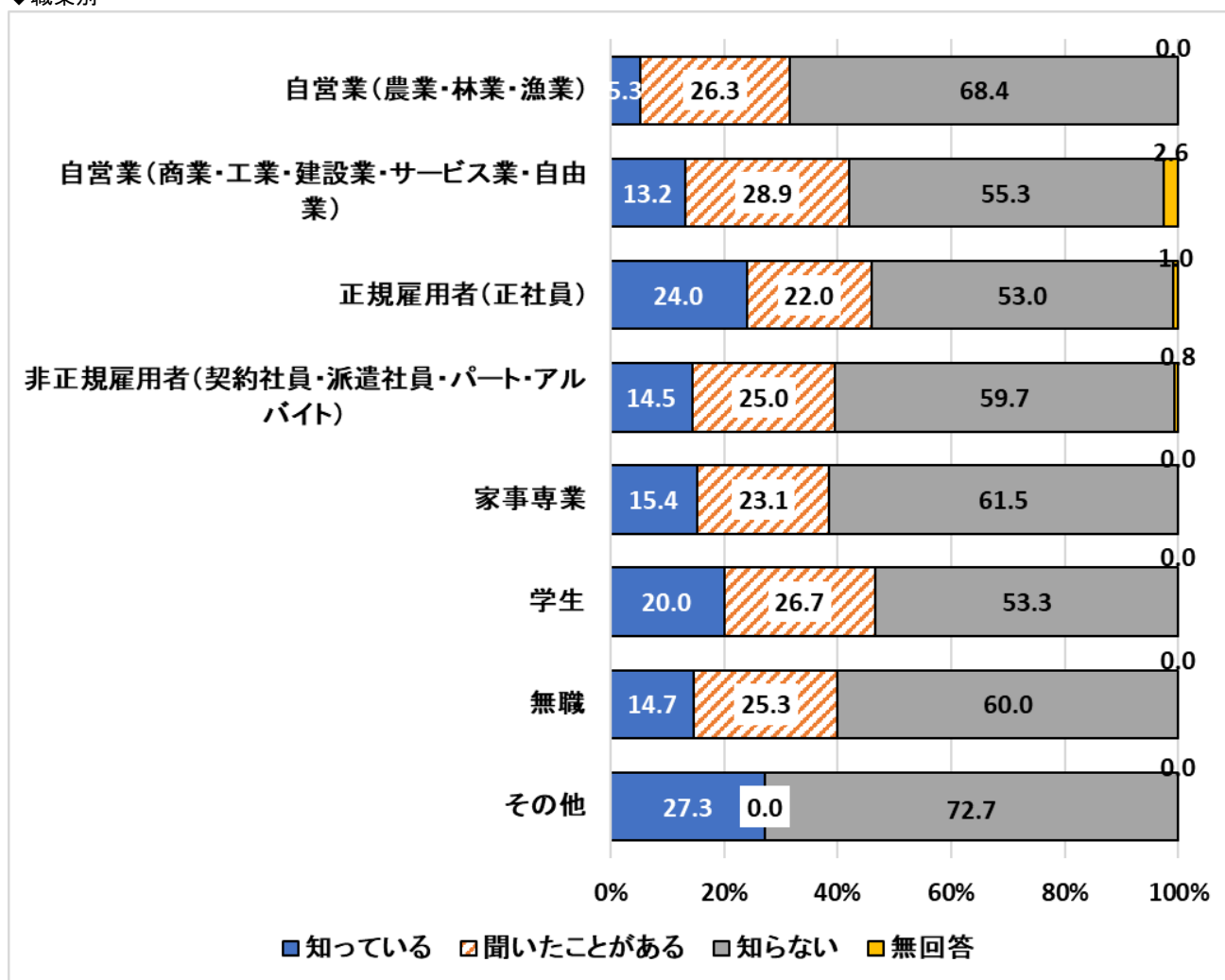
◆全体・性別



◆年代別



◆職業別

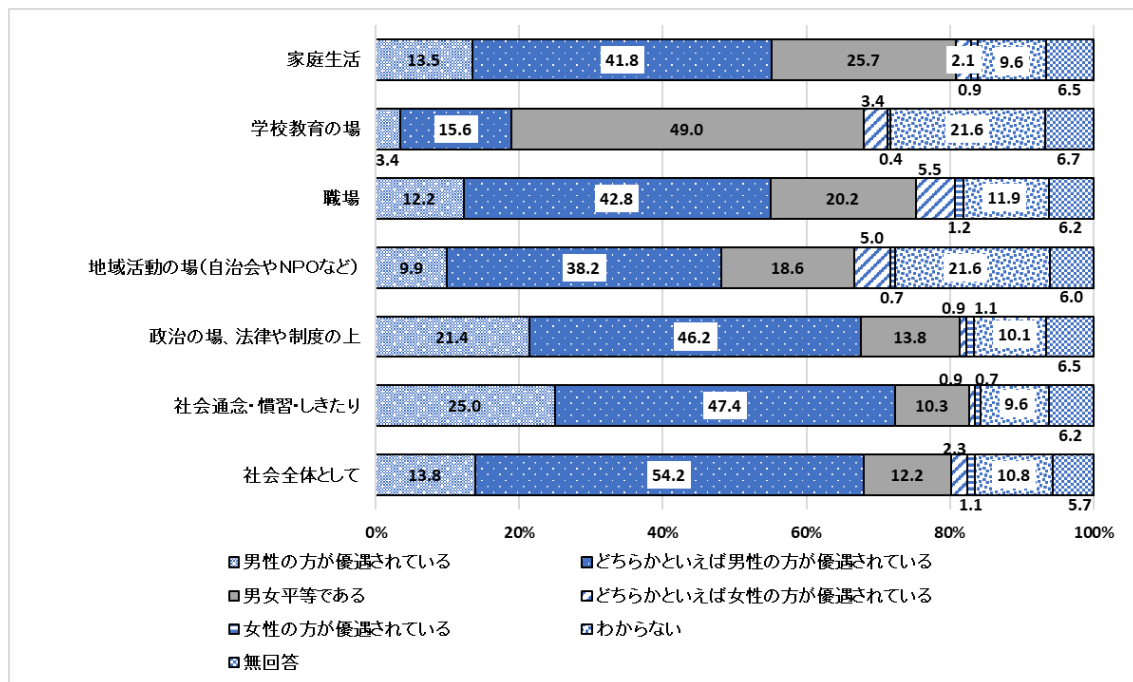


2 世の中の男女平等感について

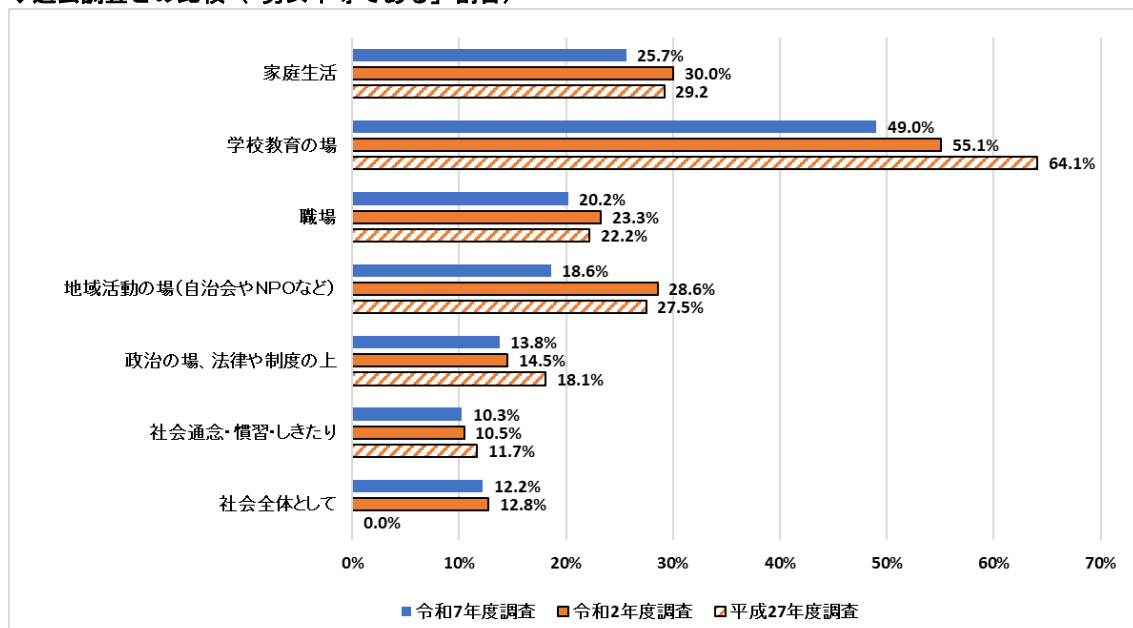
男女平等感 「社会全体が男女平等である」12.2%

問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

●「男女平等」と回答した割合は、「学校教育の場」で 49.0%、「家庭生活」で 25.7%、「職場」で 20.2%、「地域活動の場」で 18.6%、「政治の場、法律や制度の上」で 13.8%、「社会全体として」で 12.2%、「社会通念・慣習・しきたり」で 10.3%となっている。



◆過去調査との比較（「男女平等である」割合）



問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

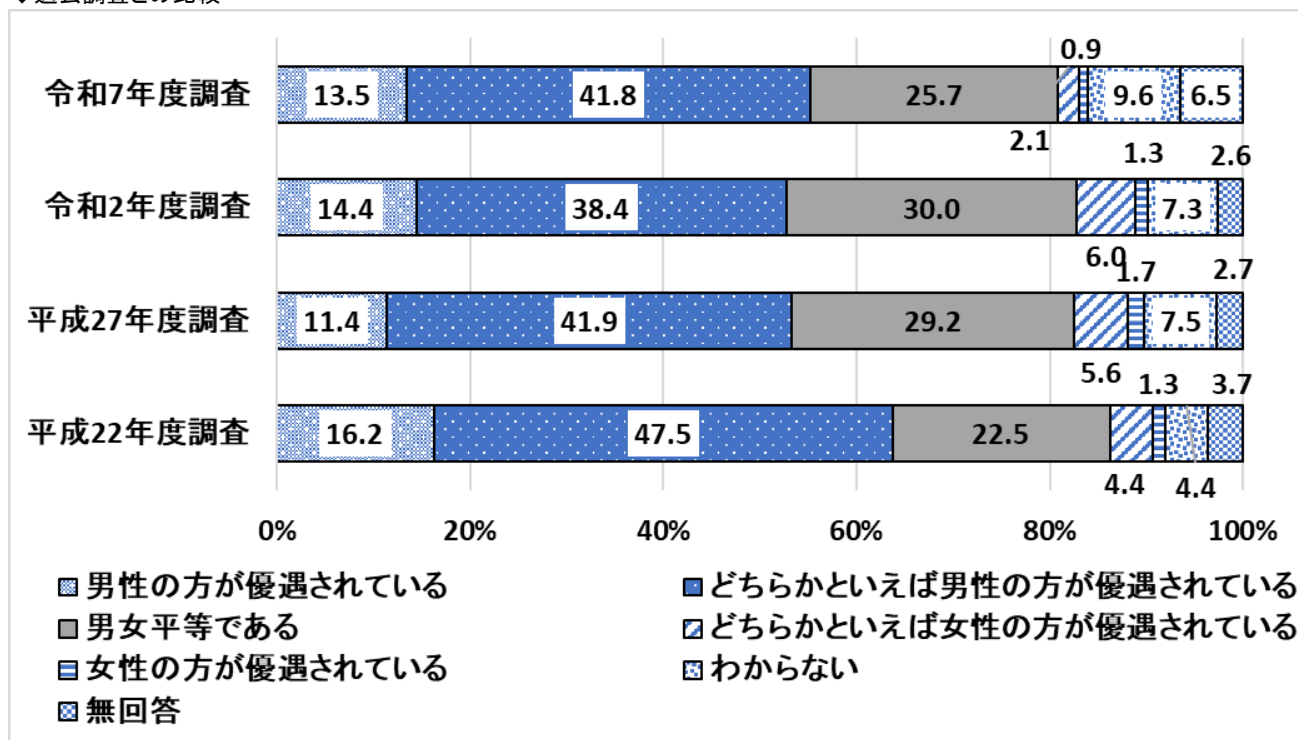
A 家庭生活

●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は55.3%となっている。

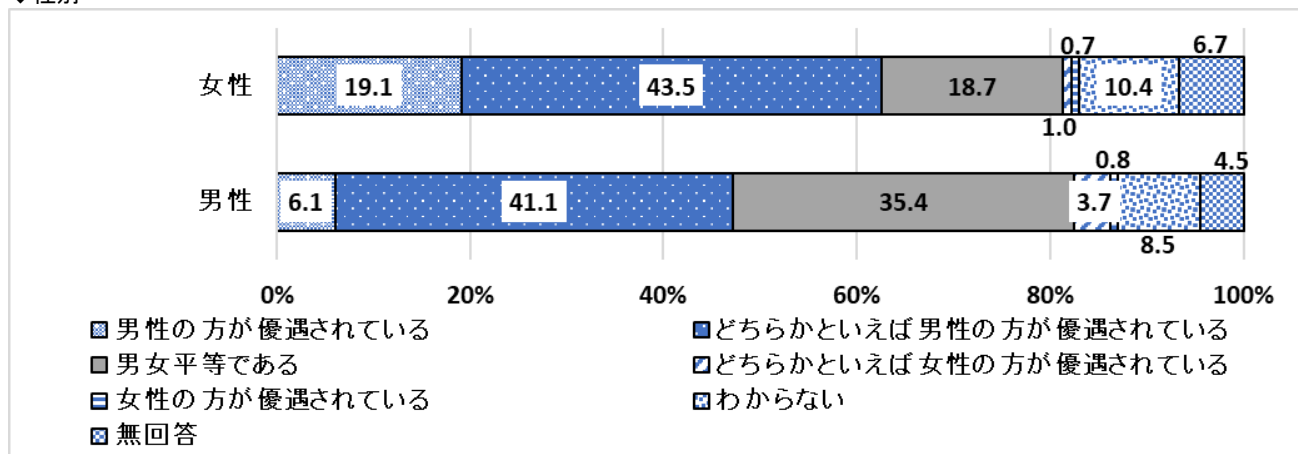
●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性 62.6%、男性 47.2%で15.4ポイントの差となっており、男女差が大きい。

●内閣府調査では、「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は60.7%となっている。

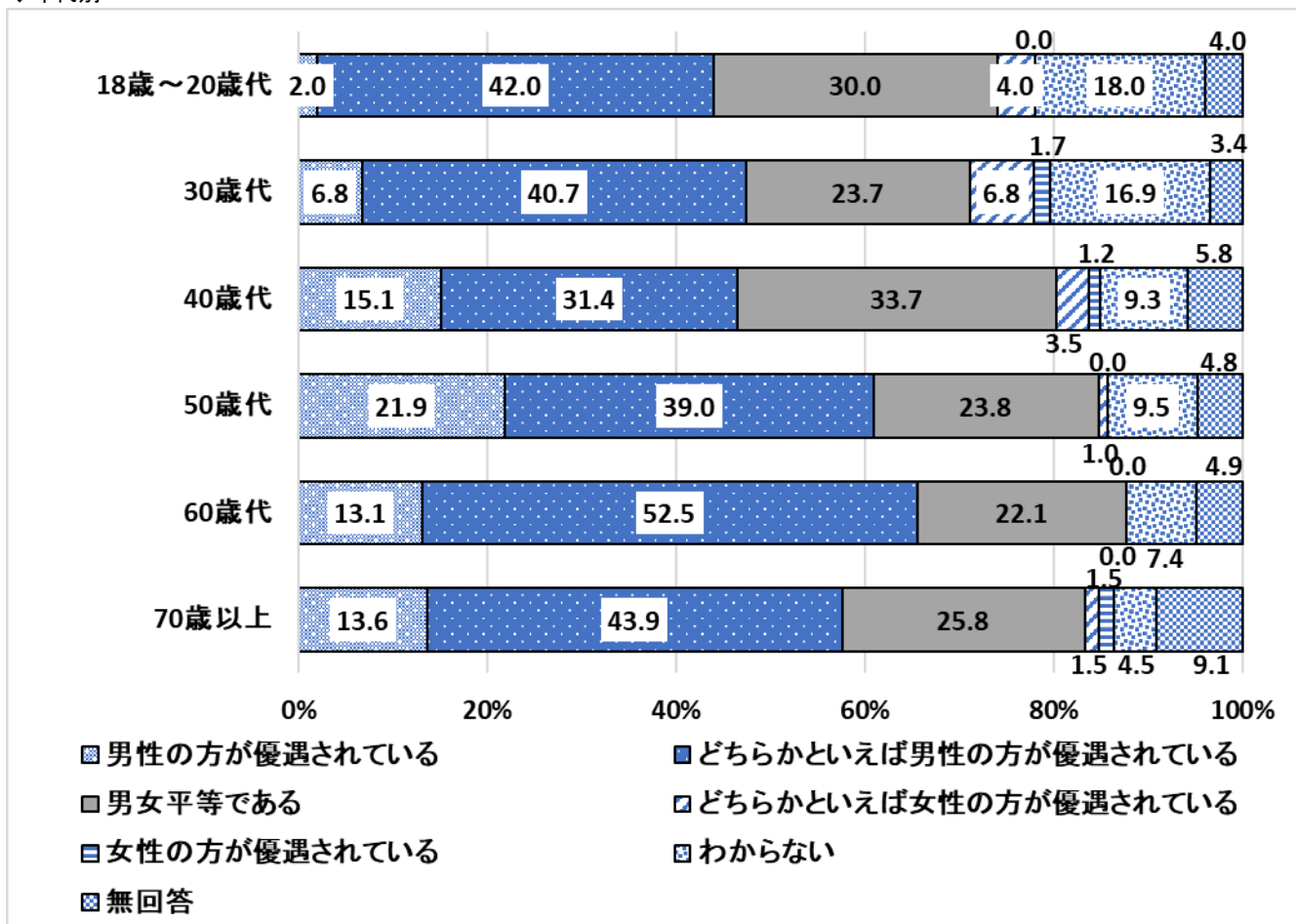
◆過去調査との比較



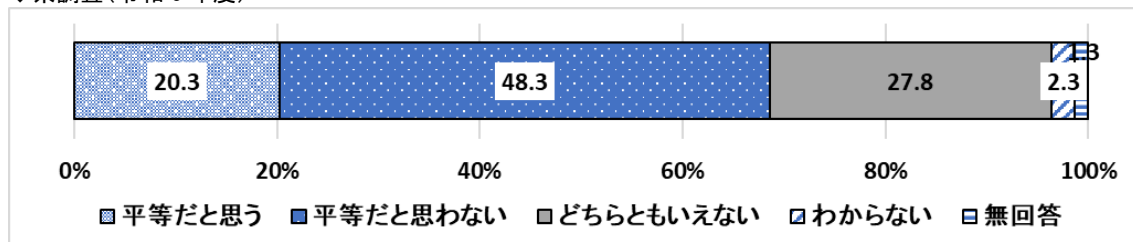
◆性別



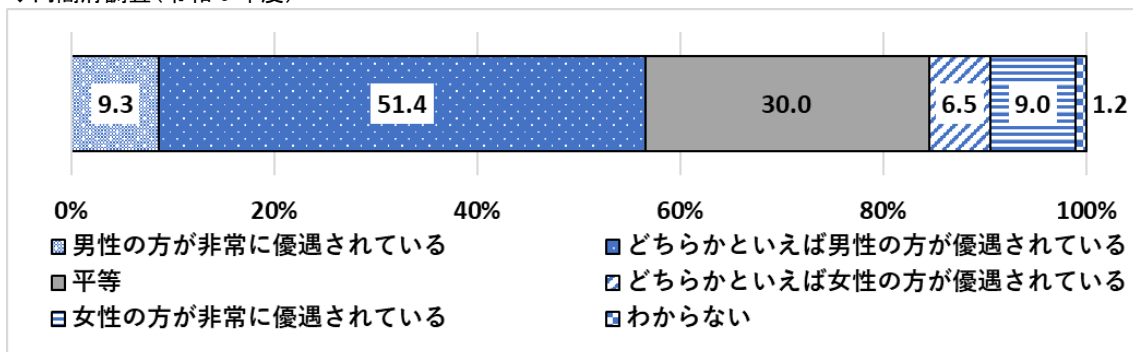
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



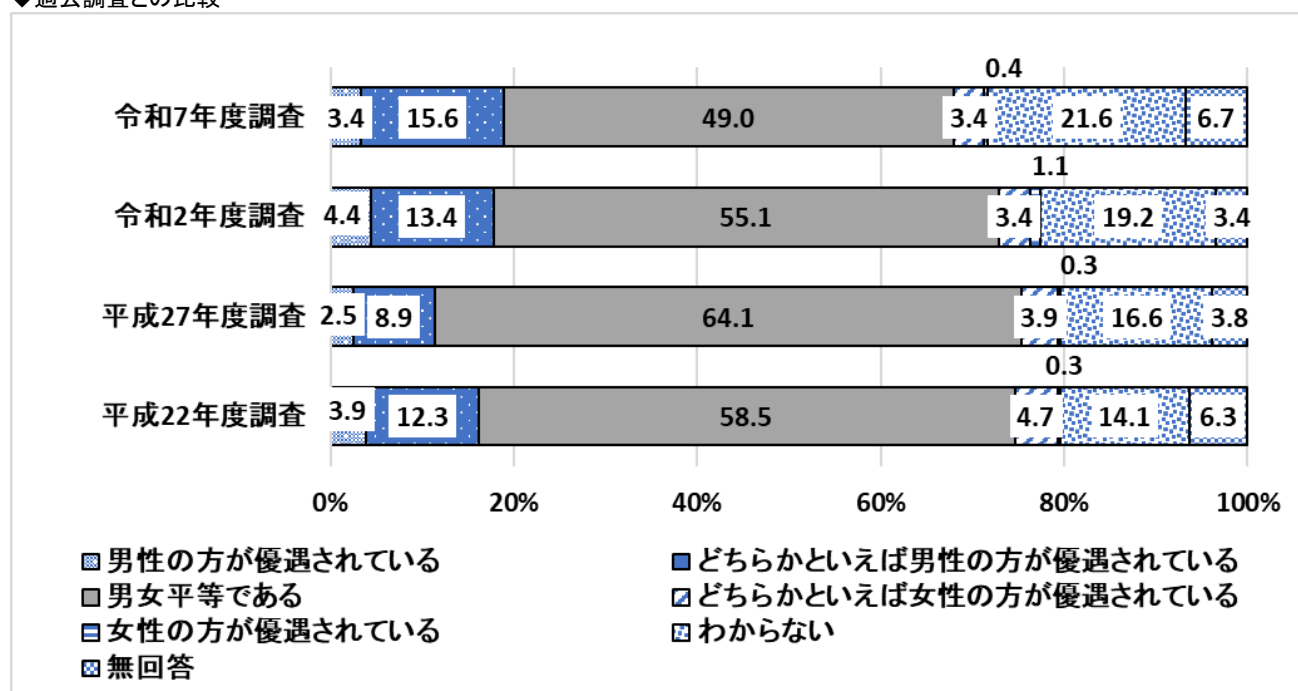
問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

B 学校教育の場

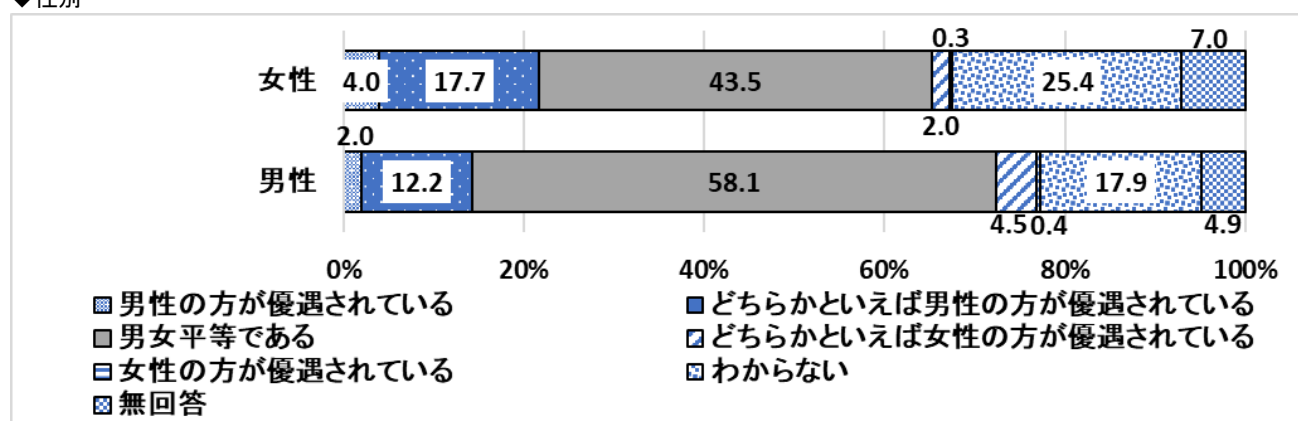
●「男女平等である」割合が49.0%を占め、他の分野に比べ高くなっているが、前回調査より6.1ポイント減少している。

●性別では、「男女平等である」割合は女性43.5%、男性58.1%で14.6ポイントの差となっている。

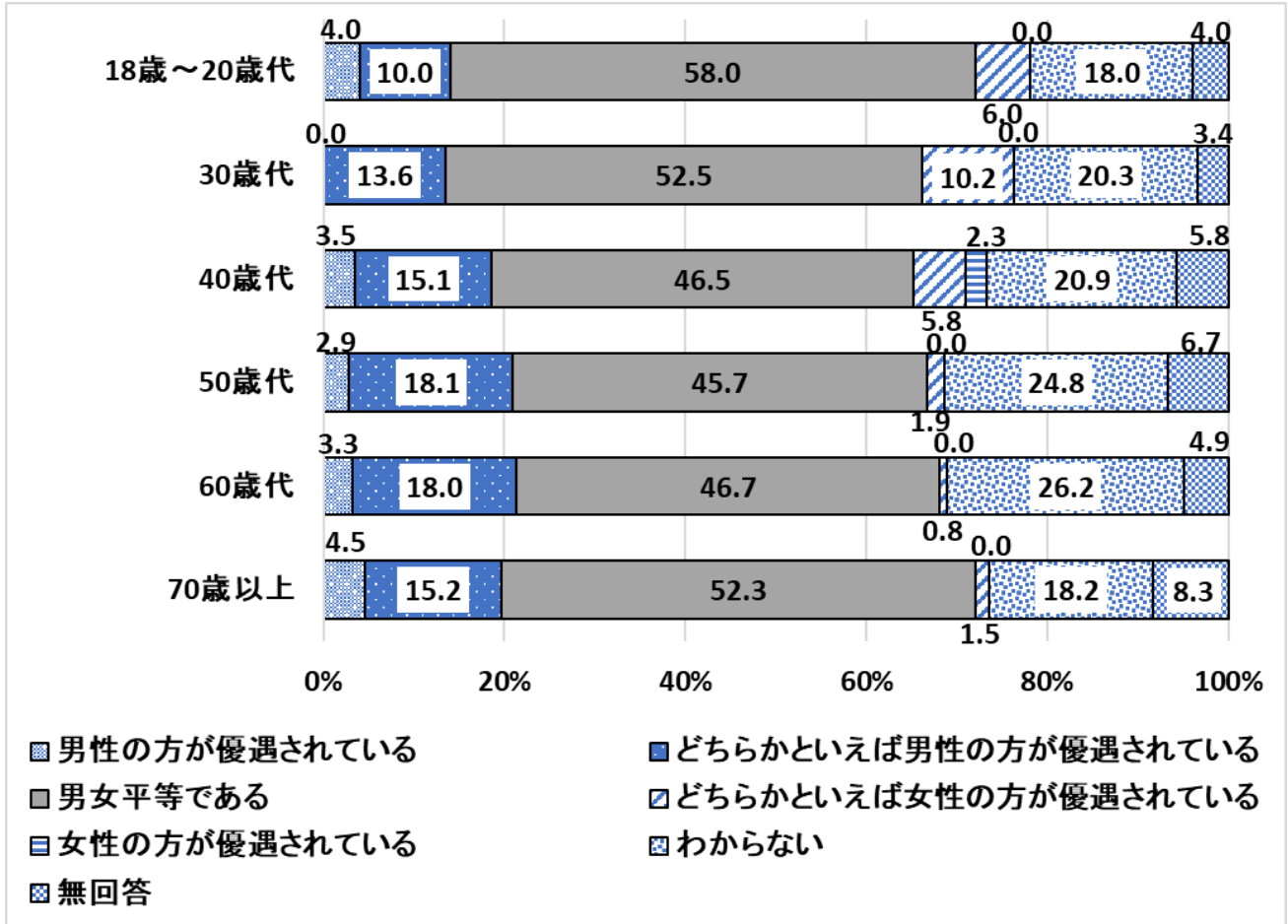
◆過去調査との比較



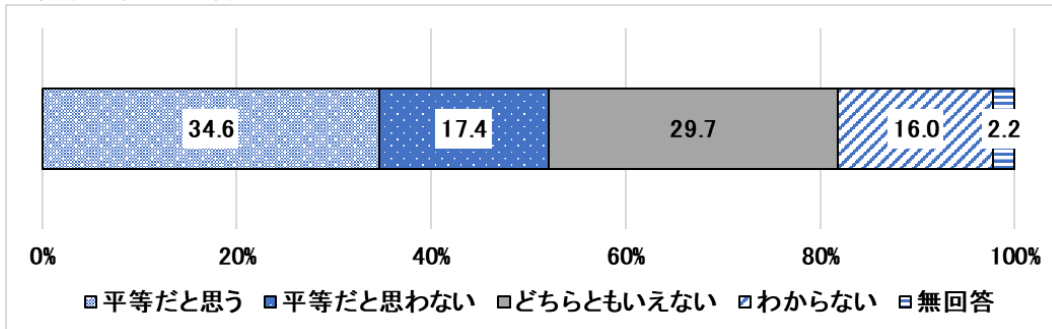
◆性別



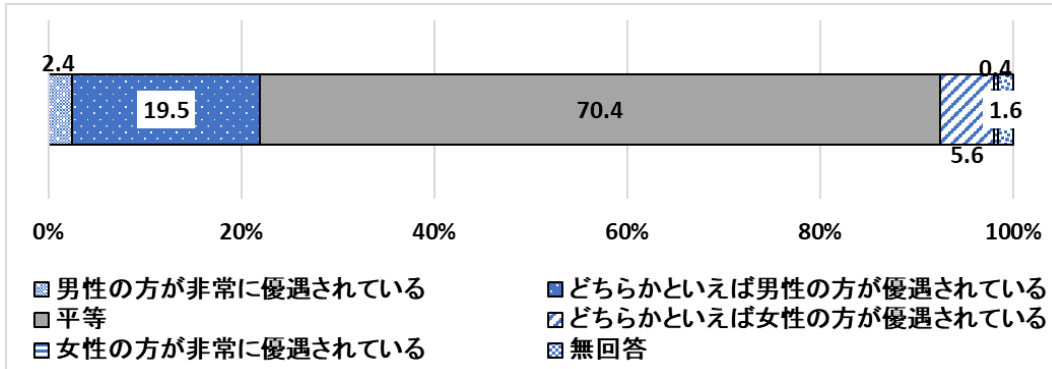
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



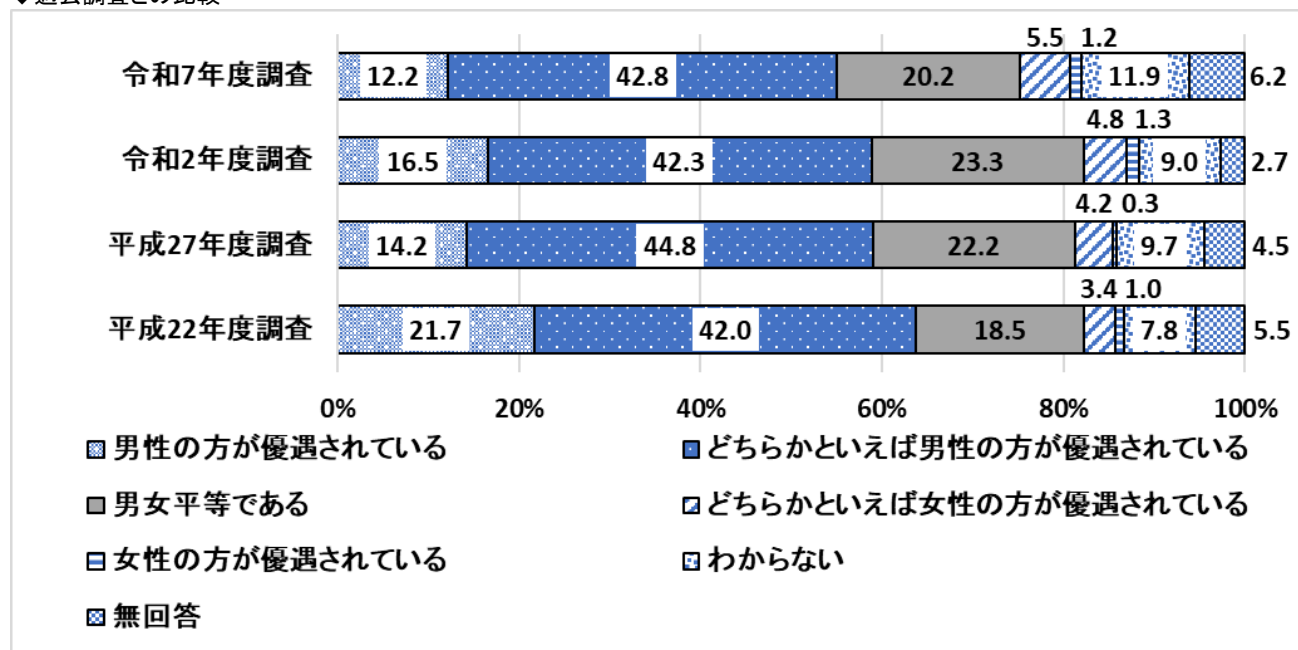
問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

C 職場

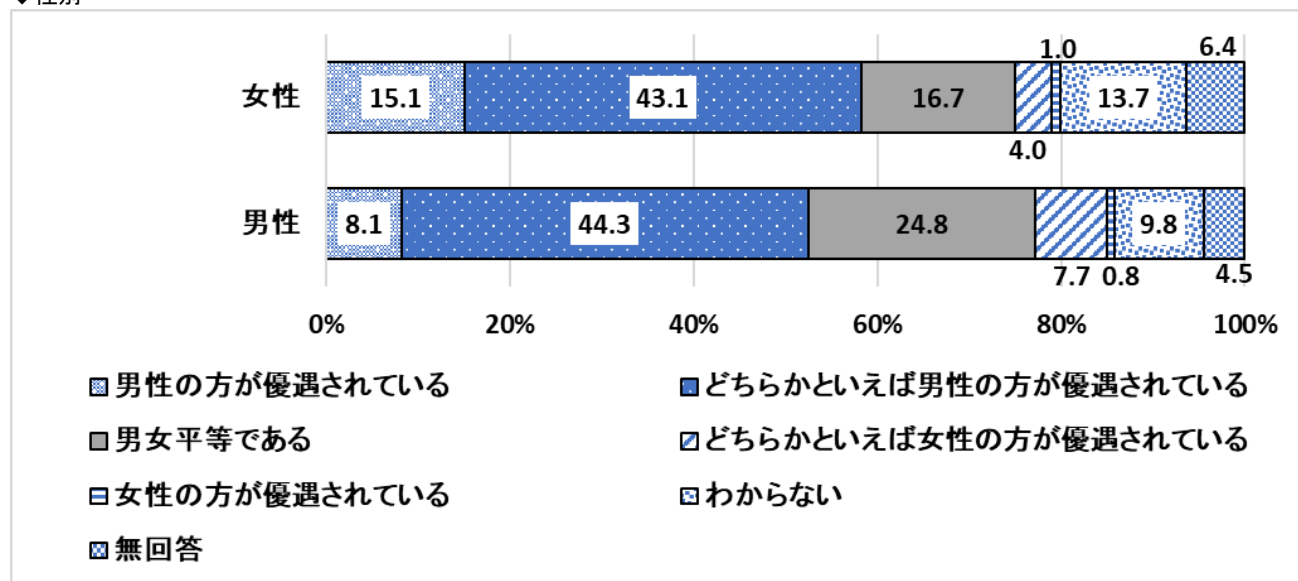
●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は55.0%となっている。

●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性 58.2%、男性 52.4%で 5.8 ポイントの差となっている。

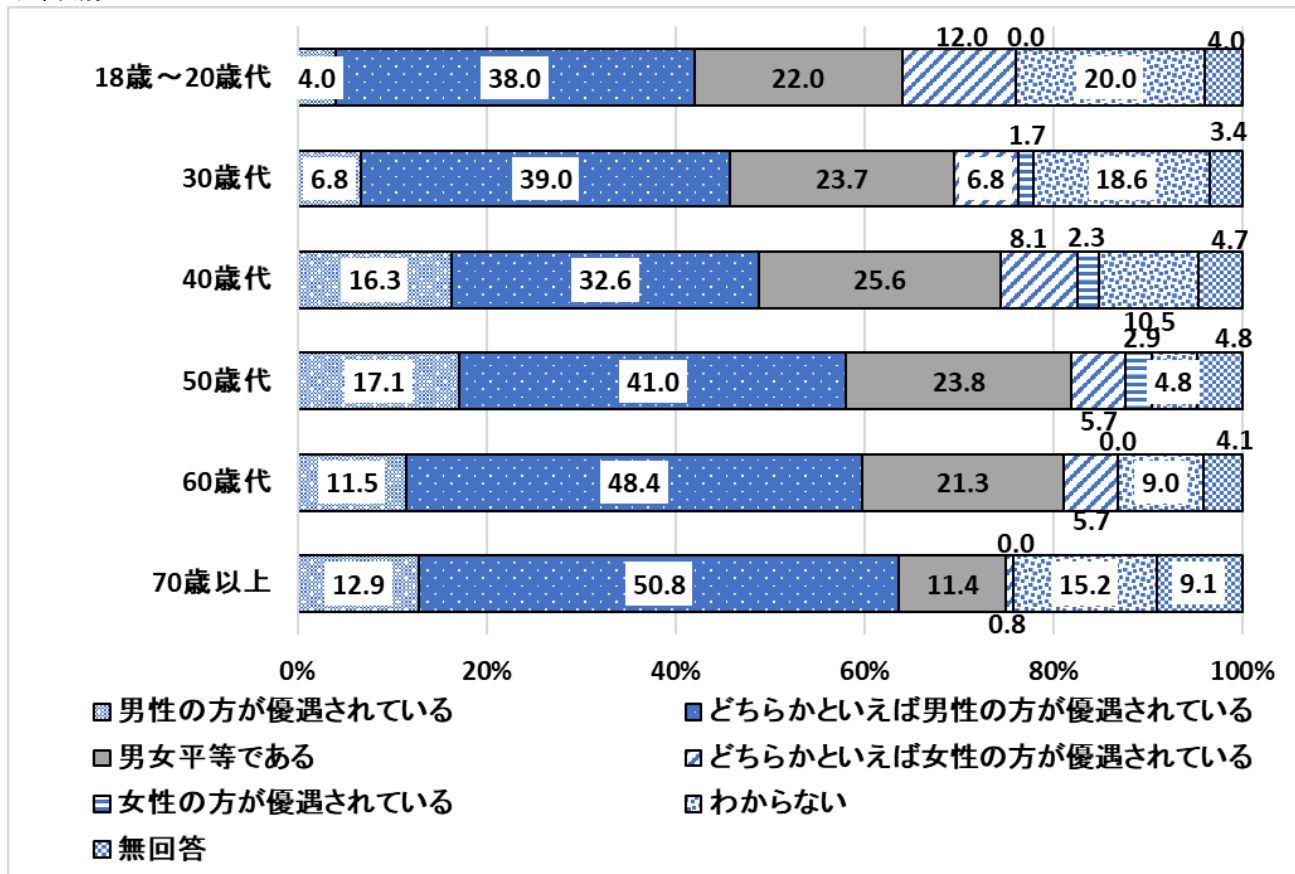
◆過去調査との比較



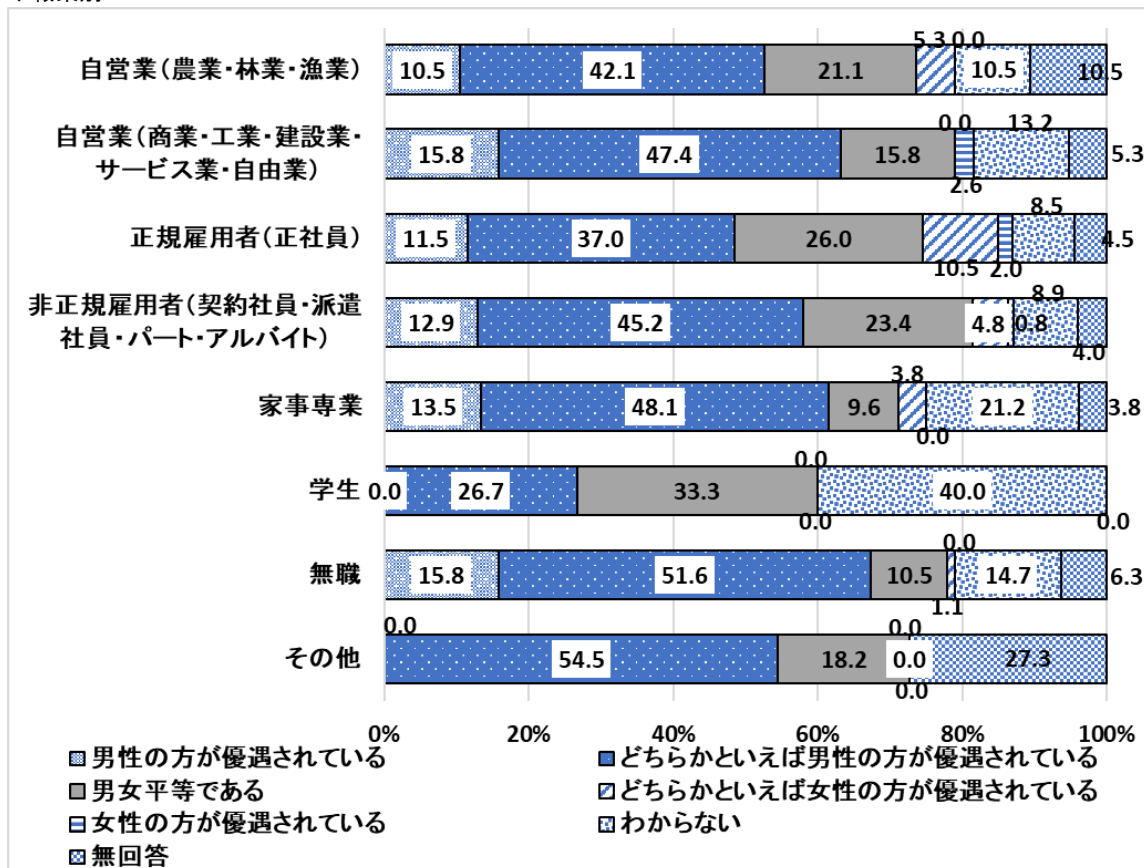
◆性別



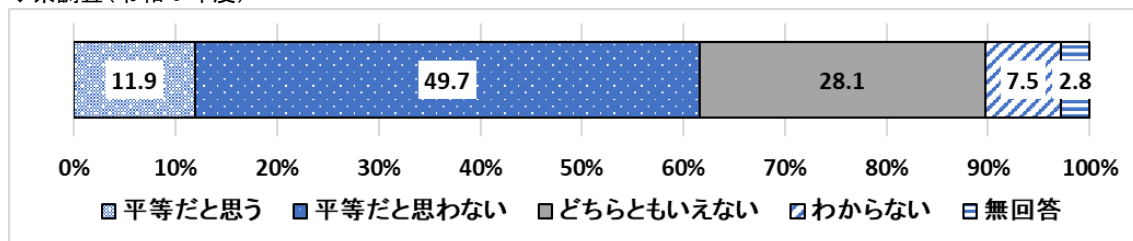
◆年代別



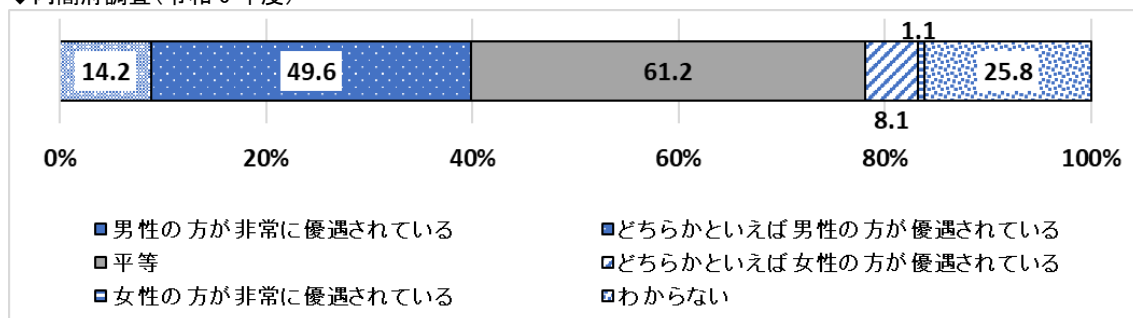
◆職業別



◆県調査(令和 6 年度)



◆内閣府調査(令和 6 年度)



問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

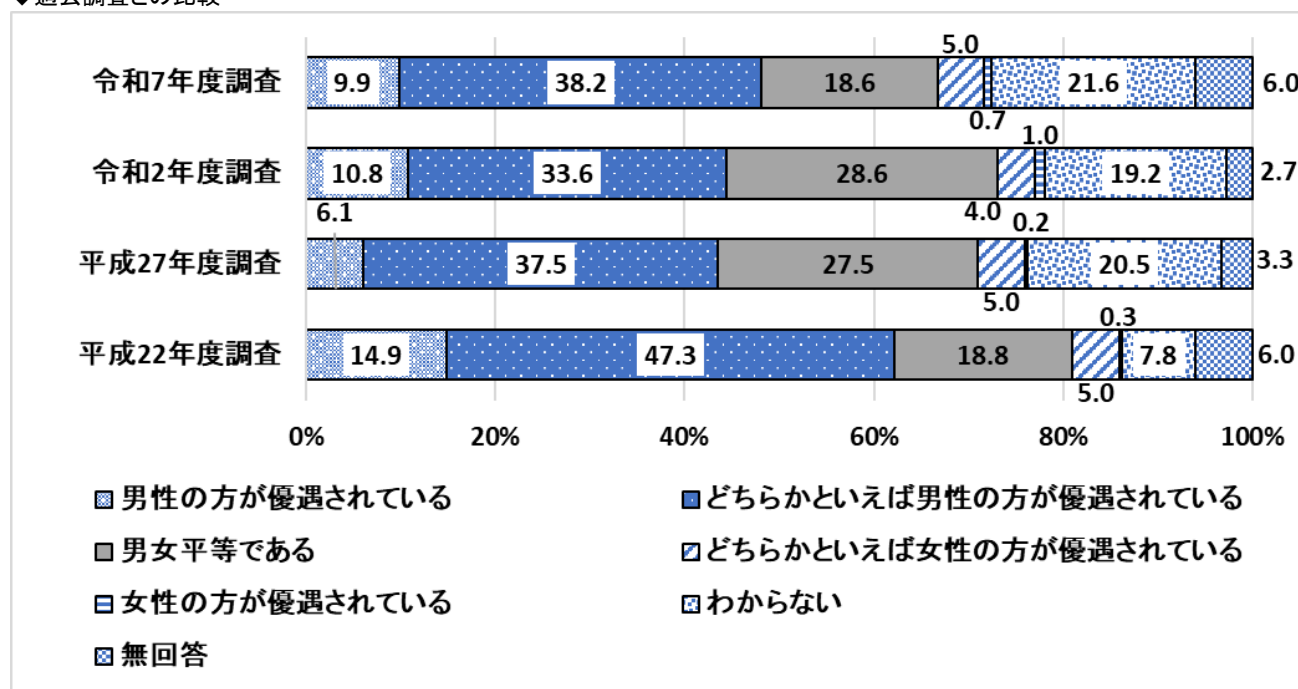
D 地域活動の場(自治会やNPO など)

●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は48.1%となっている。

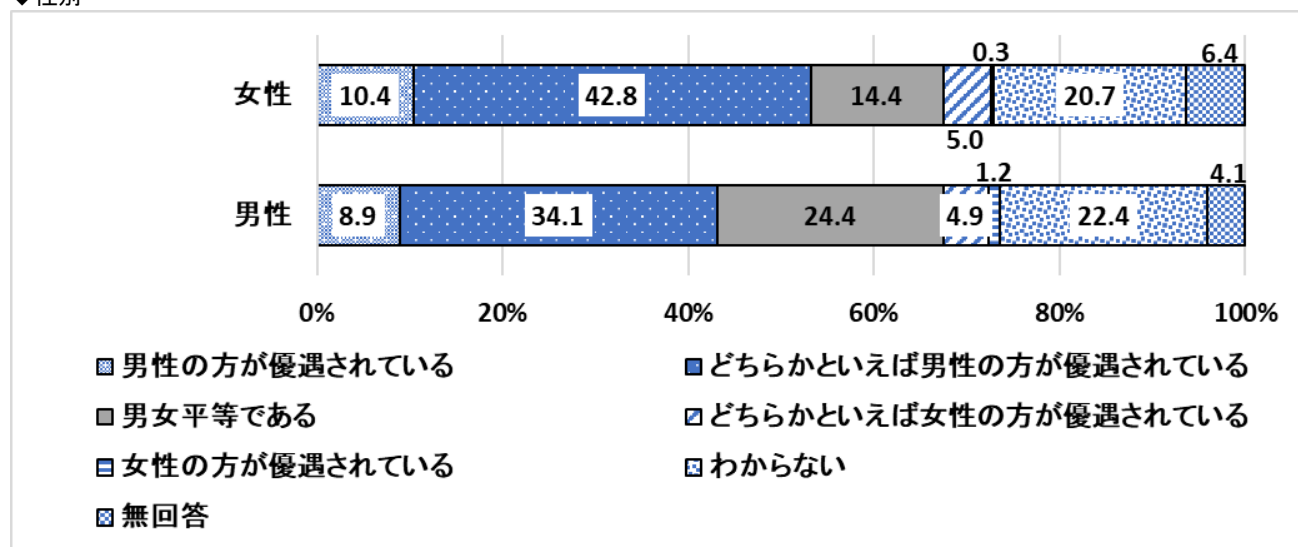
●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性 53.2%、男性 43.0%で10.2ポイントの差となっている。

●年代別では、40歳代以下の年代で「わからない」と回答した割合が高くなっている。

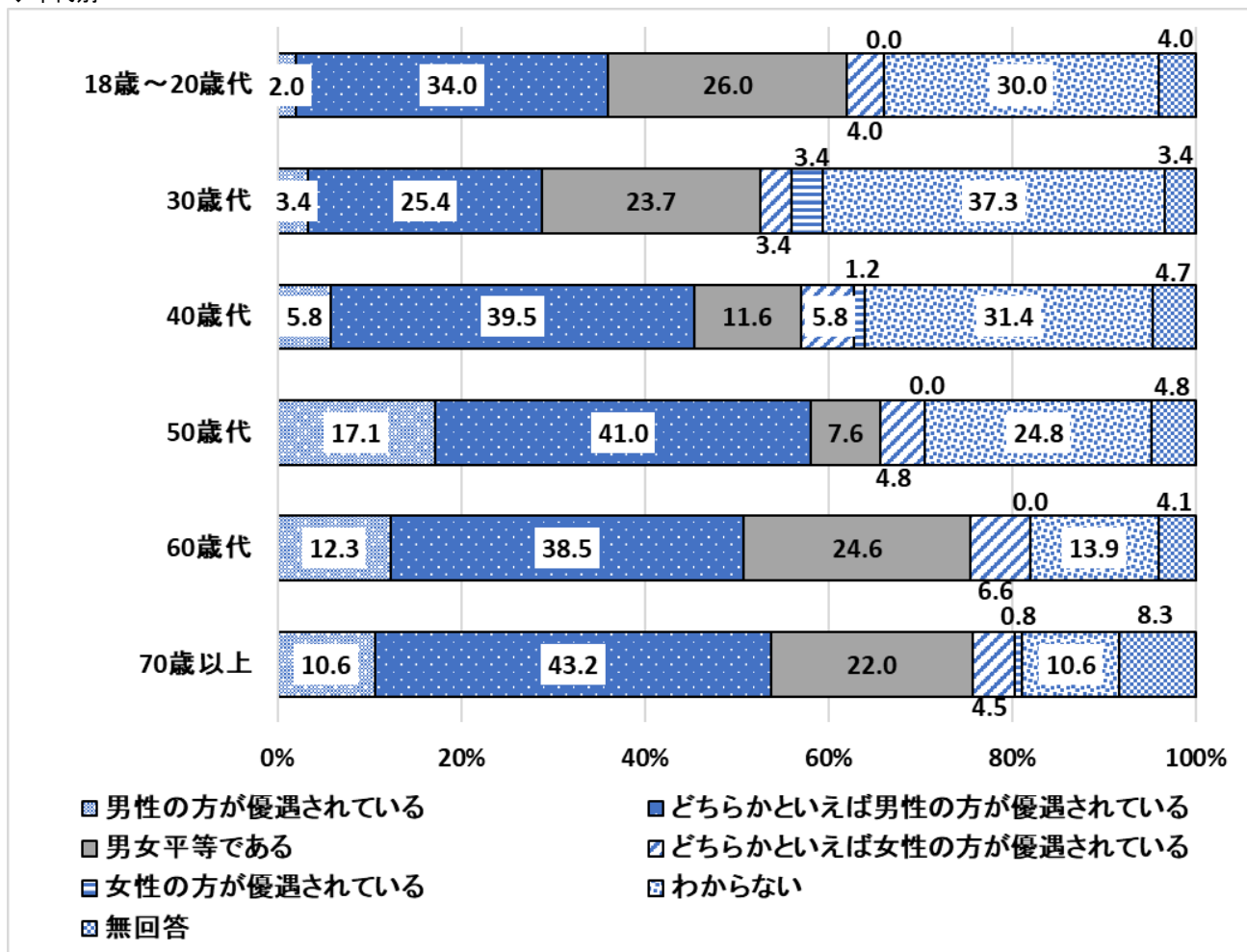
◆過去調査との比較



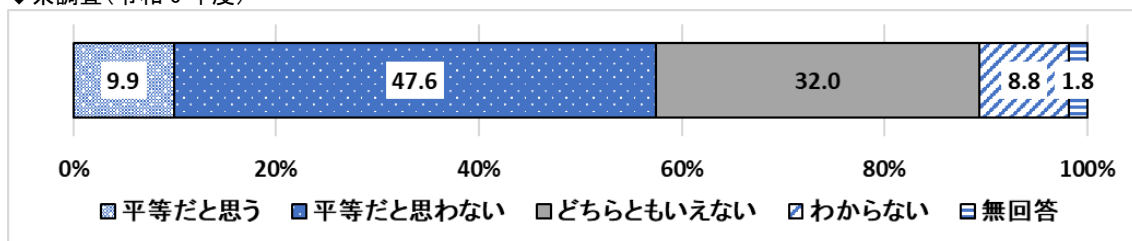
◆性別



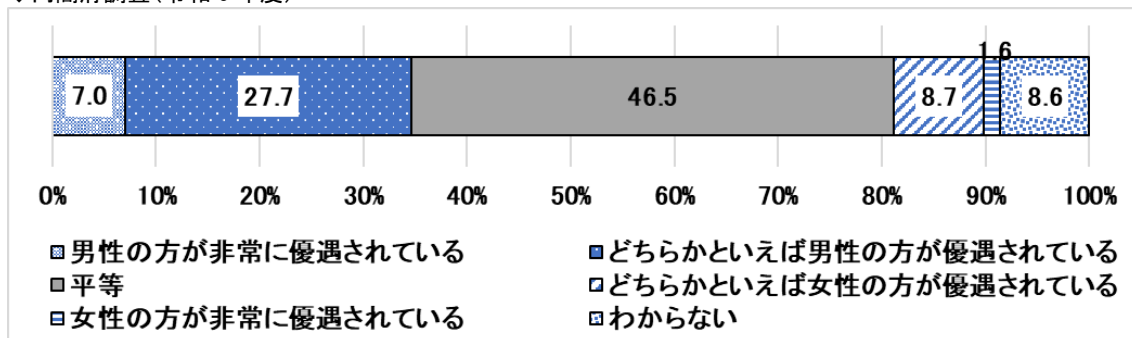
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



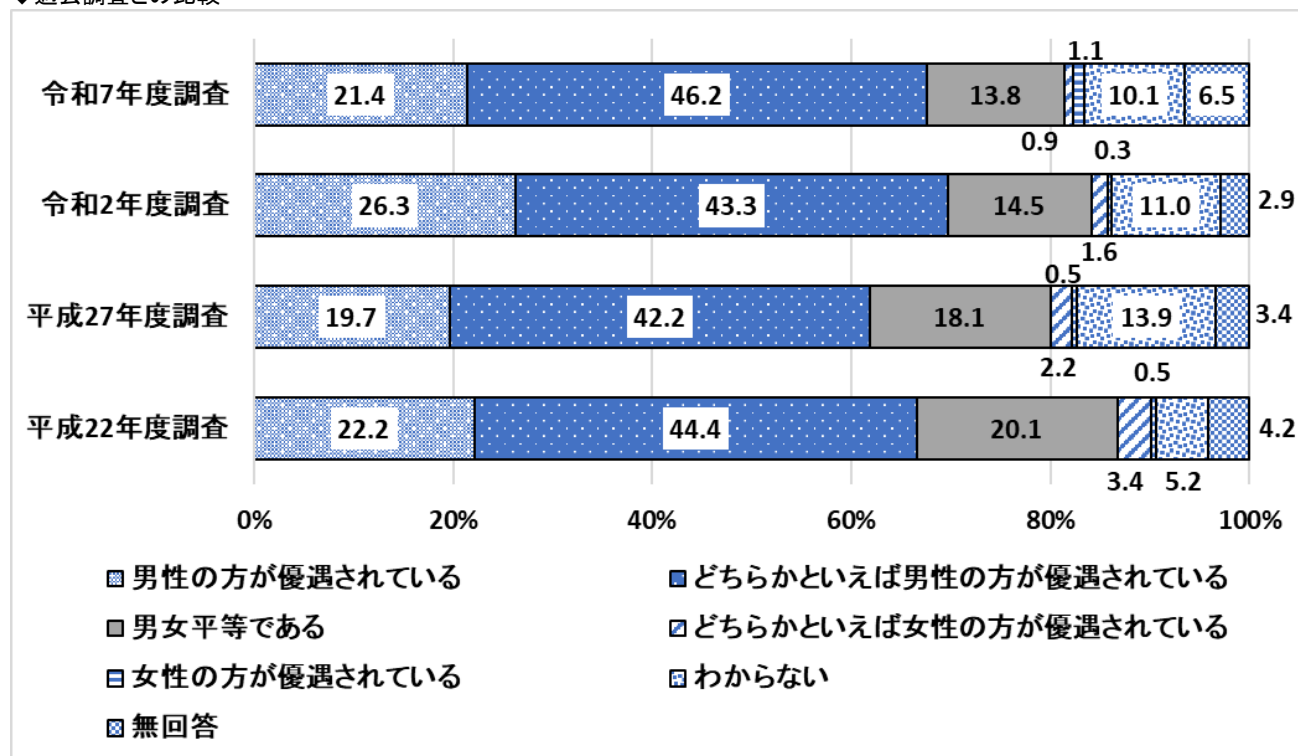
問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

E 政治の場、法律や制度の上

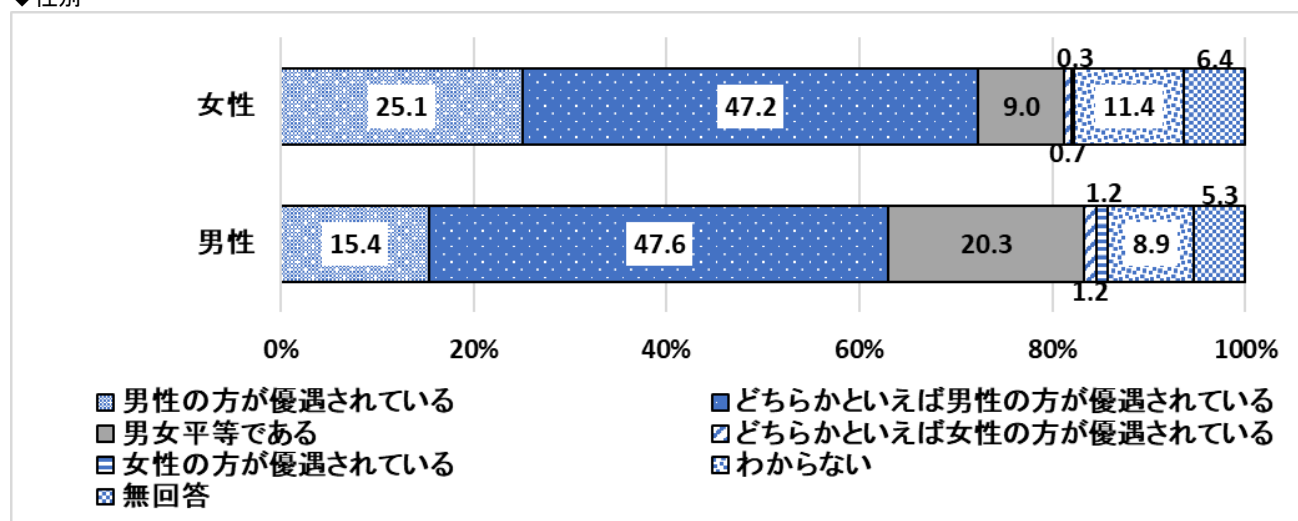
●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は67.6%となっている。

●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性72.3%、男性63.0%で9.3ポイントの差となっている。

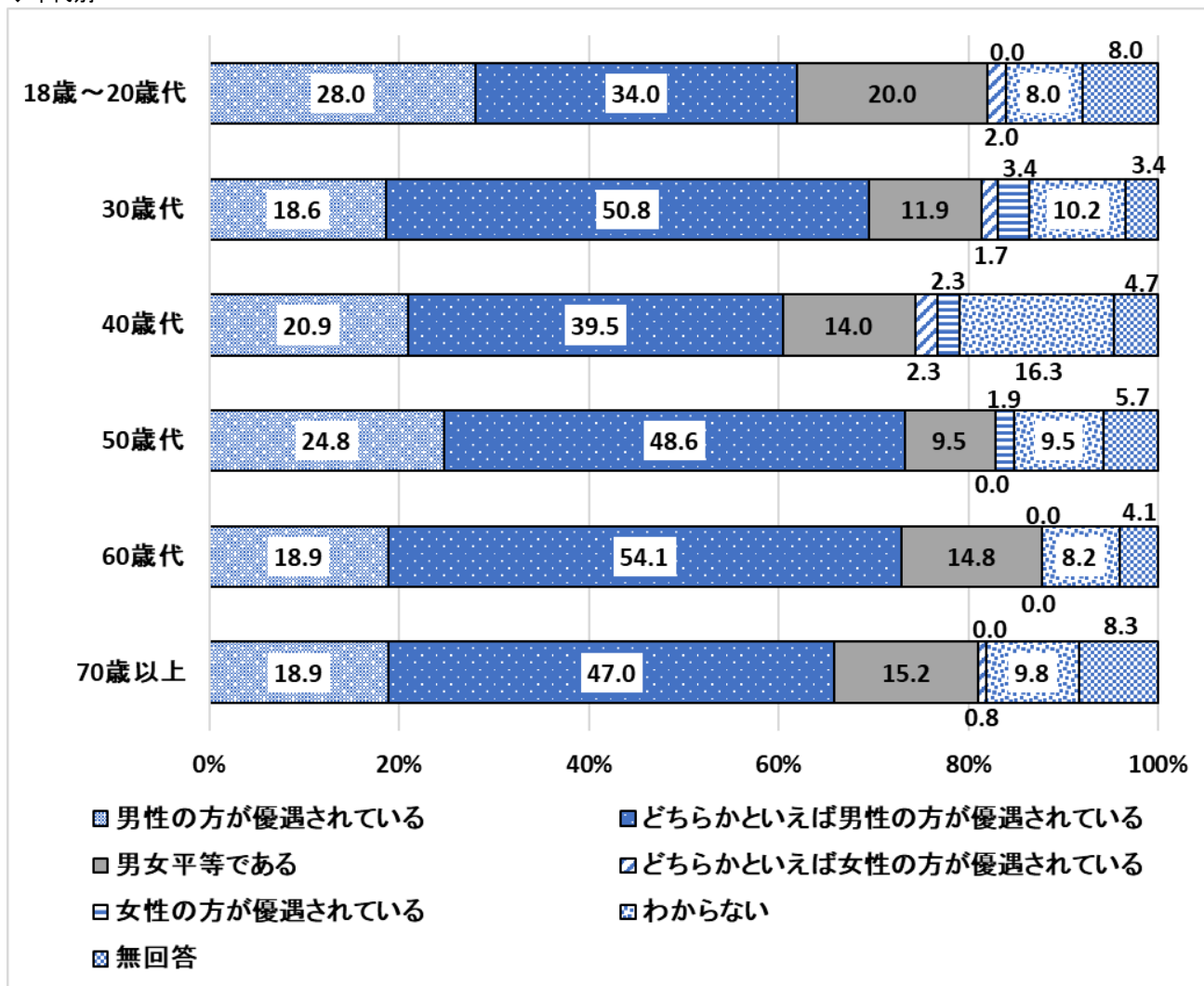
◆過去調査との比較



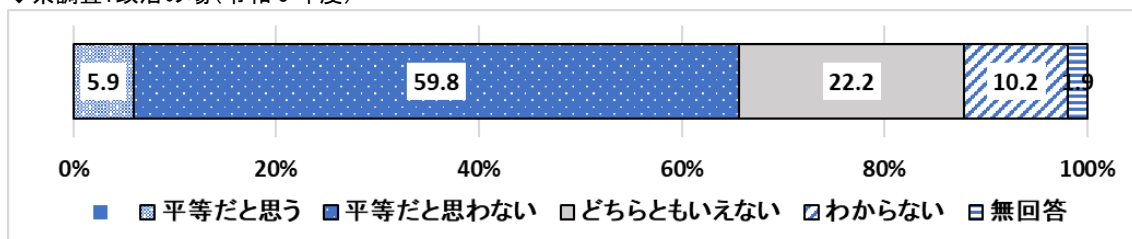
◆性別



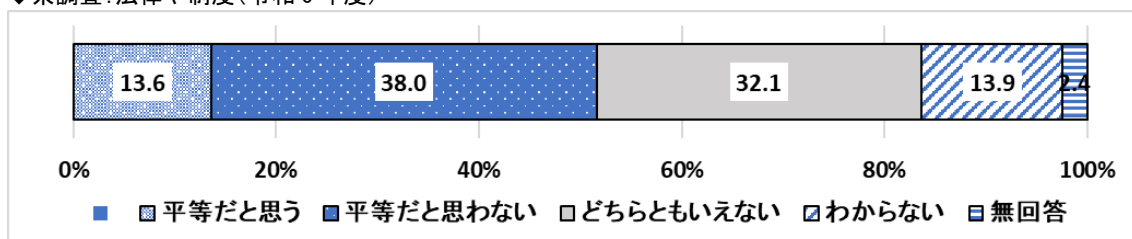
◆年代別



◆県調査:政治の場(令和6年度)



◆県調査:法律や制度(令和6年度)

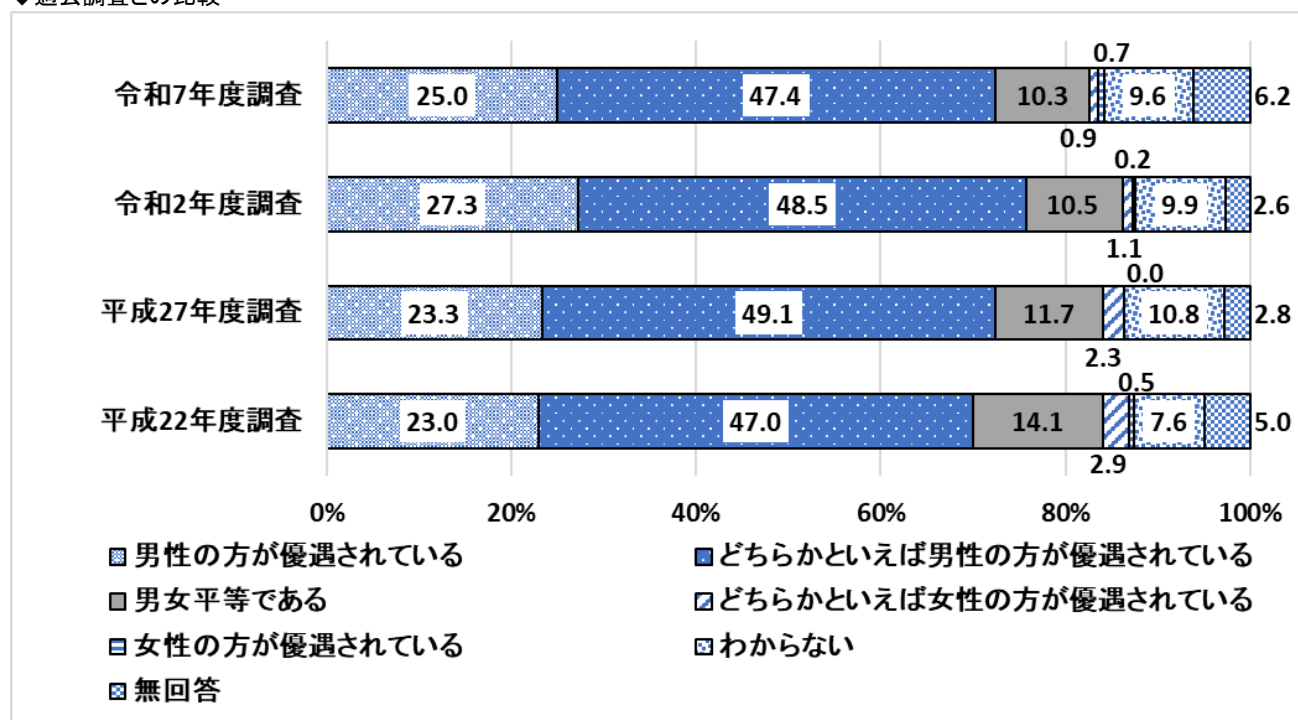


問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

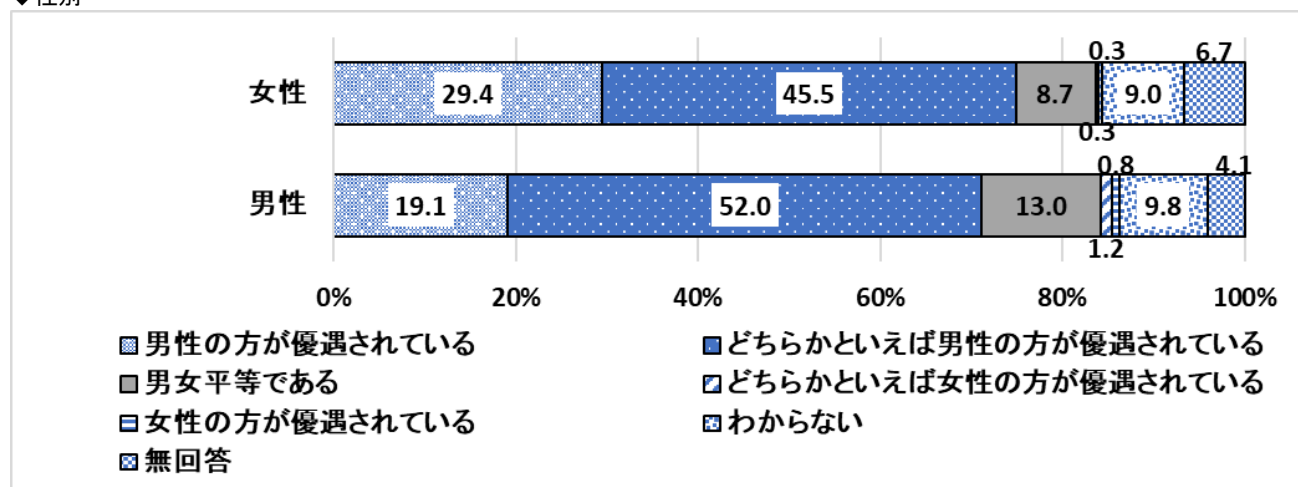
F 社会通念・慣習・しきたり

- 「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は72.4%となっており、全分野の中で一番高い割合となっている。
- 性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性74.9%、男性71.1%で、3.8ポイントの差となっている。
- 年代別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は18歳～20歳代で54.0%と各年代の中で一番低くなっている。

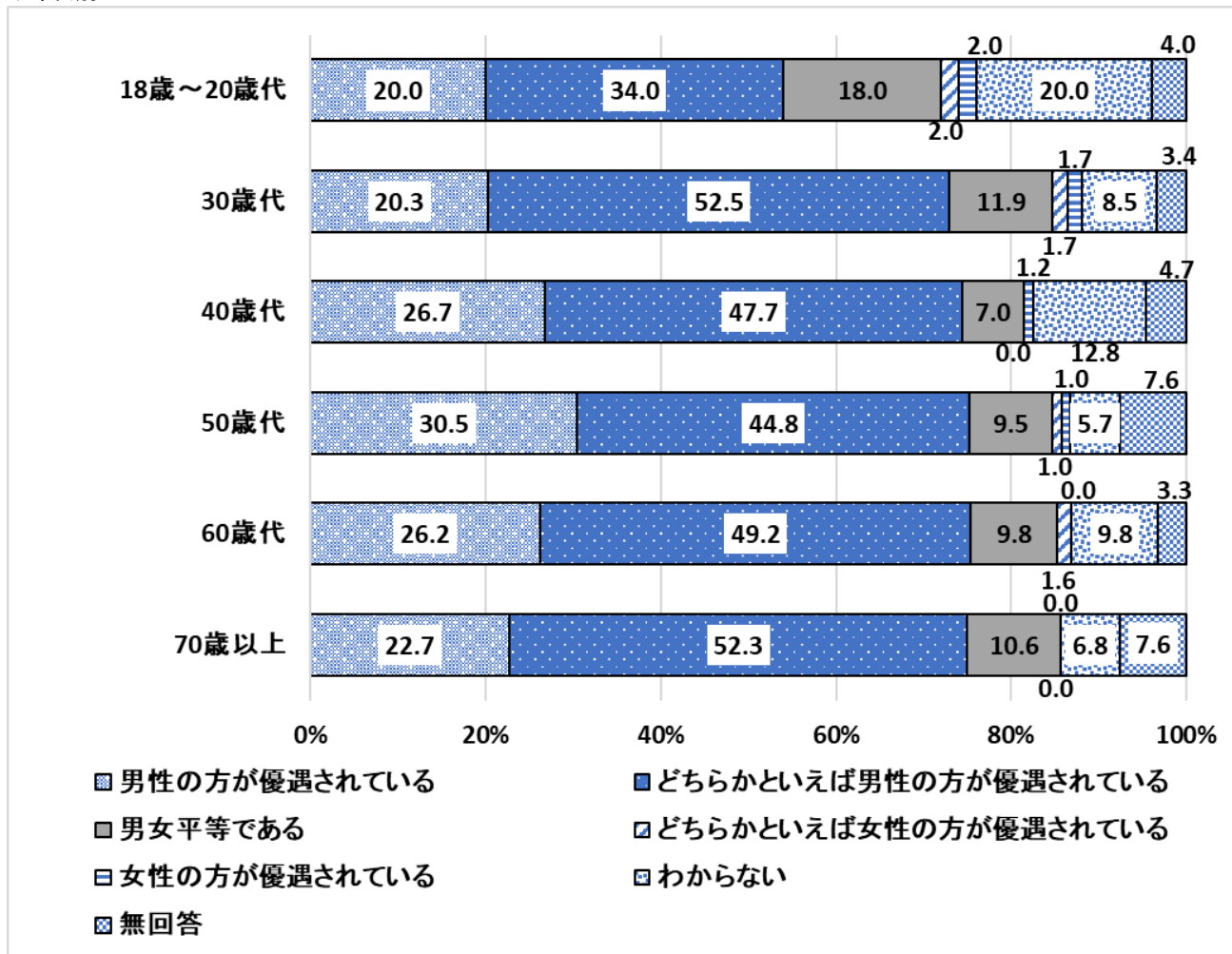
◆過去調査との比較



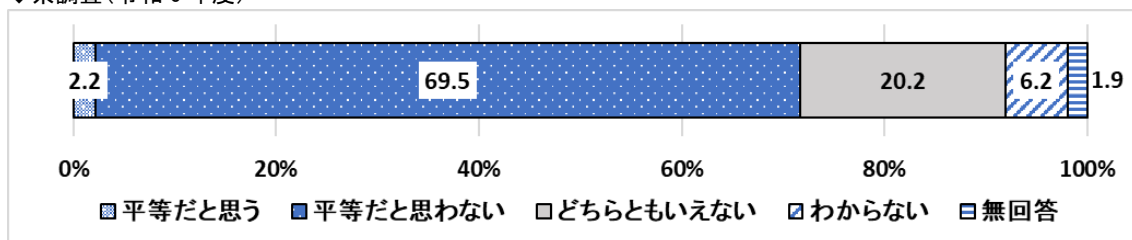
◆性別



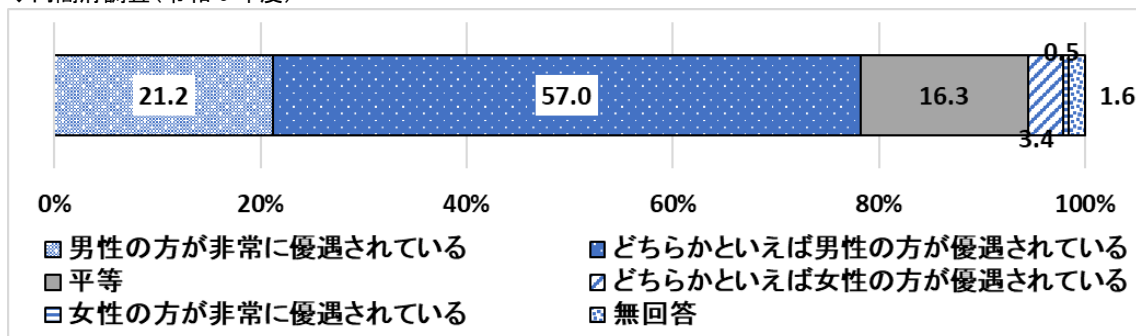
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



問2 男女は平等になっていると思いますか。次のA～Gそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

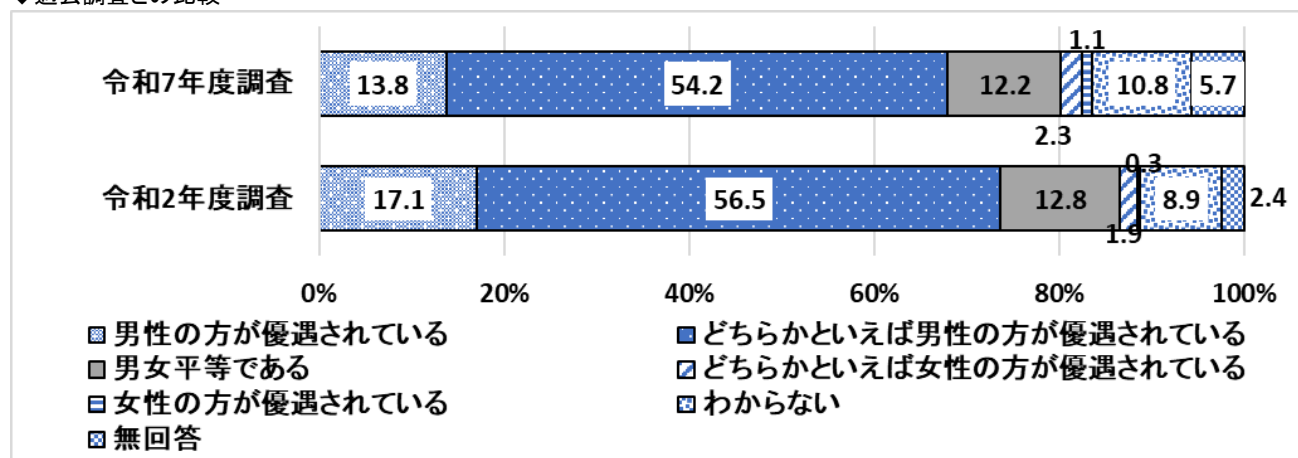
G 社会全体として

●「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は68.0%となっている。

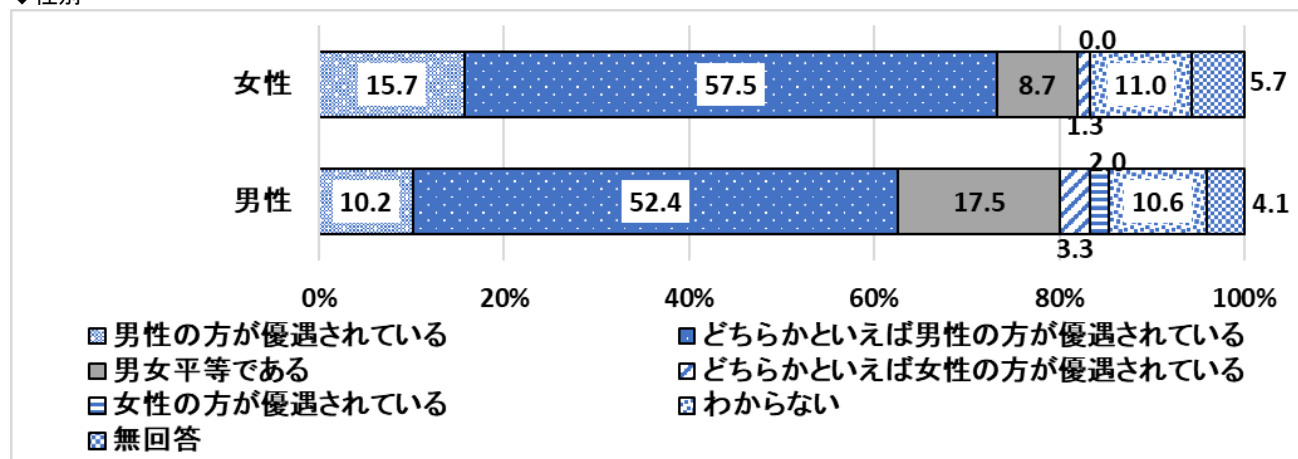
●性別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は女性73.2%、男性62.6%で、10.6ポイントの差となっている。

●年代別では、「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は年代が上がるにつれ、増加傾向が見てとれる。

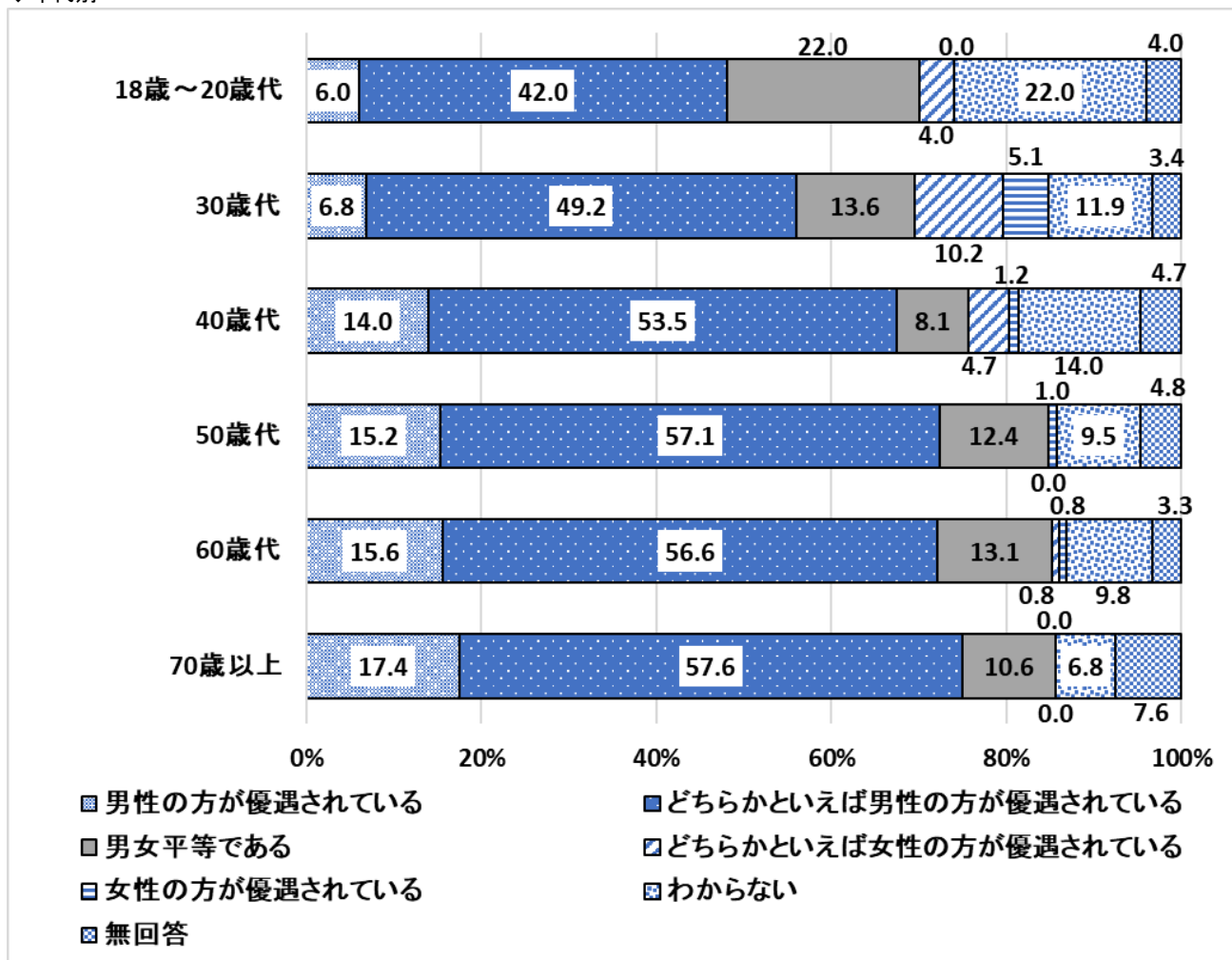
◆過去調査との比較



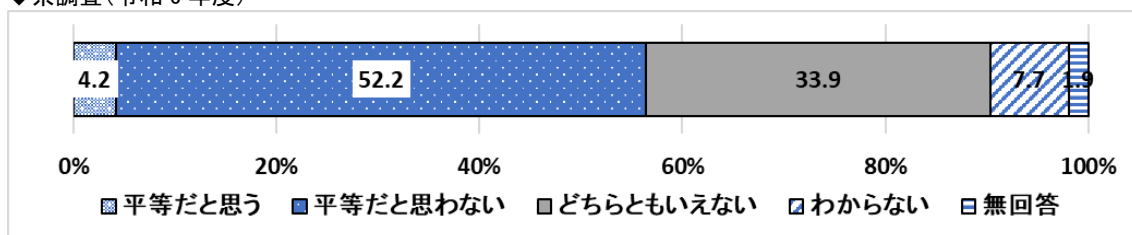
◆性別



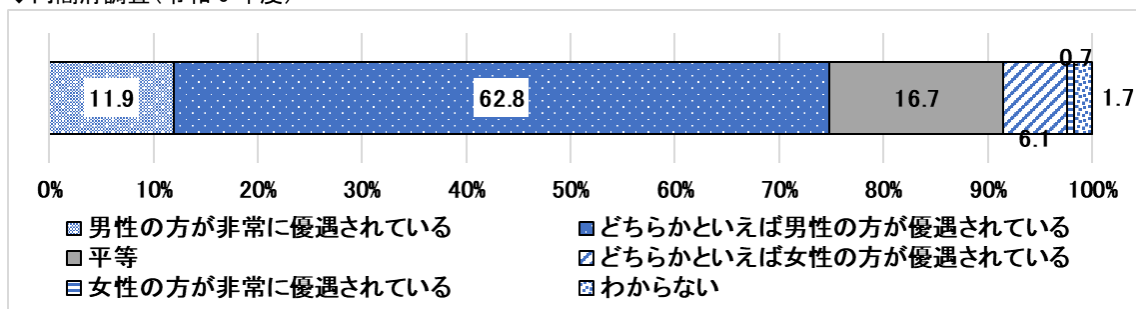
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆内閣府調査(令和6年度)



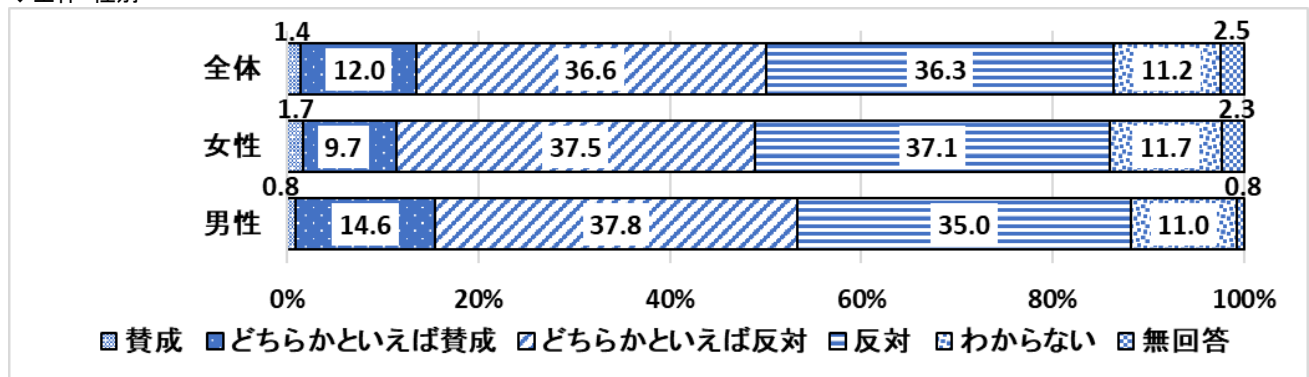
3 性別役割分担意識について

性別役割分担意識 「反対」「どちらかといえば反対」が7割超

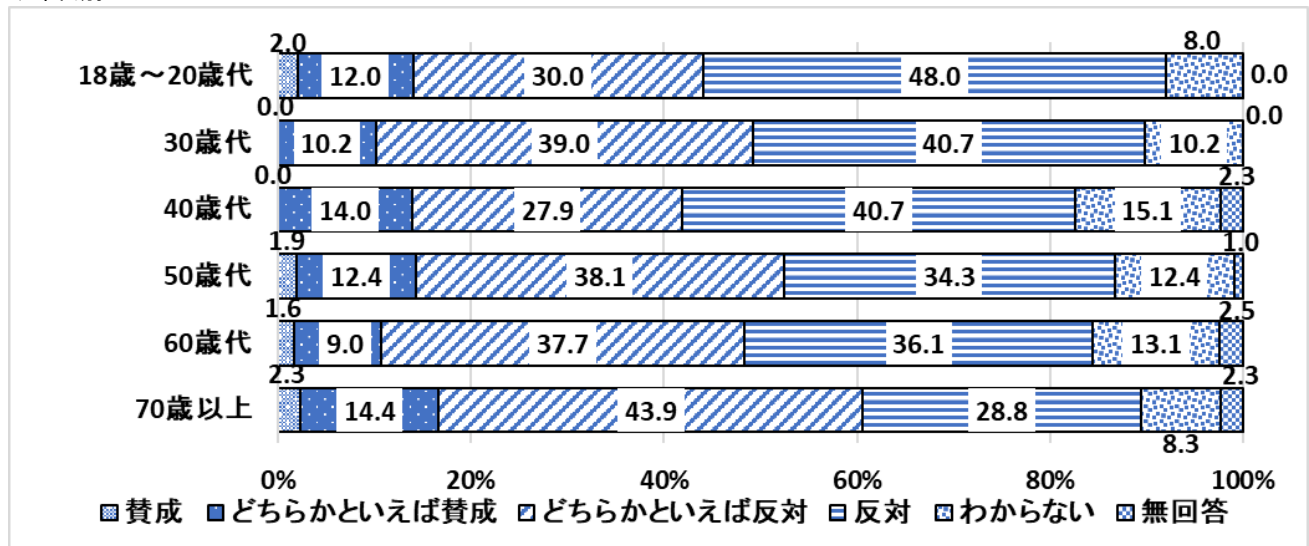
問3 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。

- 「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、72.9%となっている。
- 性別では、「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、女性 74.6%、男性 72.8%となっている。
- 年代別では、18歳～20歳代の「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合が86.0%と高くなっている。
- 性・年代別では、「賛成」または「どちらかといえば賛成」とする割合は、男性の50歳代と70歳以上で比較的高くなっている。

◆全体・性別



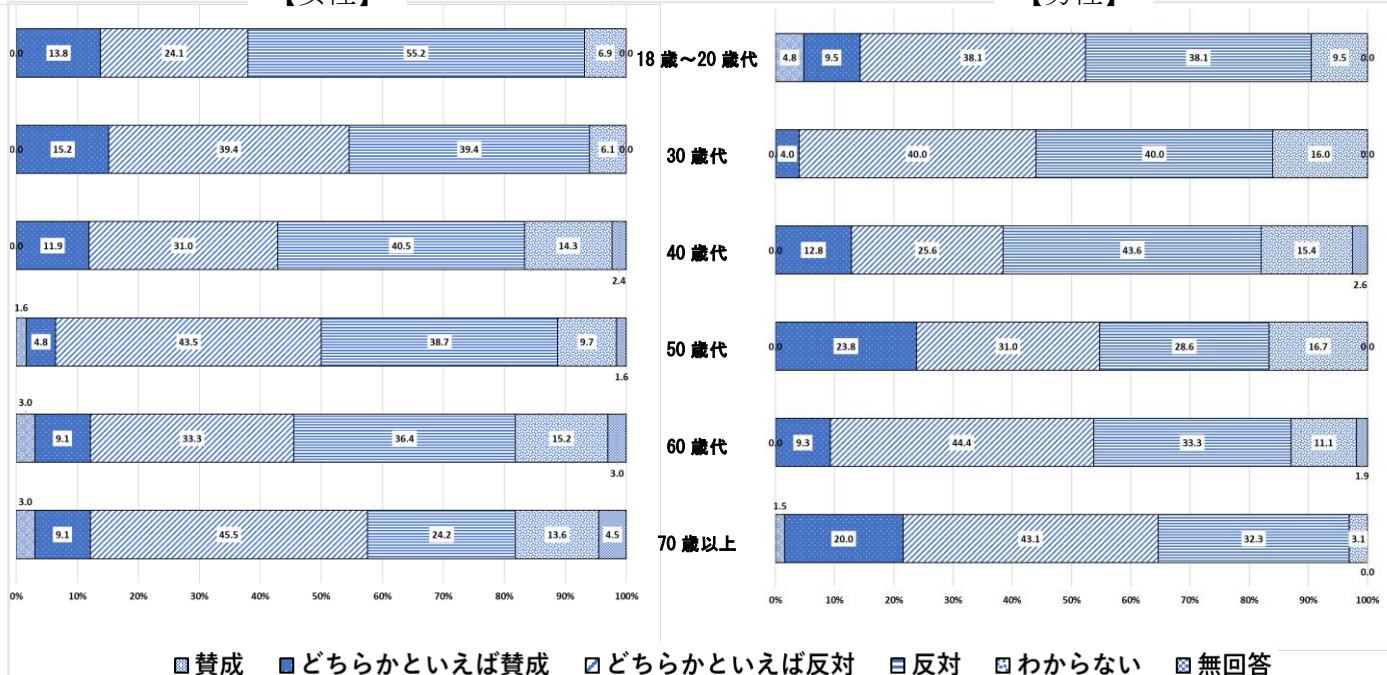
◆年代別



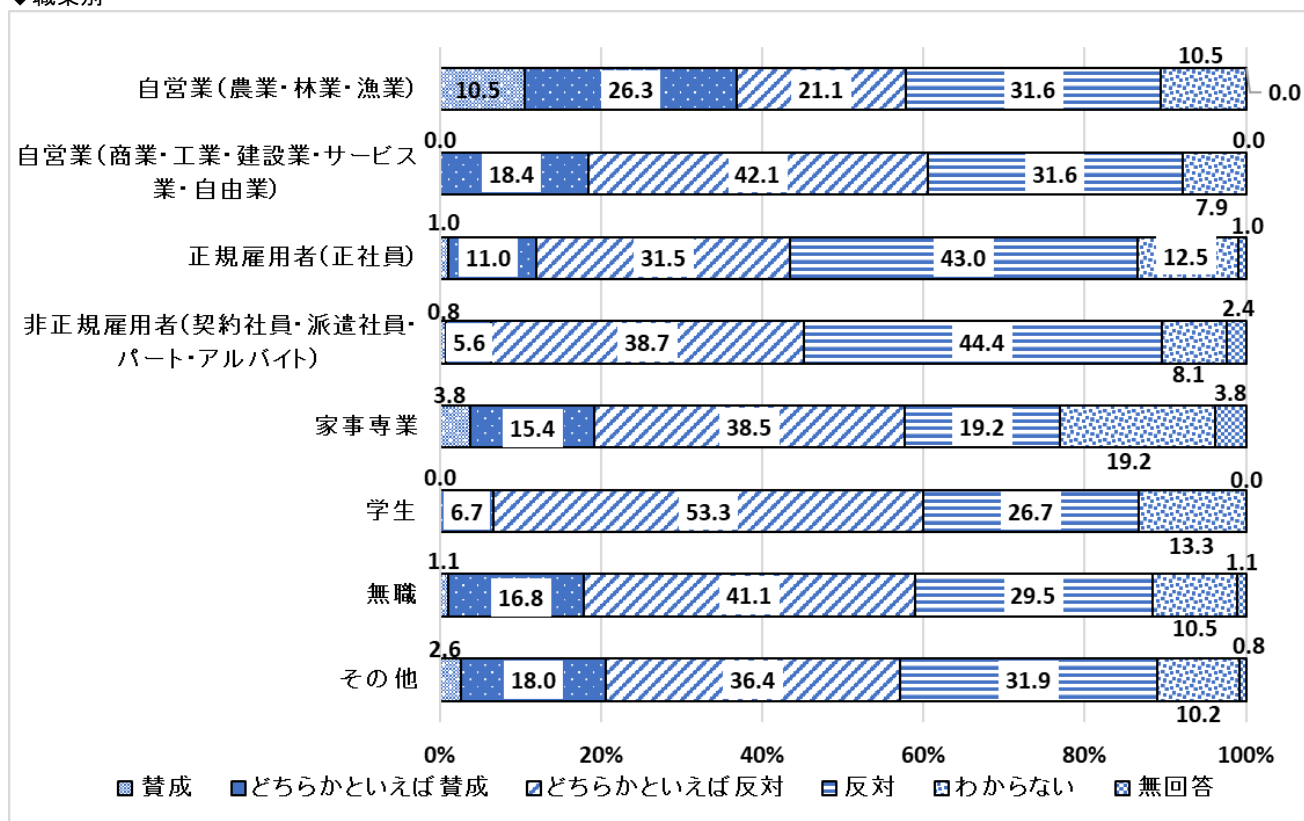
◆性・年代別

【女性】

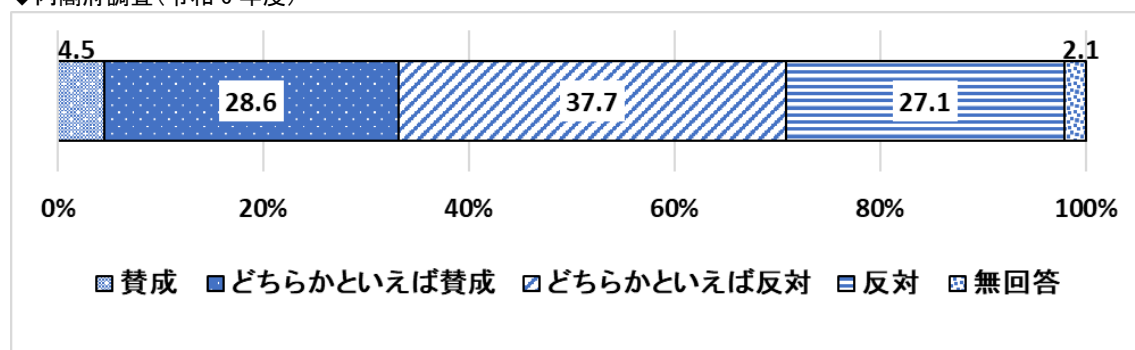
【男性】



◆職業別



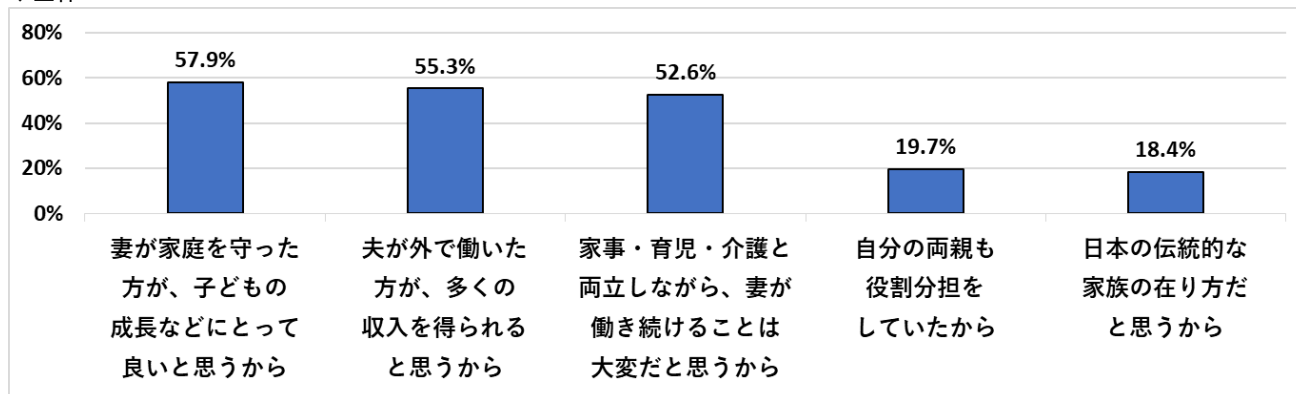
◆内閣府調査(令和 6 年度)



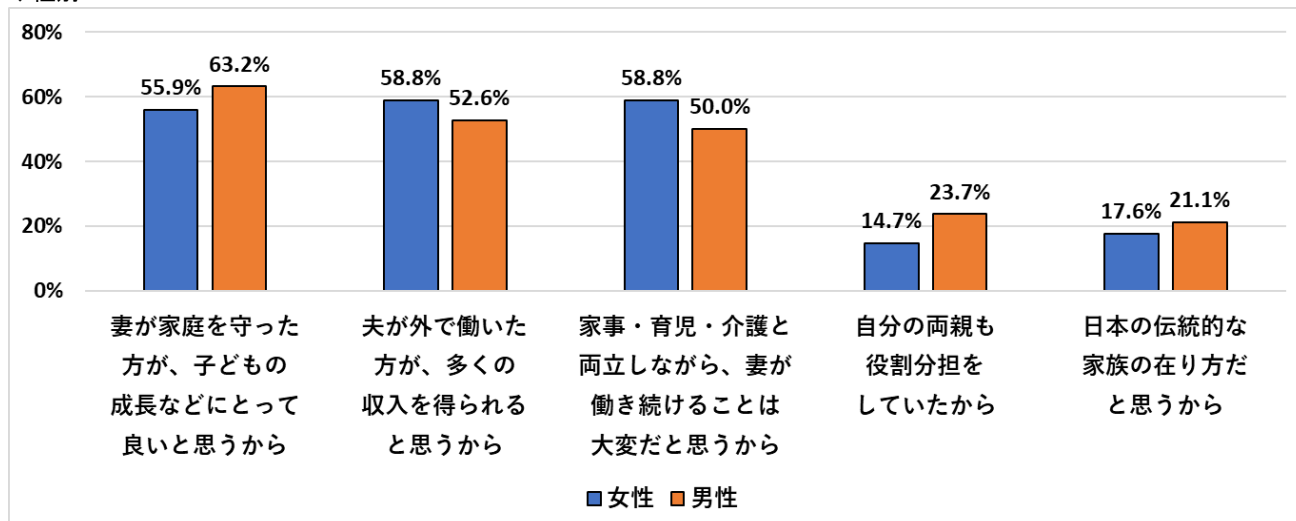
問3-1 問3で「①賛成」または「②どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

●「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 57.9%と最も高く、以下、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(55.3%)、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(52.6%)の順となっている。

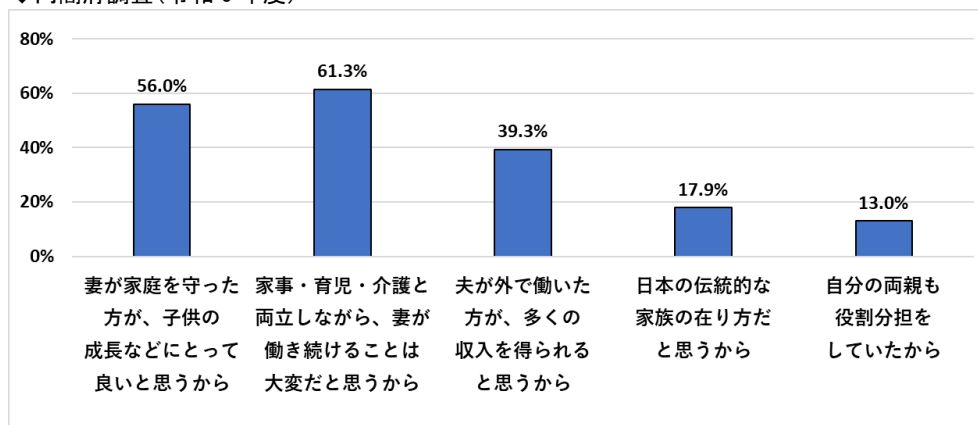
◆全体



◆性別



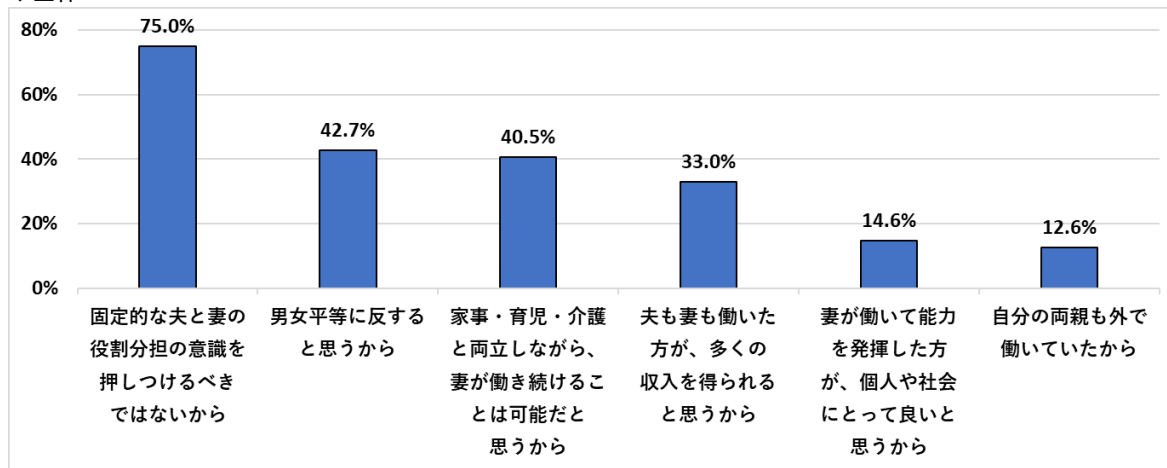
◆内閣府調査(令和6年度)



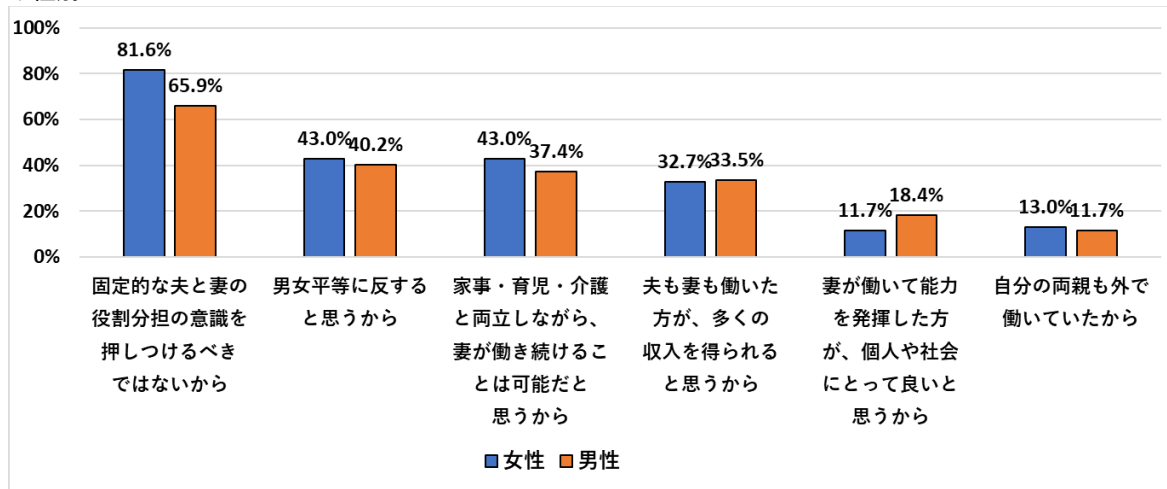
問3-2 問3で「③どちらかといえば反対」または「④反対」と答えた方におたずねします。そう思う理由は何ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

●「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が75.0%と最も高く、以下、「男女平等に反すると思うから」(42.7%)、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(40.5%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(33.0%)の順となっている。

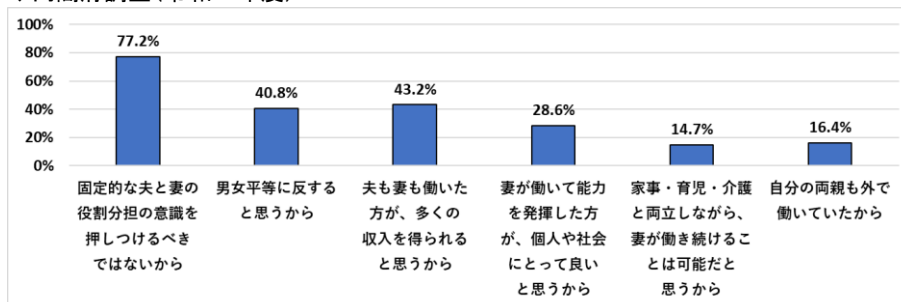
◆全体



◆性別

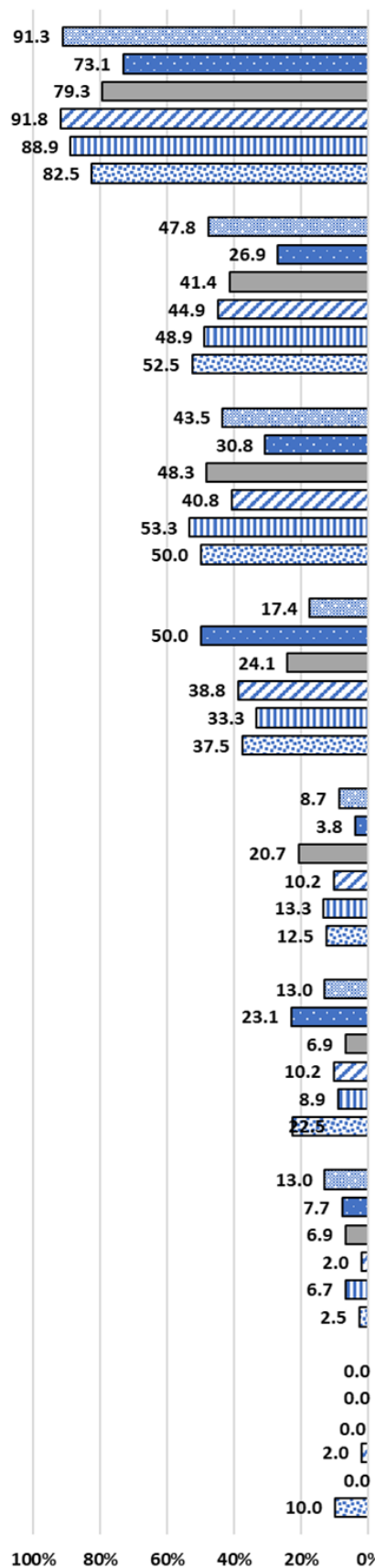


◆内閣府調査(令和6年度)

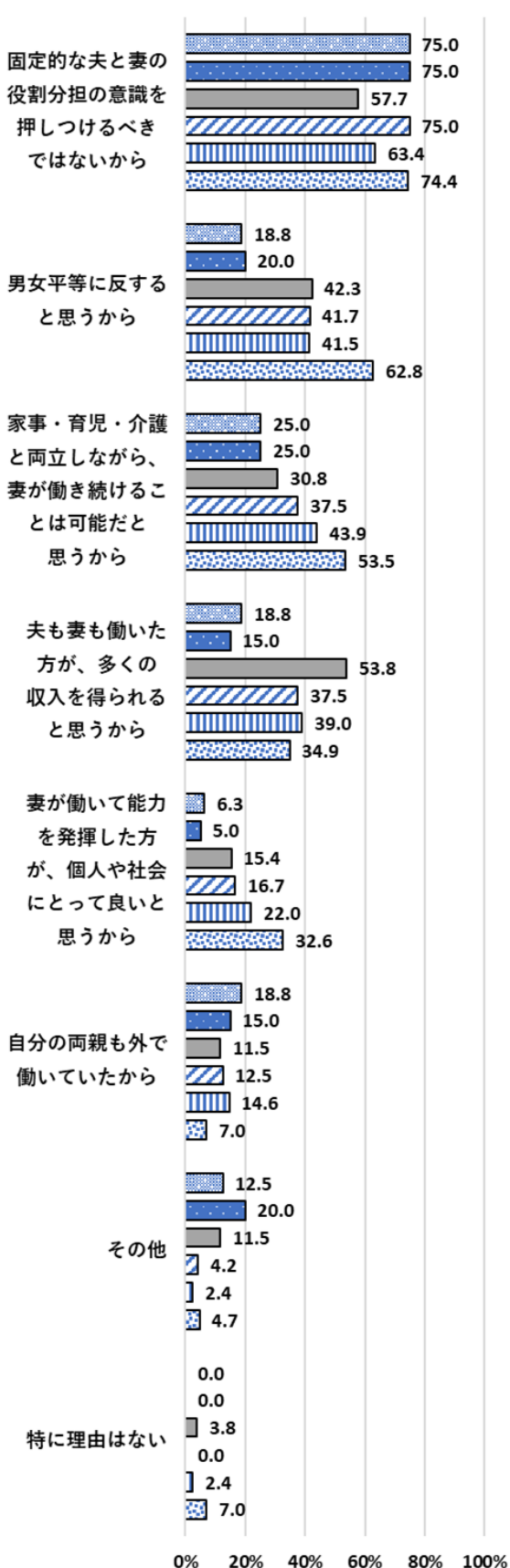


◆性・年代別

【女性】



【男性】



■ 18歳～20歳代
 ■ 30歳代
 ■ 40歳代
 ■ 50歳代
 ■ 60歳代
 ■ 70歳以上

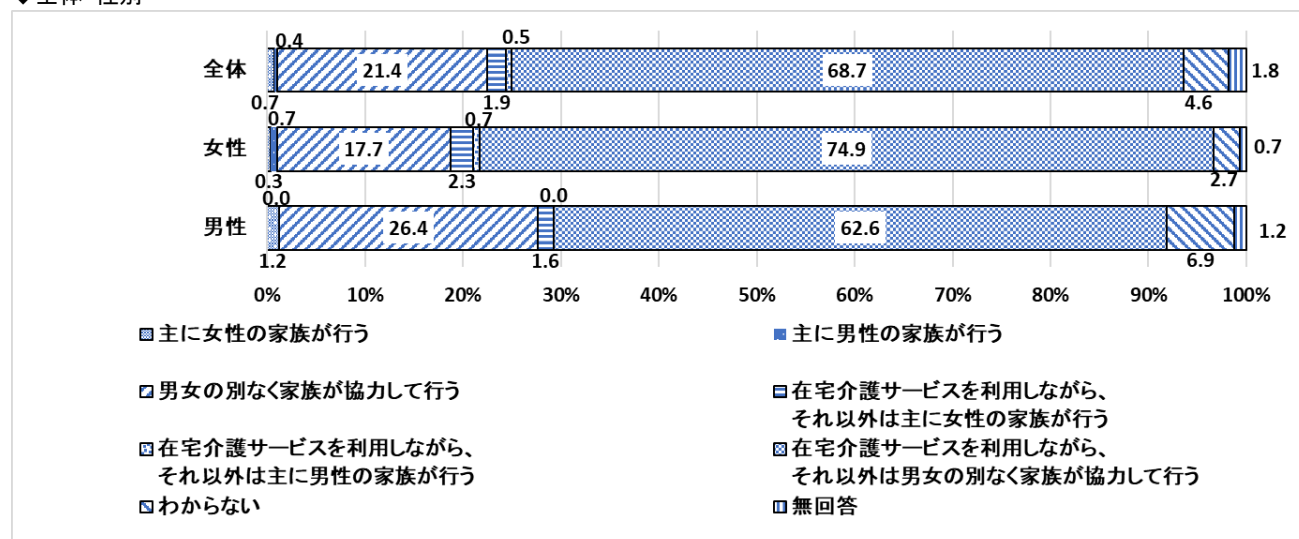
在宅介護を誰が行うか 「サービスを利用しながら、家族が協力して行う」68.7%

問4 在宅介護の場合、誰が行うのが良いと思いますか。

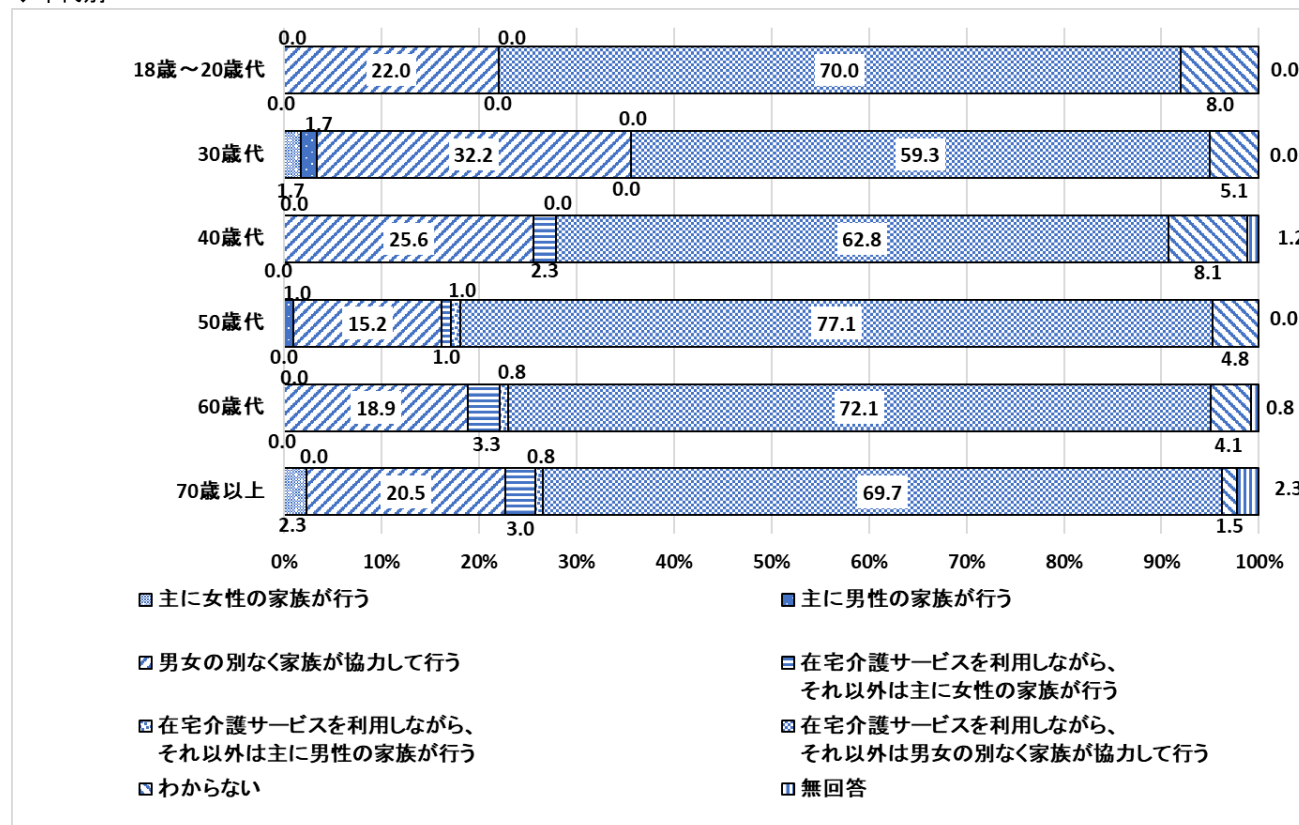
●「在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は男女の別なく家族が協力して行う」割合が 68.7%と高く、「男女の別なく家族が協力して行う」割合が 21.4%となっている。

●年代別でも、「在宅介護サービスを利用しながら、それ以外は男女の別なく家族が協力して行う」割合が全ての年代で6～7割と高くなっている。

◆全体・性別



◆年代別



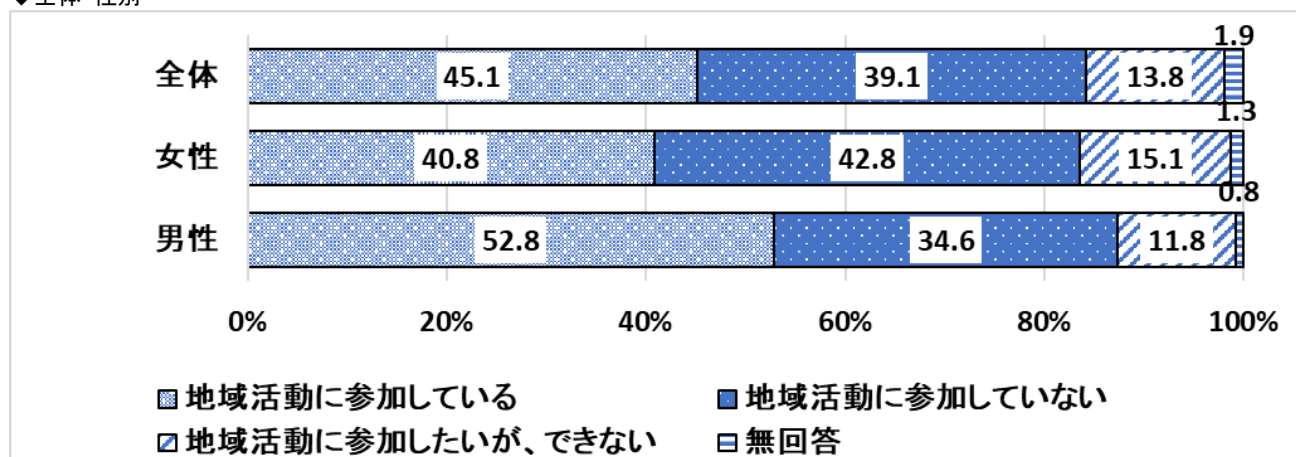
4 地域社会における活動について

地域活動の参加状況 「地域活動に参加している」45.1%

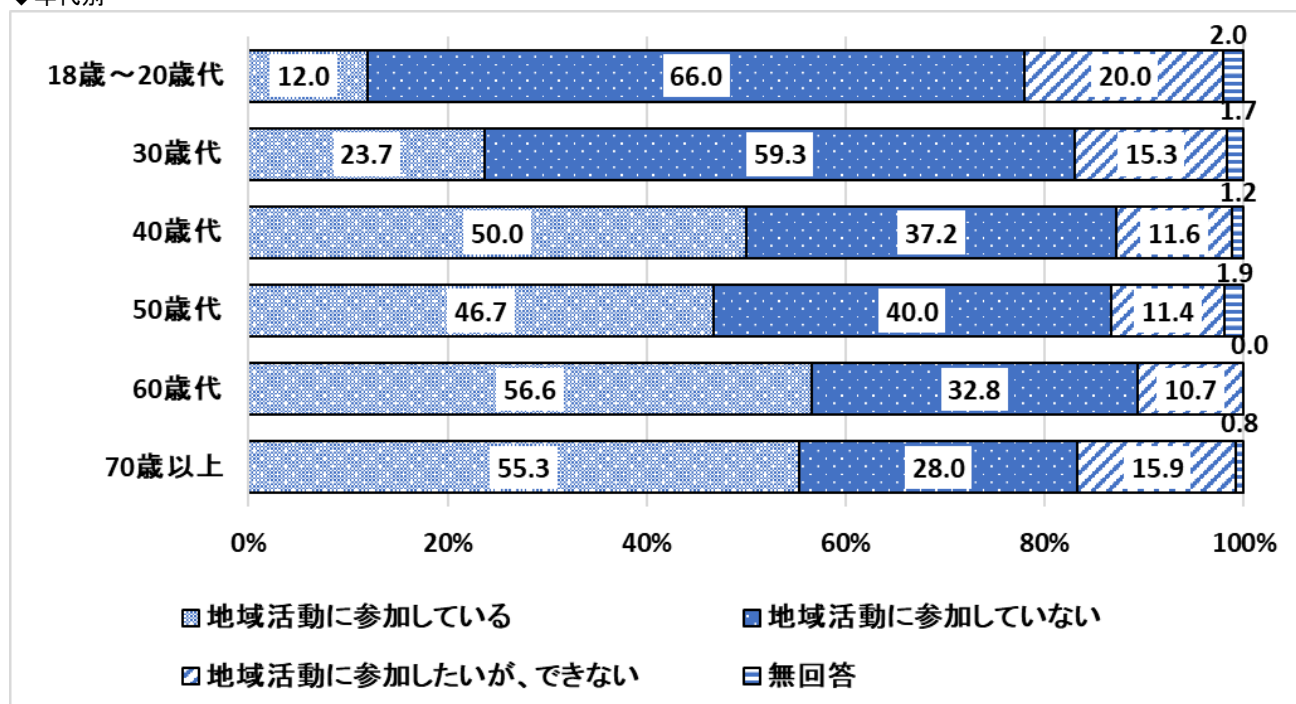
問5 地域活動の参加状況についておたずねします。あなたはどれにあてはまりますか。

- 「地域活動に参加している」割合が 45.1%となっており、性別では、女性が 40.8%、男性が 52.8%で 12.0 ポイントの差となっている。
- 年代別では、「地域活動に参加している」割合が 40 歳代以上で半数程度だが、30 歳代では 23.7%と下がり、18 歳～20 歳代では 12.0%と大幅に下がる。
- 職業別では、学生が「地域活動に参加している」割合が 20.0%、「地域活動に参加していない」割合が 60.0%となっている。
- 家族構成別では、「地域活動に参加している」割合が一世代世帯(夫婦のみ)で 51.9%と最も高く、単身世帯(含単身赴任)で 26.7%と最も低くなっている(その他除く)。

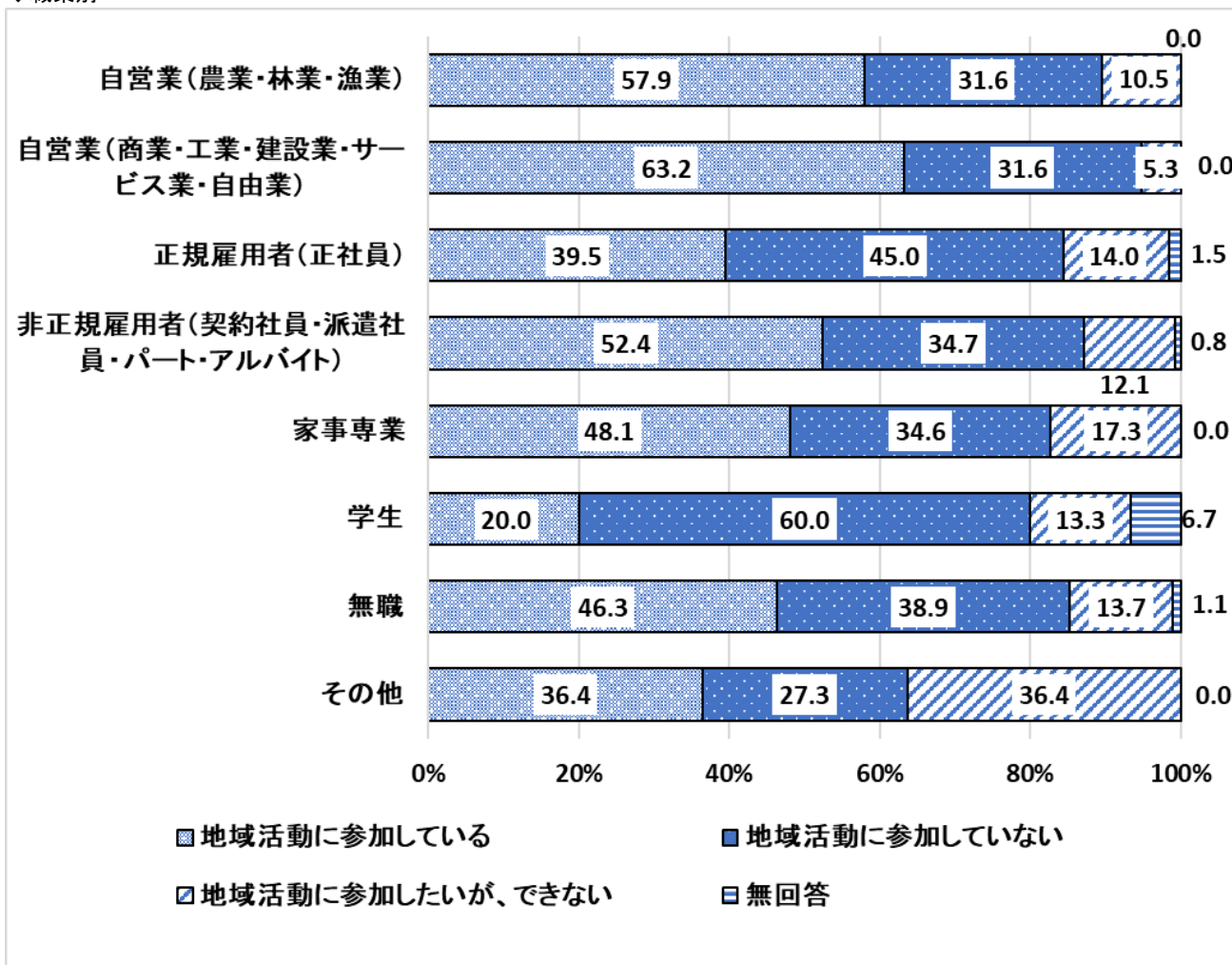
◆全体・性別



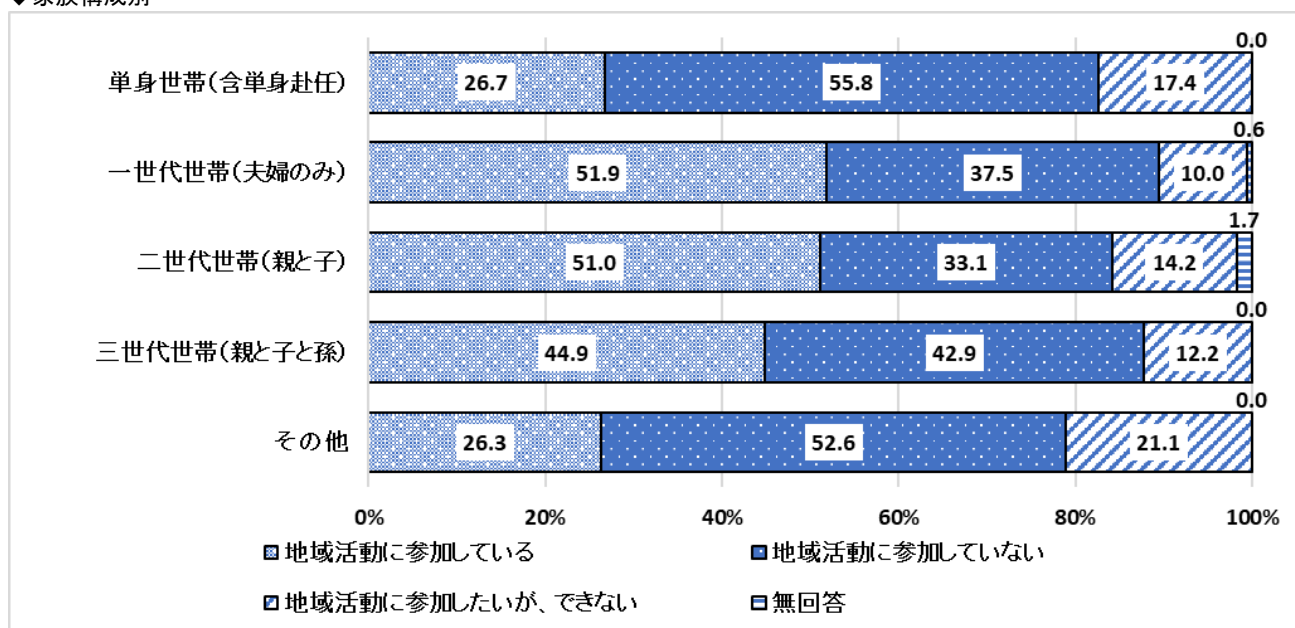
◆年代別



◆職業別



◆家族構成別

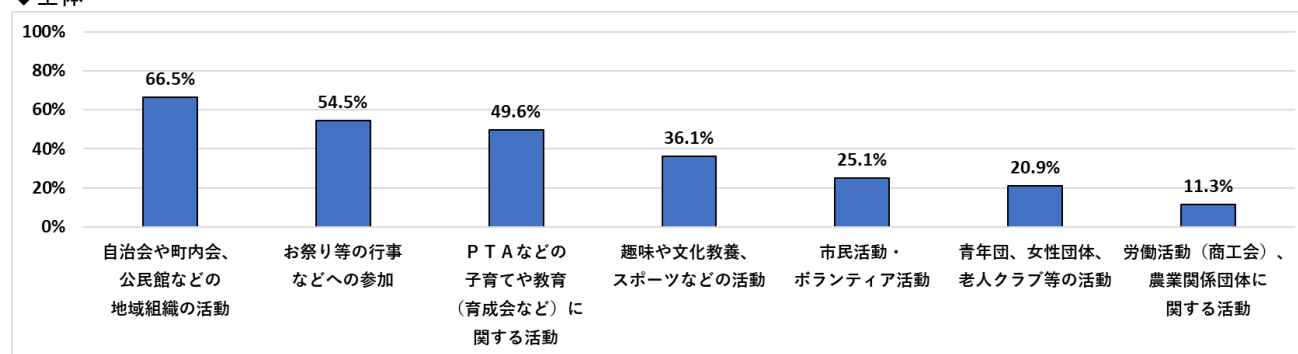


問5-1 あなたは次のような活動に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいと思う活動はありますか。(それぞれあてはまるものの番号全てに○をお付けください)

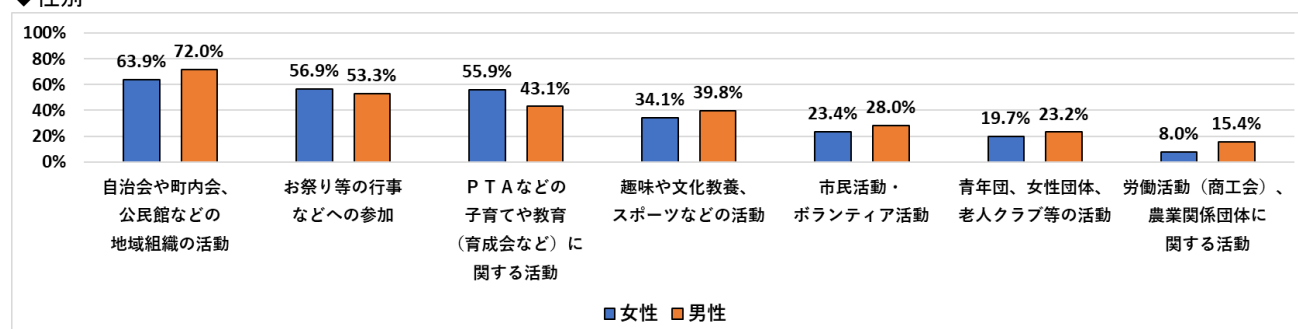
《参加したことのある活動》

●「自治会や町内会、公民館などの地域組織の活動」が 66.5%と最も高く、以下、「お祭り等の行事などへの参加」(54.5%)、「PTAなどの子育てや教育(育成会など)に関する活動」(49.6%)の順となっている。

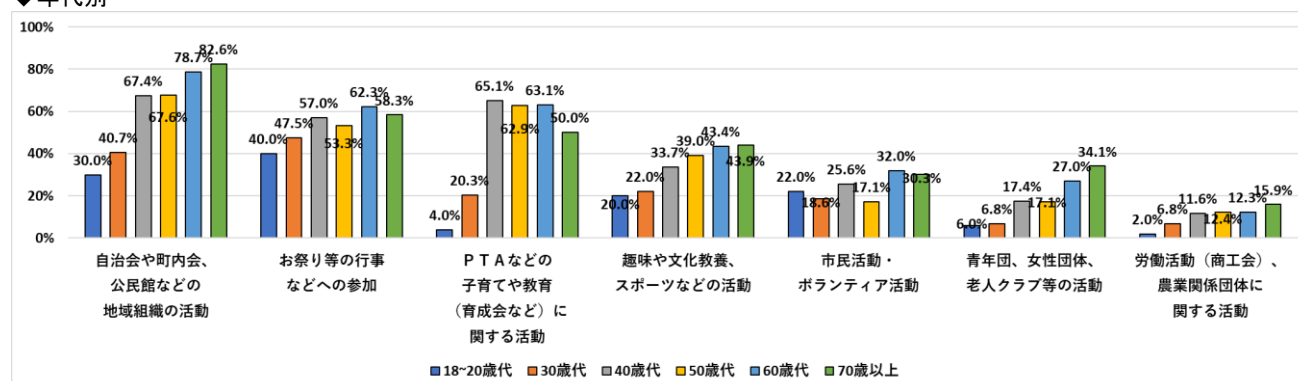
◆全体



◆性別



◆年代別

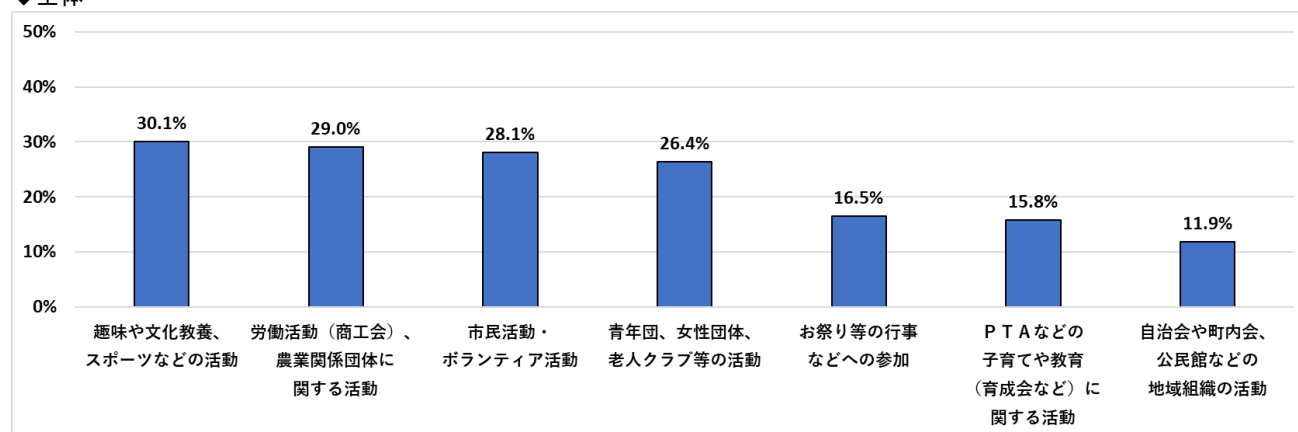


問5-1 あなたは次のような活動に参加したことはありますか。また、今後参加してみたいと思う活動はありますか。（それぞれあてはまるものの番号全てに○をお付けください）

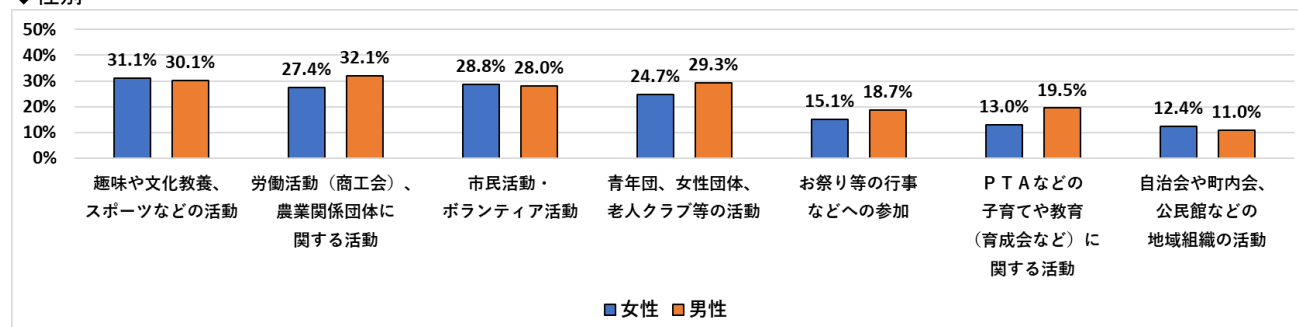
《今後参加してみたい活動》

●「趣味や文化教養、スポーツなどの活動」が 30.1%で最も高く、以下、「労働活動（商工会）、農業関係団体に関する活動」（29.0%）、「市民活動・ボランティア活動」（28.1%）の順となっている。

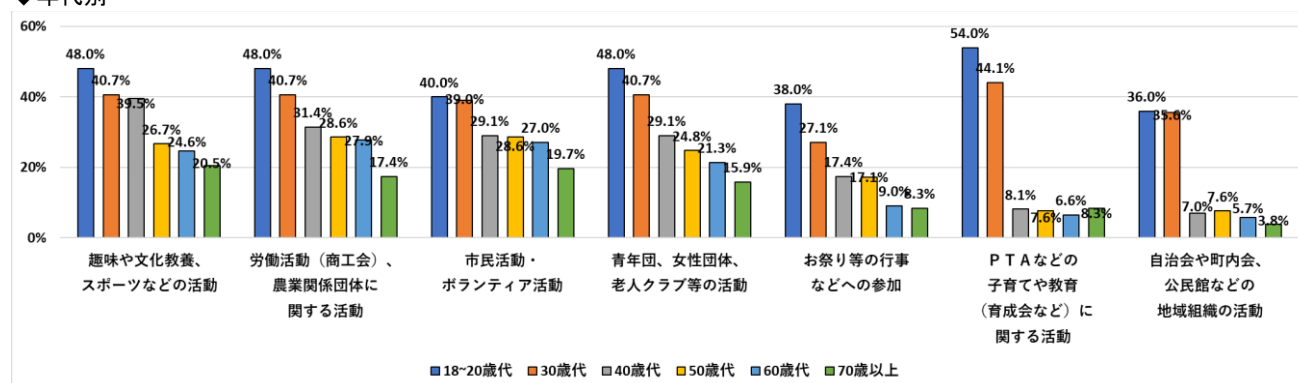
◆全体



◆性別



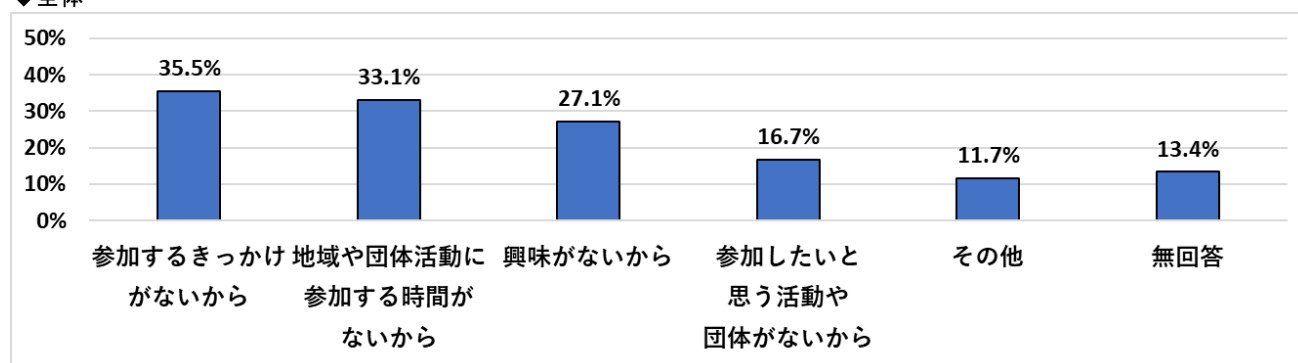
◆年代別



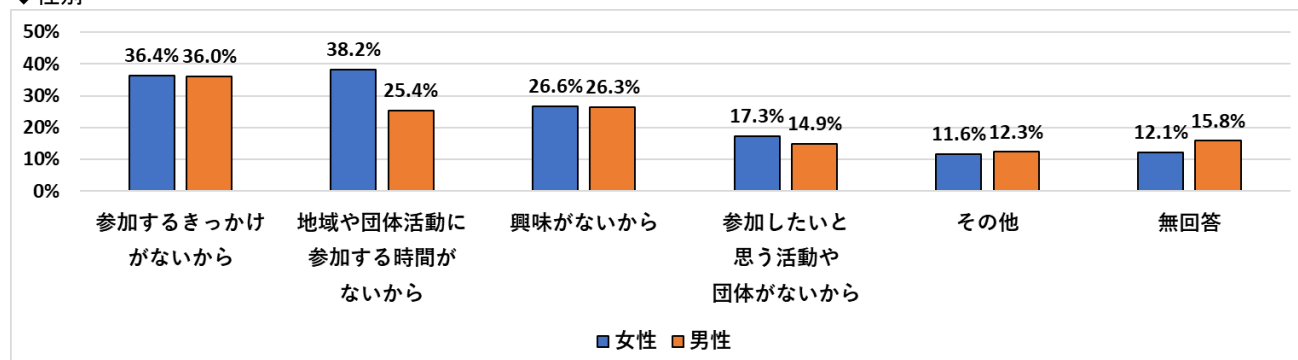
問5-2 問5で「②地域活動に参加していない」「③地域活動に参加したいが、できない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。次の中から、2つまでお選びください。

- 「参加するきっかけがないから」が35.5%と最も高く、「地域や団体活動に参加する時間がないから」が33.1%となっている。
- 性別では、女性で「地域や団体活動に参加する時間がないから」が38.2%と最も高くなっている。
- 年代別では、40歳代で「興味がないから」が最も高くなっている。

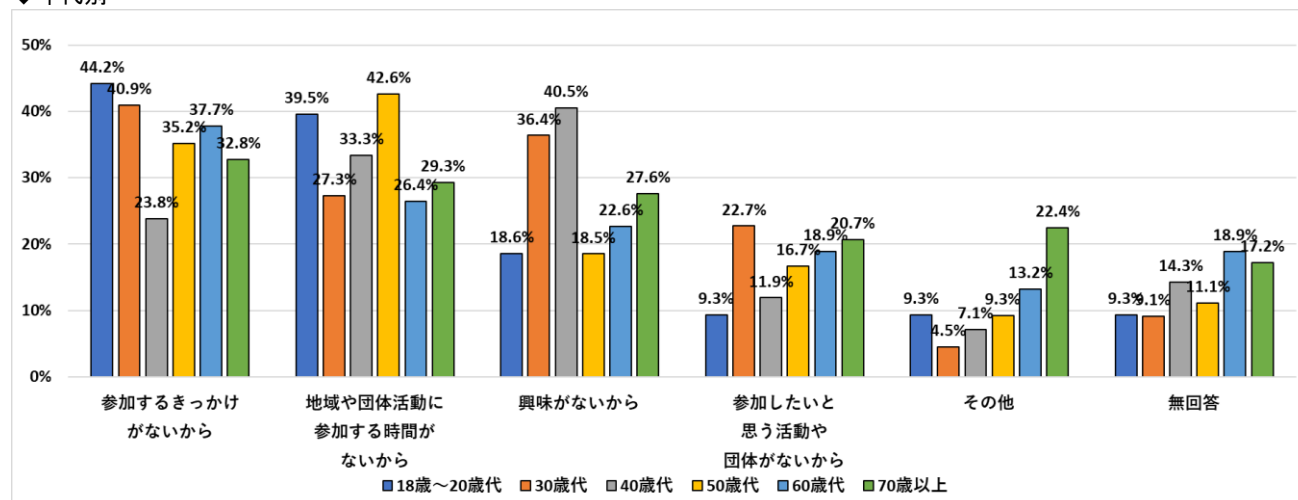
◆全体



◆性別



◆年代別

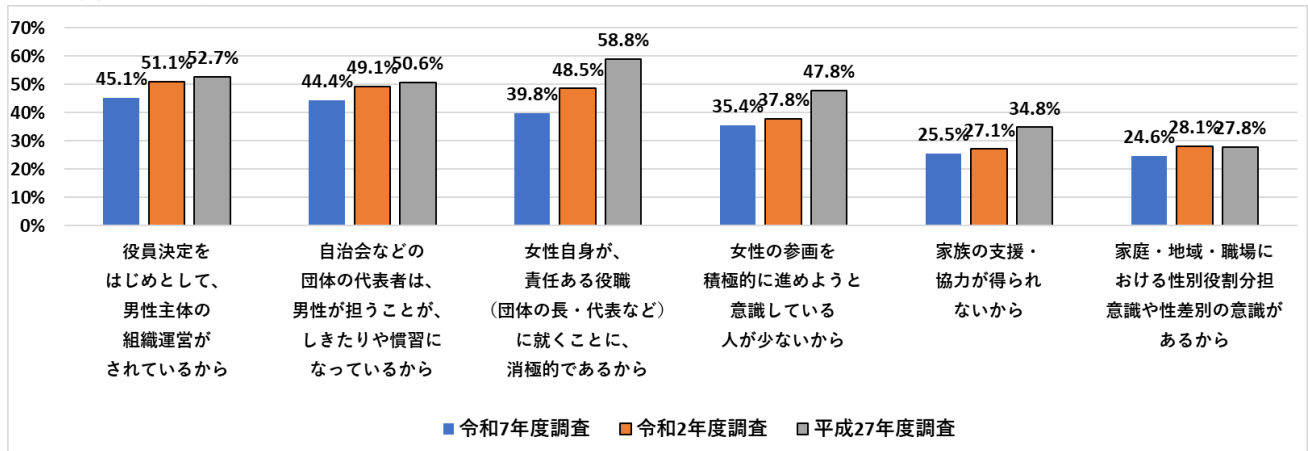


女性の参画が少ない理由 「男性主体の組織運営がされているから」45.1%

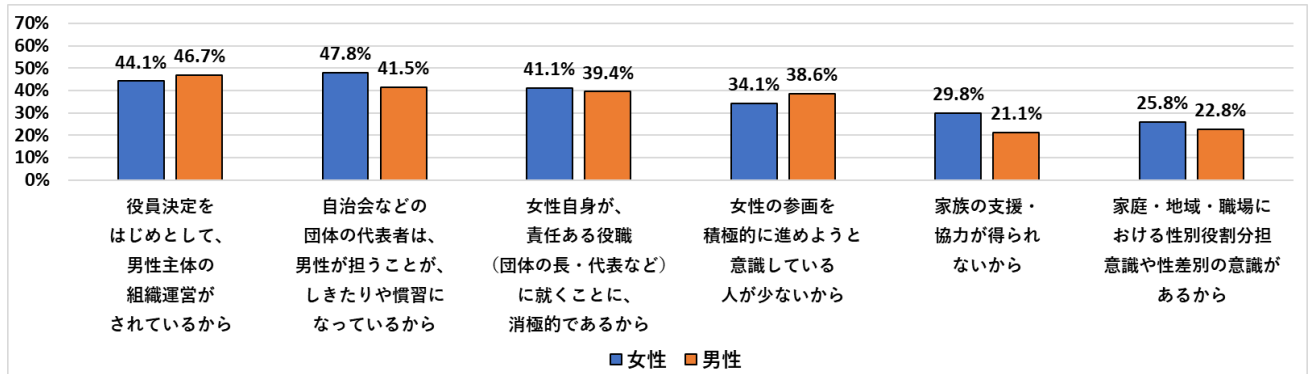
問6 女性の社会参画は進みつつありますが、自治会（区や公民館）の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現状です。このような方針決定の過程に女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

- 「役員決定をはじめとして、男性主体の組織運営がされているから」が 45.1%と最も高く、以下、「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことが、しきたりや慣習になっているから」（44.4%）、「女性自身が、責任ある役職に就くことに、消極的であるから」（39.8%）の順になっている。
- 過去調査との比較ではいずれの回答割合も減少していることが見てとれる。
- 県調査では、「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことが、しきたりや慣習になっているから」が 55.4%で最も高くなっている。

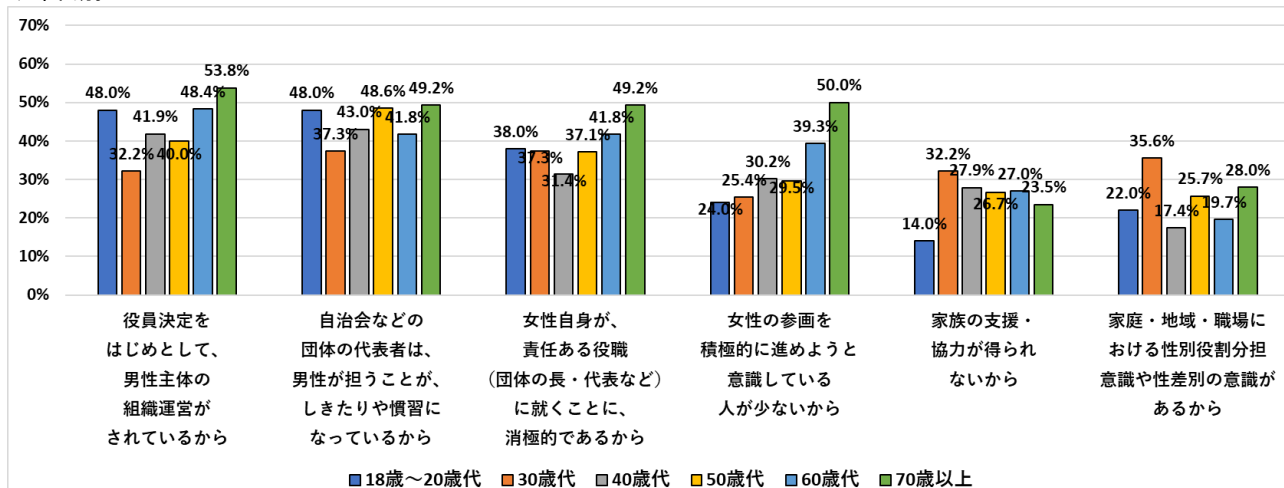
◆過去調査との比較



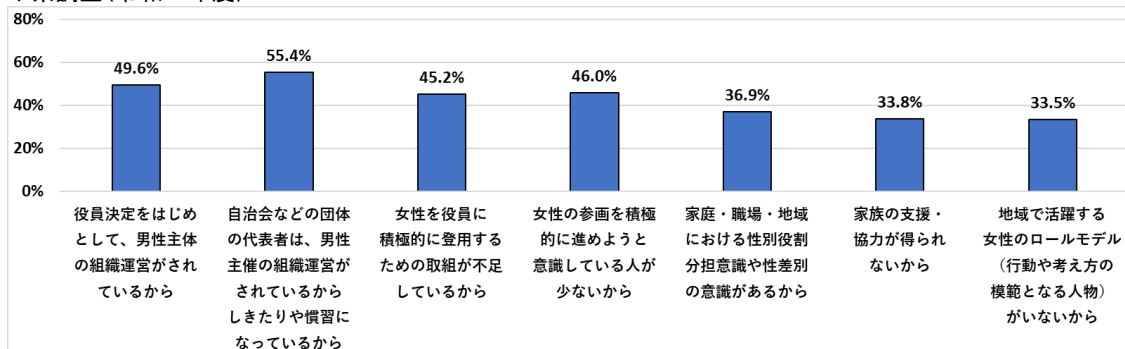
◆性別



◆年代別



◆県調査(令和6年度)



5 政策・方針決定について

女性議員・委員等の割合 「現在より増えた方がよい」69.6%

問7 政策・方針決定の場における女性の関与について、佐久市では、以下【参考】のような状況です。この数値について、あなたはどのように思いますか。

【参考】

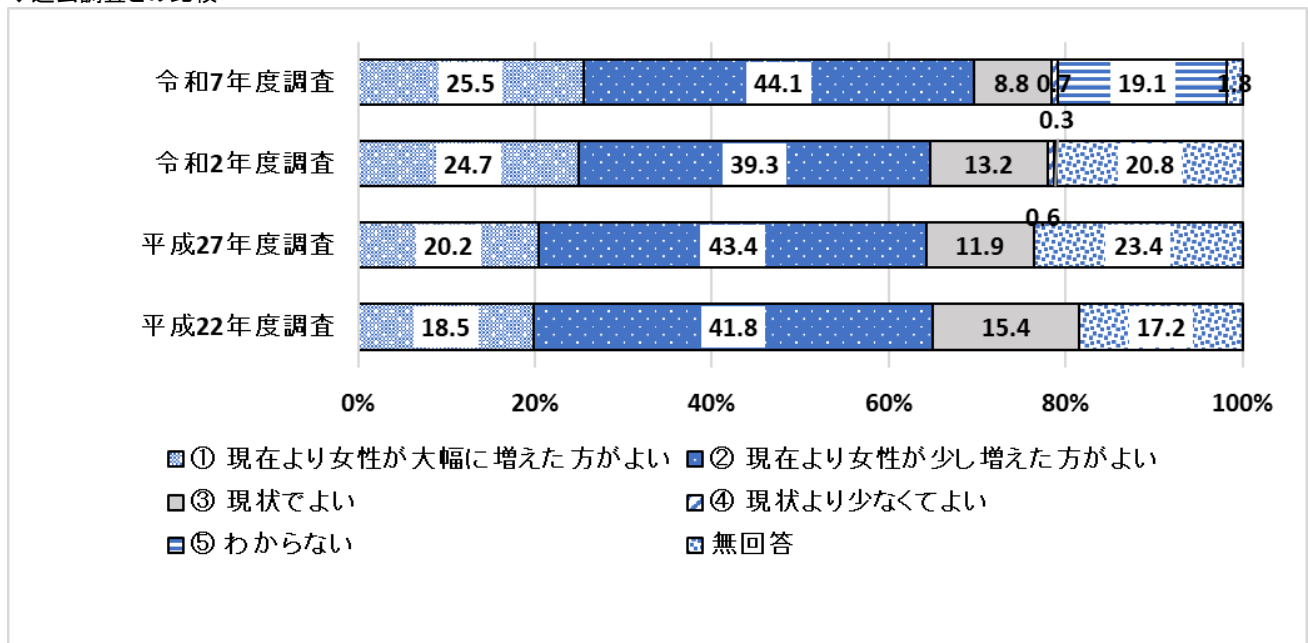
佐 久 市	総 数	うち女性委員数	女性の割合
審議会等の委員	630 人	248 人	39.4%
議会議員	26 人	5 人	19.2%
小・中 P T A会長	21 人	7 人	33.3%
自治会長（区長）数	238 人	4 人	1.7%
管理職に占める女性の割合（市職員）	97 人	13 人	13.4%

（内閣府：令和6年度地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況調査より）

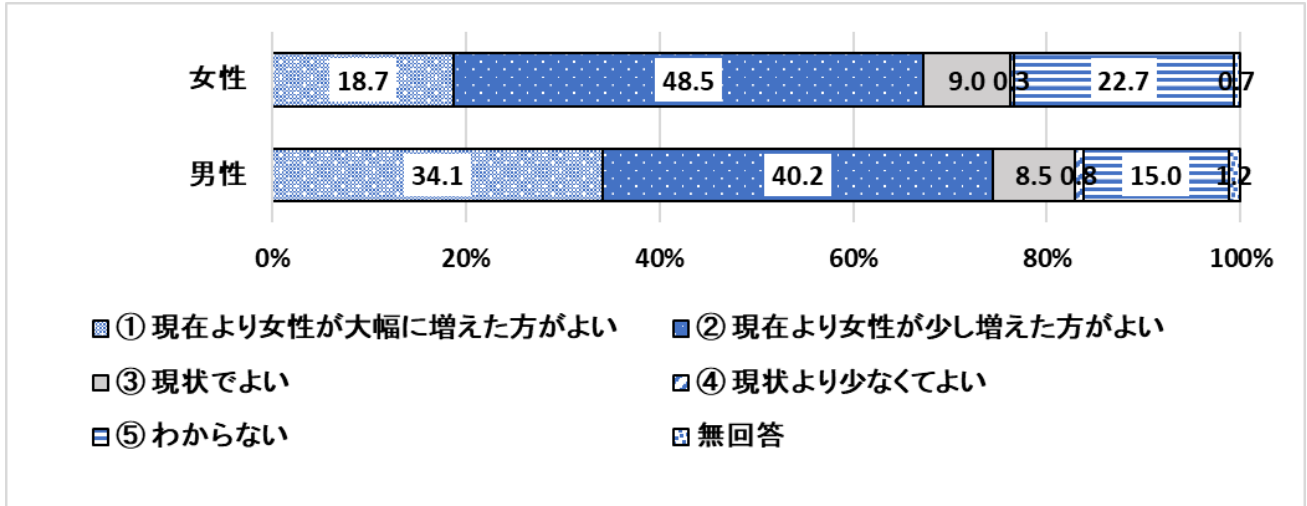
●「現在より女性が大幅に増えた方がよい」または「現在より女性が少し増えた方がよい」割合は69.6%となっている。

●前回調査と比較では、「現在より女性が大幅に増えた方がよい」「現在より女性が少し増えた方がよい」割合はともに微増している。

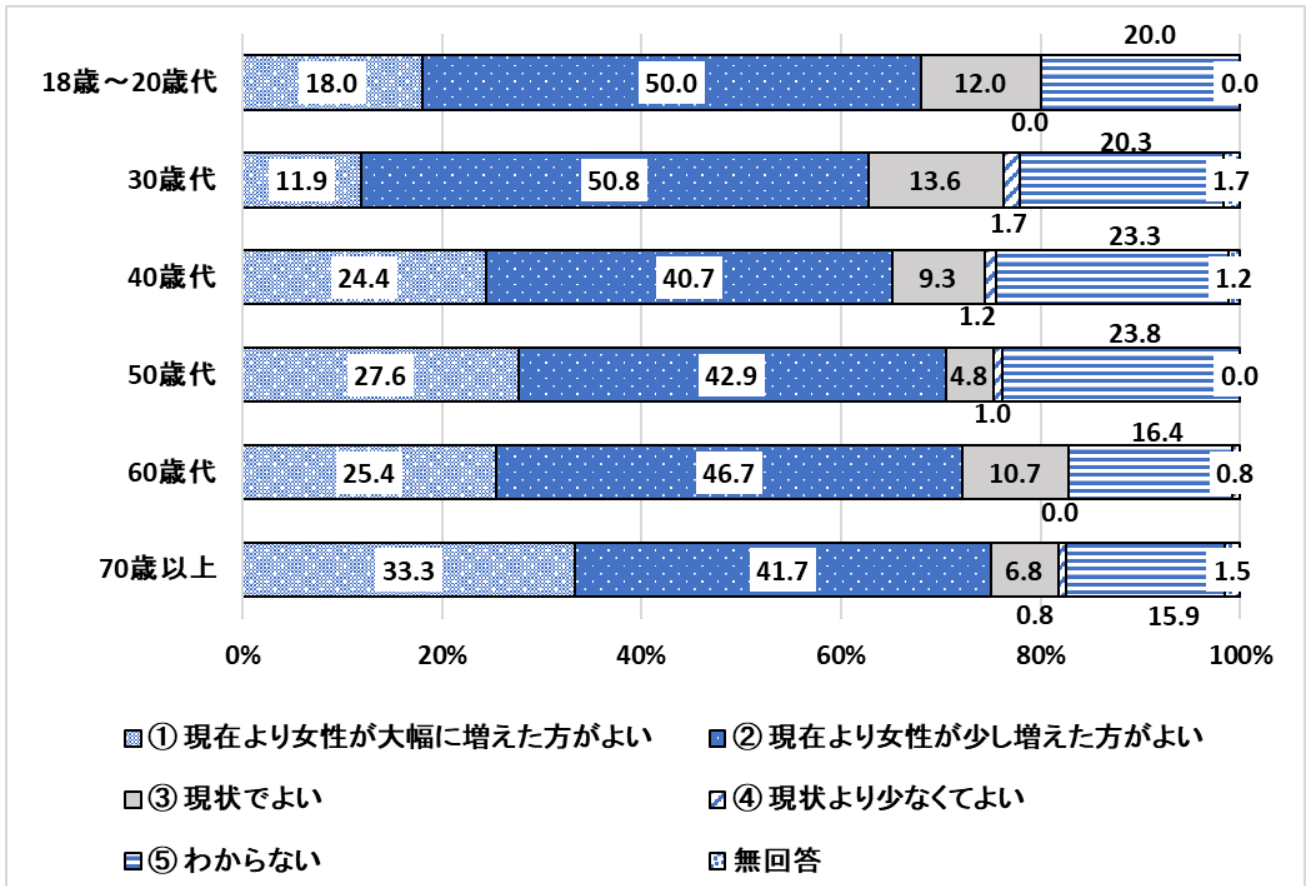
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



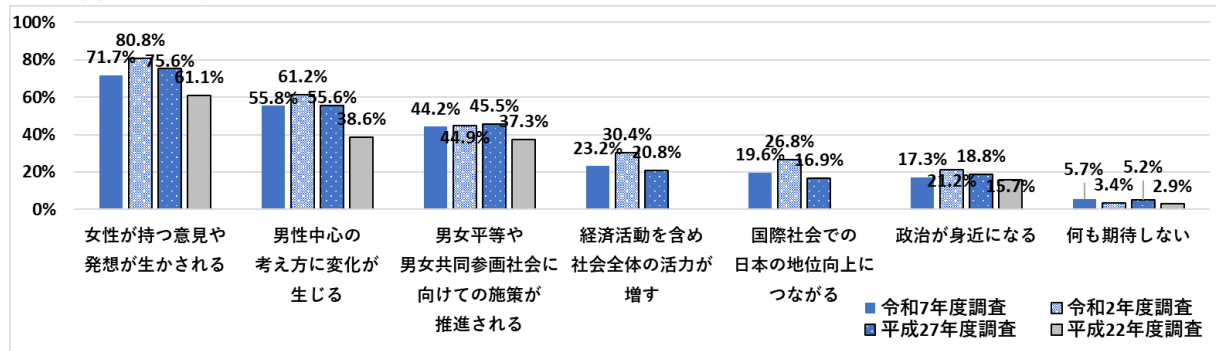
政策・方針決定の場 「女性が持つ意見や発想が生かされる」71.7%

問8 政策・方針決定の場に、女性が増えることで何を期待しますか。あてはまるものを全てお答えください。
(該当する番号の左側に○をお付けください)

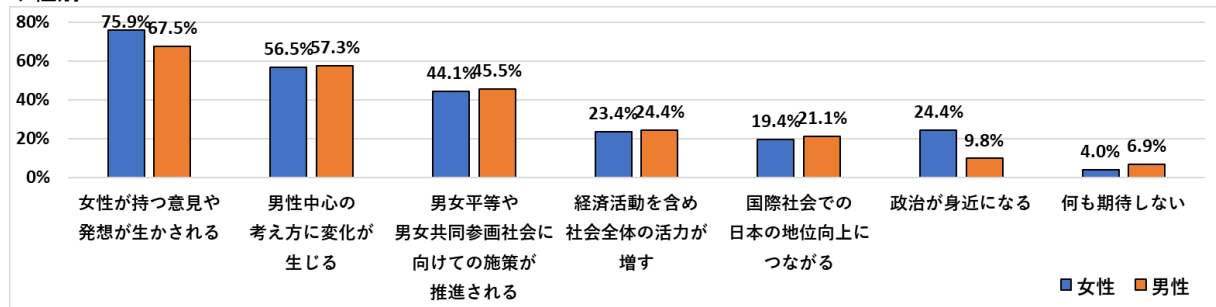
●「女性が持つ意見や発想が生かされる」が 71.7%と最も高く、以下、「男性中心の考え方に変化が生じる」(55.8%)、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(44.2%)、「経済活動を含め社会全体の活力が増す」(23.2%)の順となっている。

●過去調査と比較してみると、順位に変動は見られない。

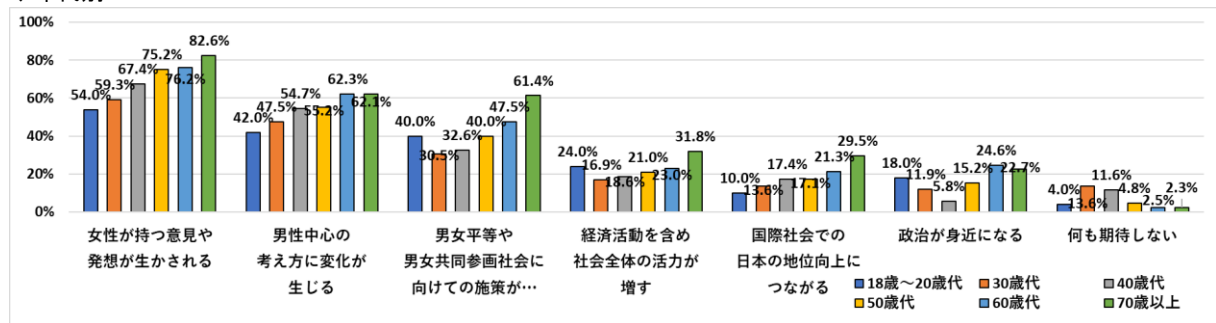
◆過去調査との比較



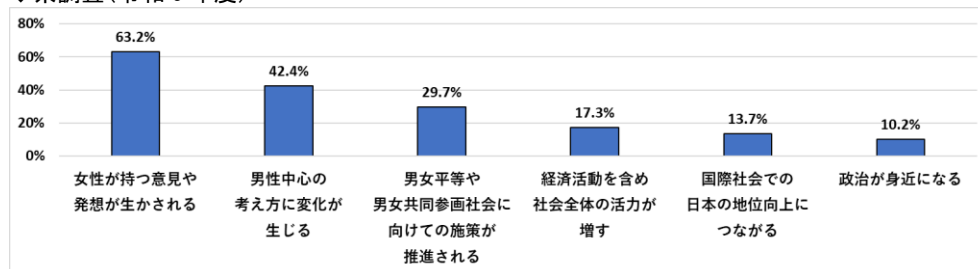
◆性別



◆年代別



◆県調査(令和6年度)



6 防災・災害復興について

防災・災害復興対策に必要な取組 女性の参画「必要である」全体で8割超え

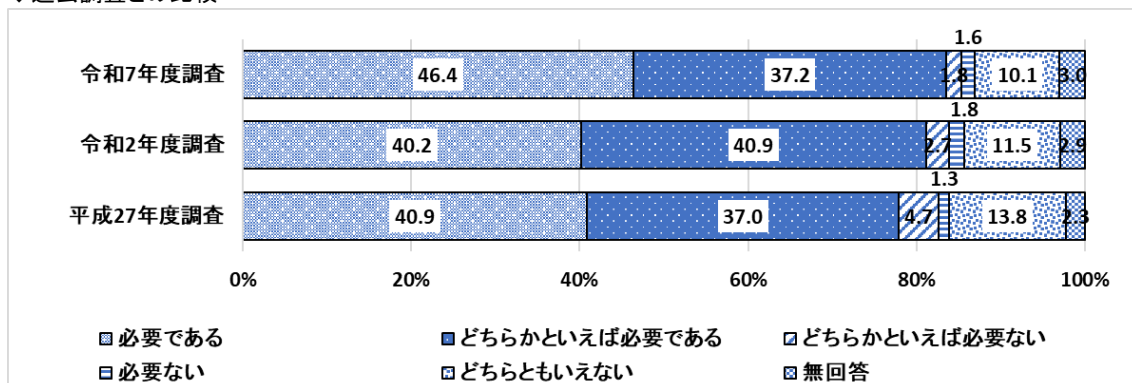
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

A 防災会議や対策本部の女性委員を増やしたり、防災計画や復興計画策定に女性が参画すること

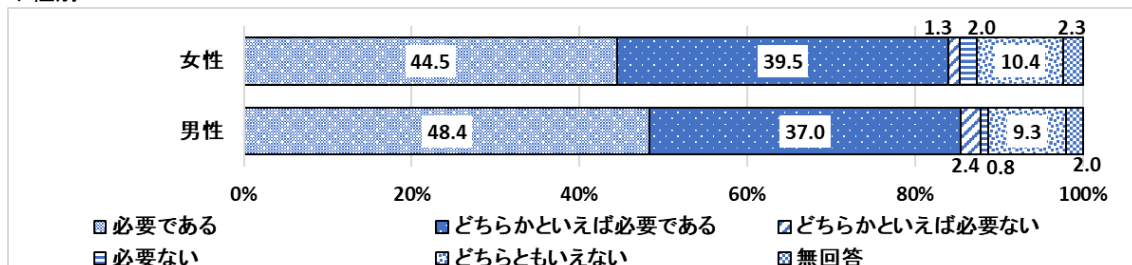
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 83.6%で、「必要」は全体の 8 割以上を占める。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 84.0%、男性 85.4%となっている。

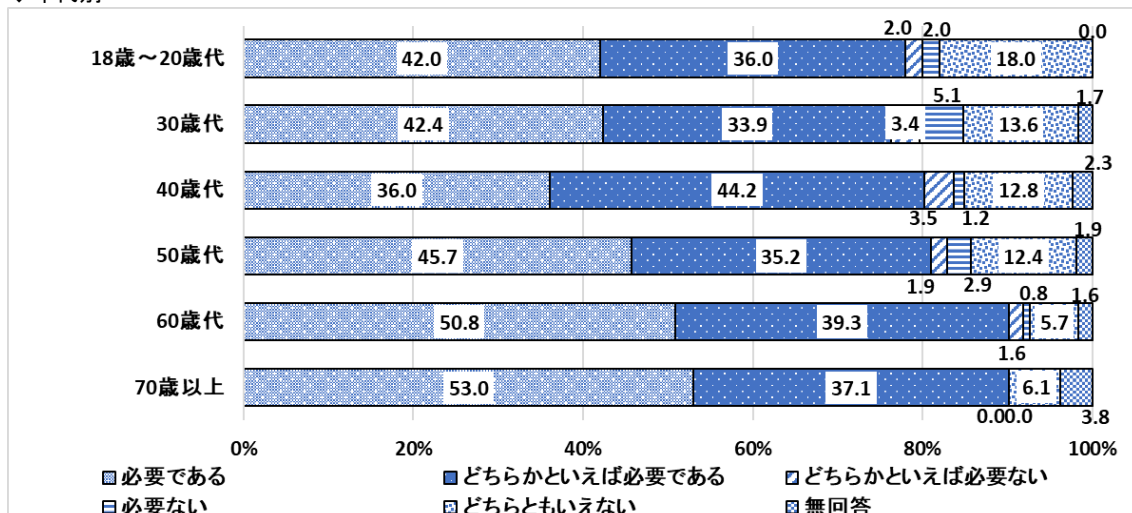
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



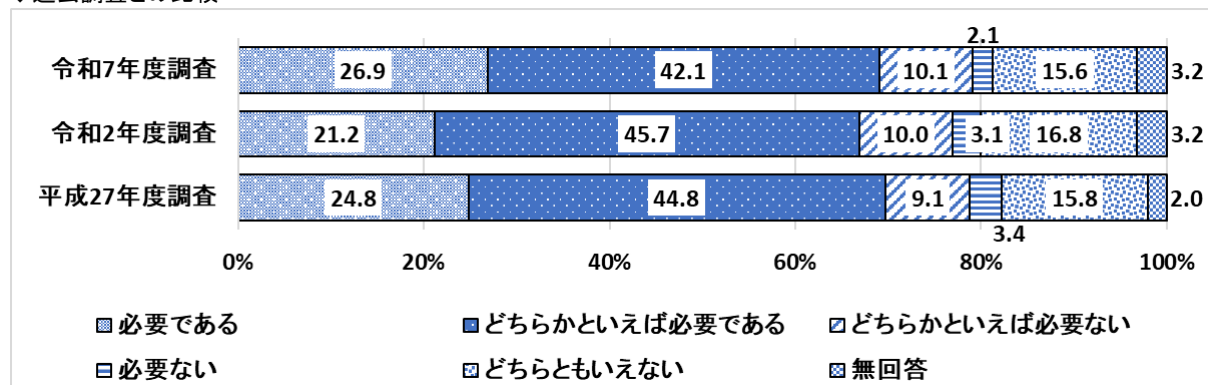
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

B 消防団員、消防署員、警察官や県・市町村の防災担当職員に女性を増員すること

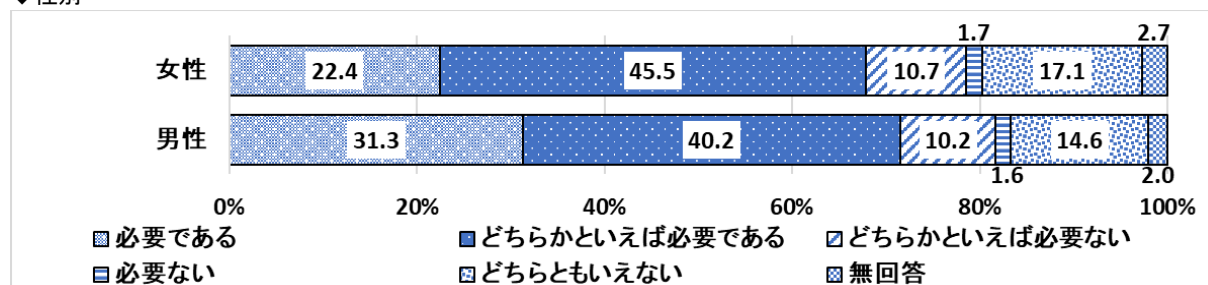
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 69.0%となっている。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 67.9%、男性 71.5%となっている。

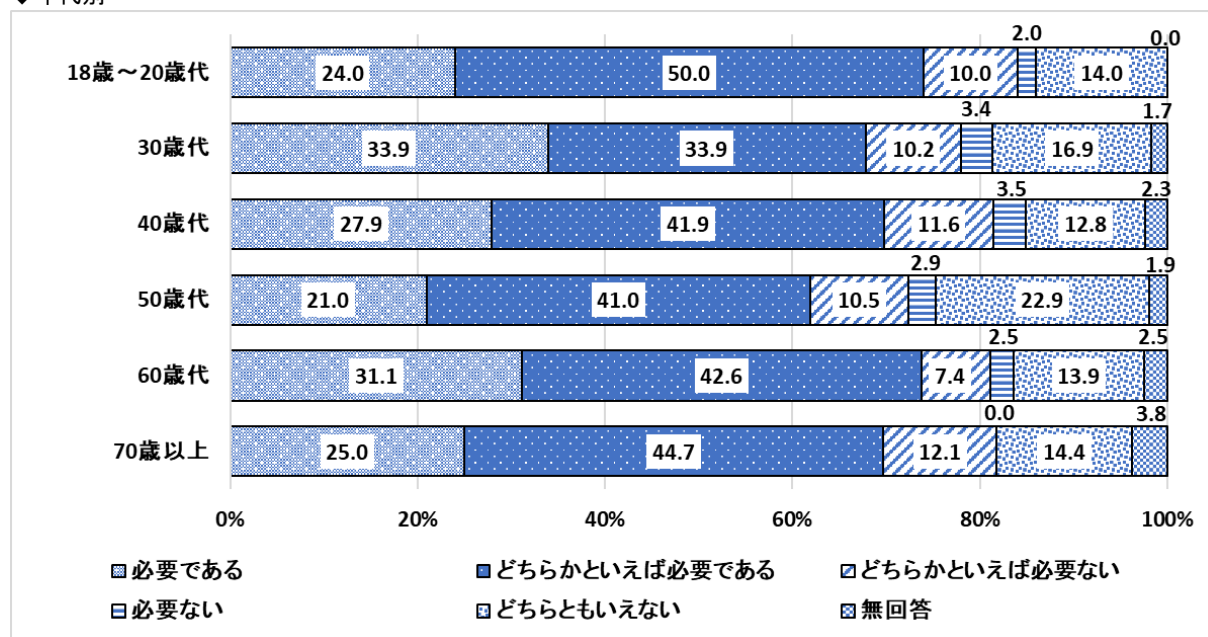
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



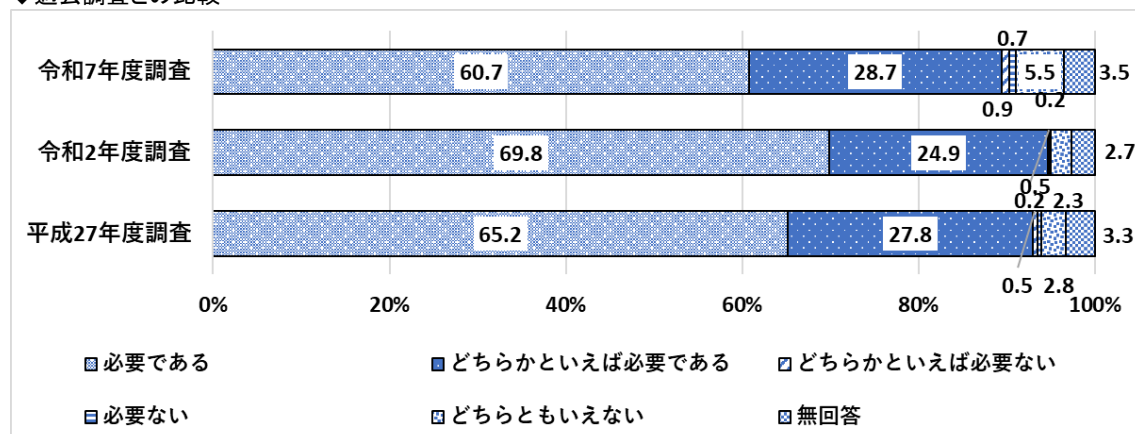
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

C 災害時の救援医療体制づくり(診察・治療体制、妊産婦への支援体制など)

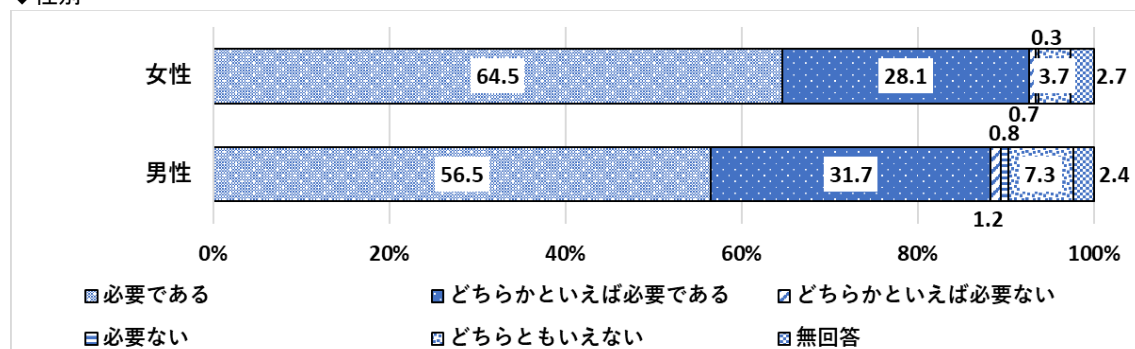
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 89.4%となっている。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 92.6%、男性 88.2%となっている。

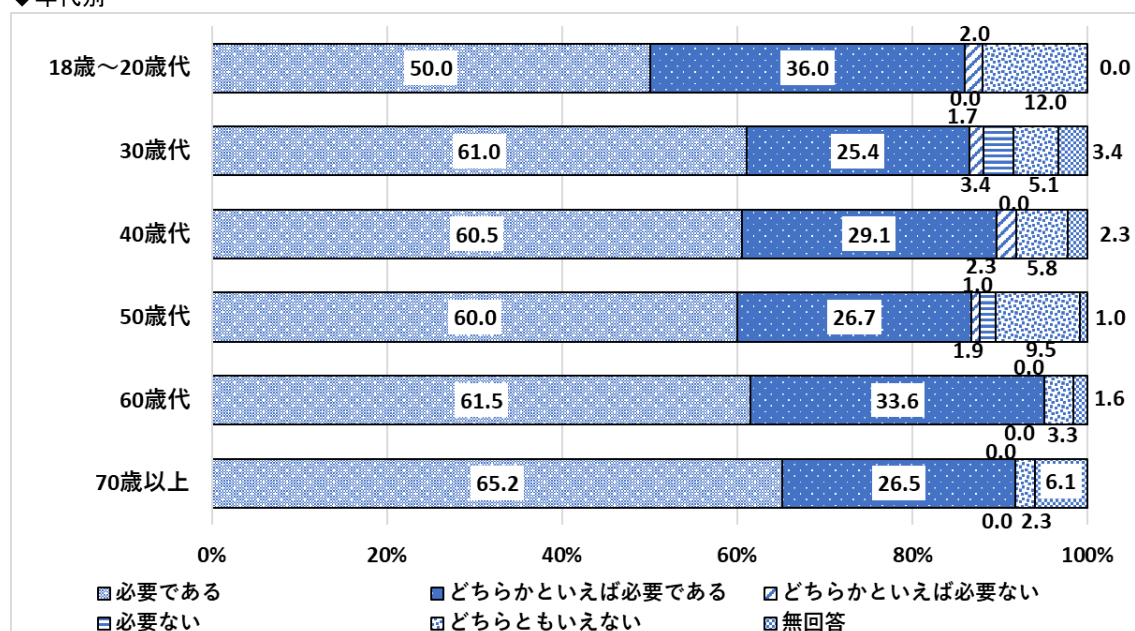
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



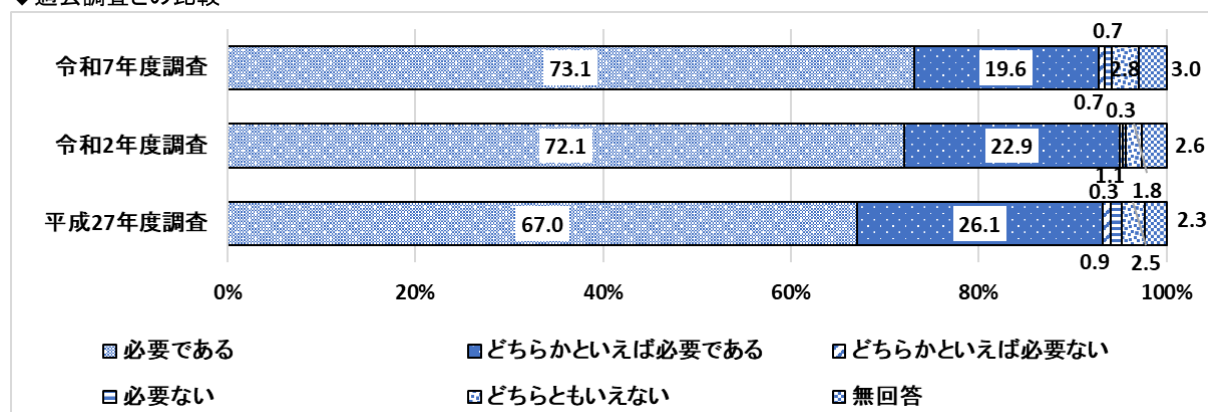
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

D 避難所の設備に関すること(男女別トイレ・更衣室・物干し場・防犯対策など)

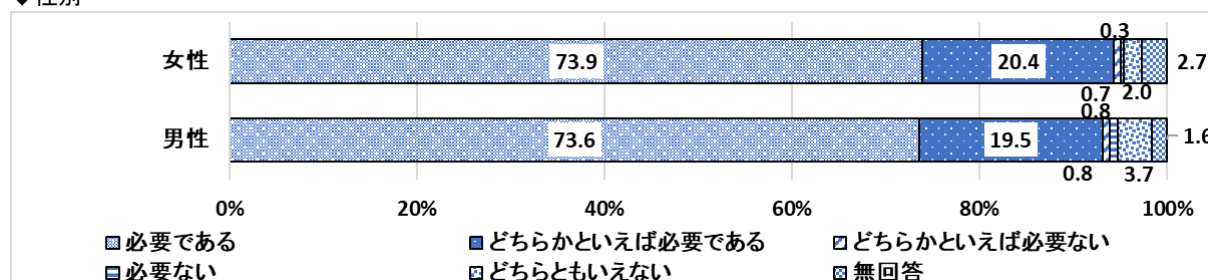
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 92.7%となっており、必要度はかなり高い。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 93.1%となっている。

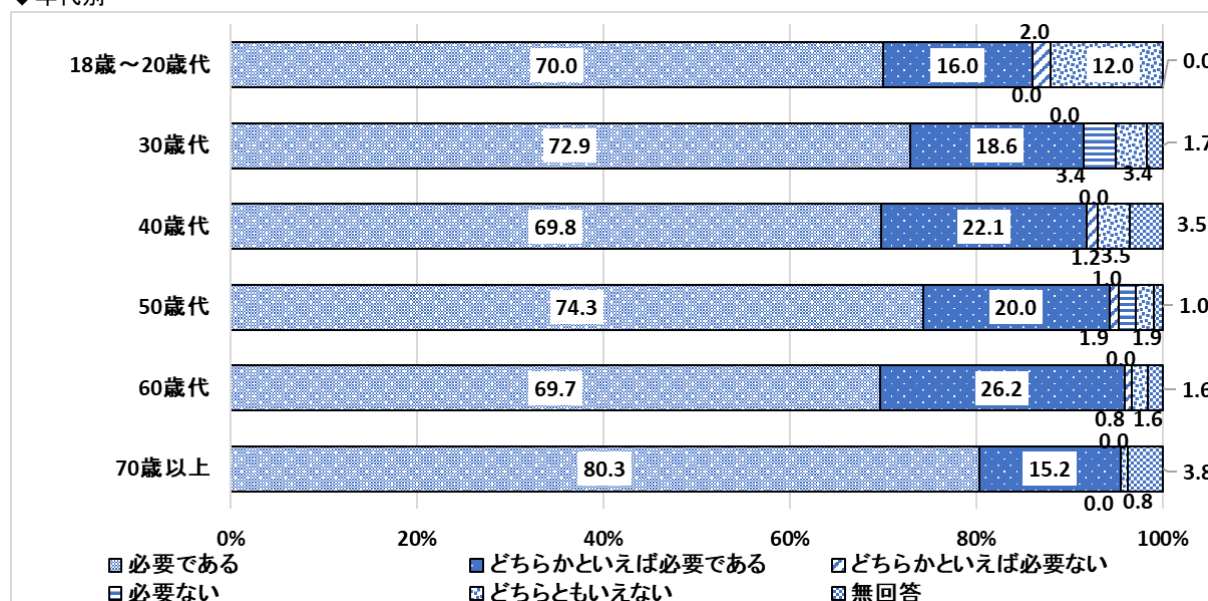
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



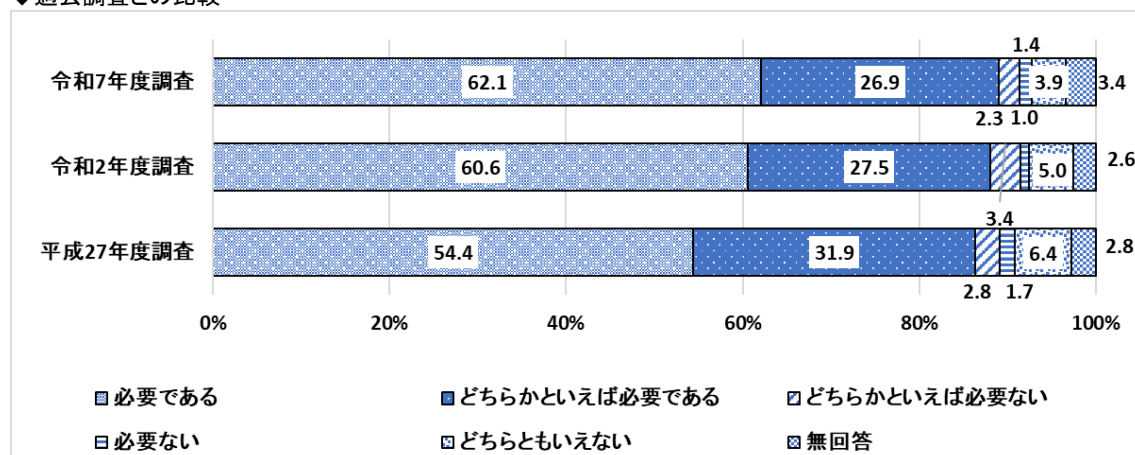
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要だと思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

E 避難所運営責任者に男女がともに配置されること

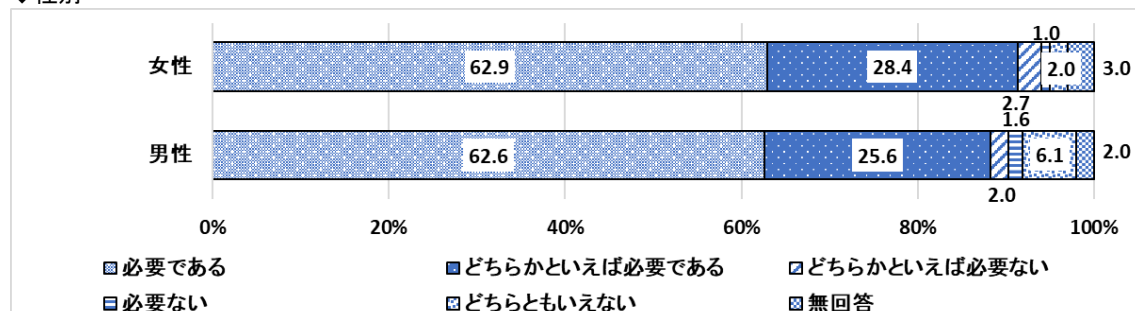
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 89.0%となっている。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 91.3%、男性 88.2%となっている。

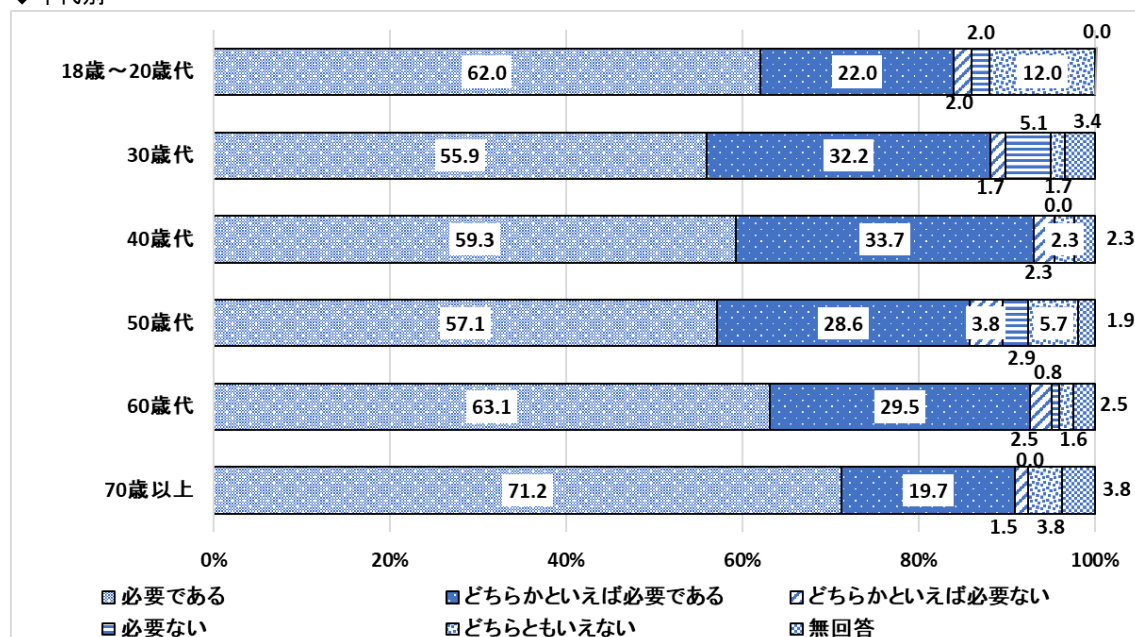
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



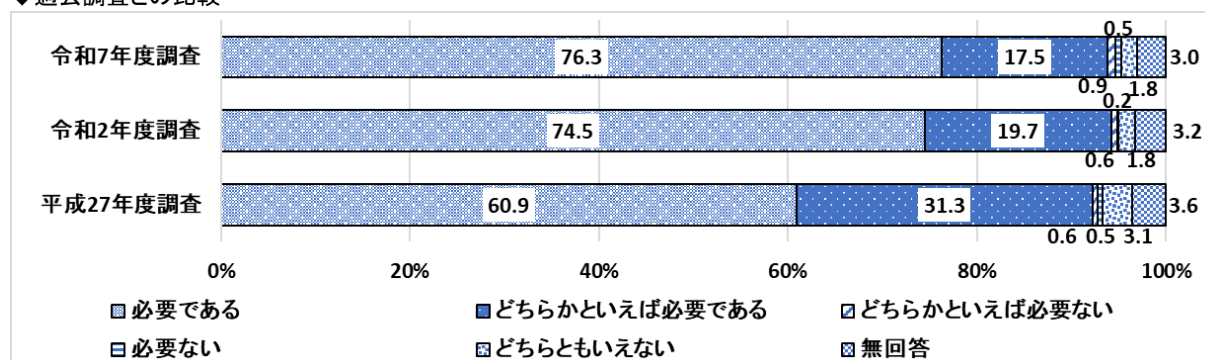
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

F 必要な備蓄品や支給に関する配慮(生理ナプキンの配布等)

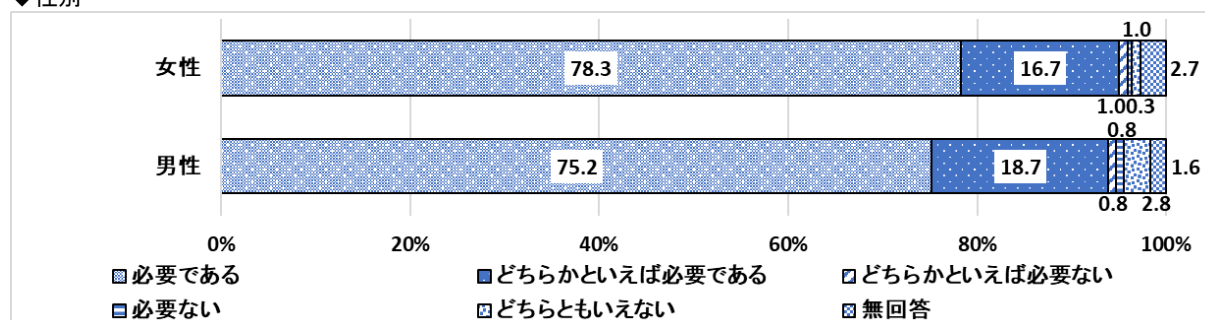
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 93.8%となっており、必要度はかなり高い。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 95.0%、男性 93.4%となっている。

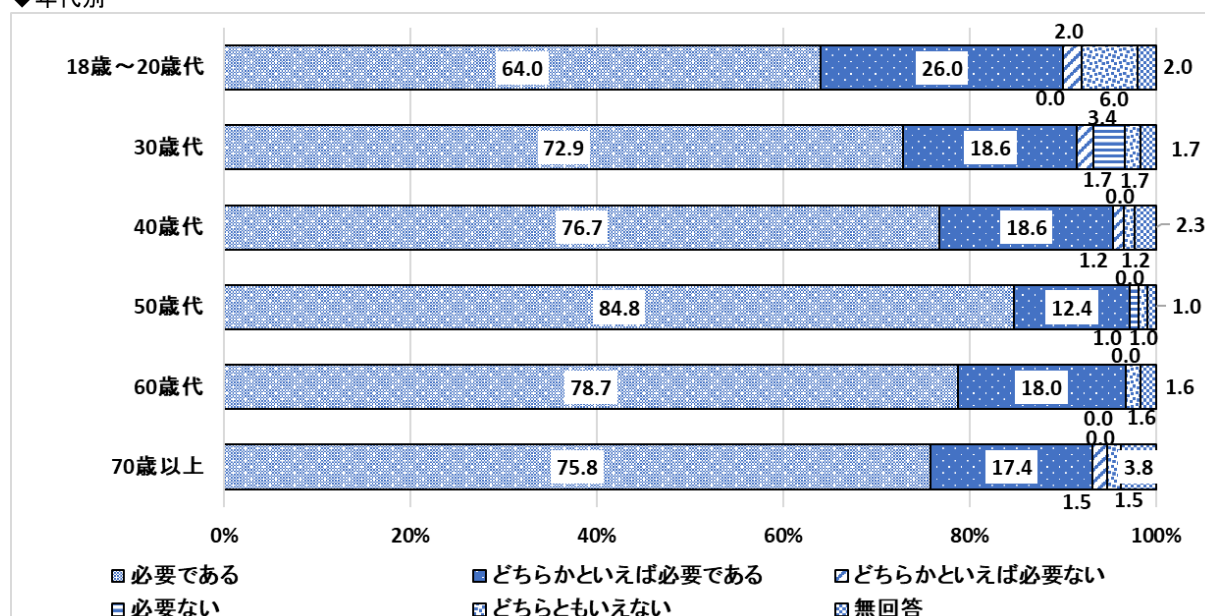
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



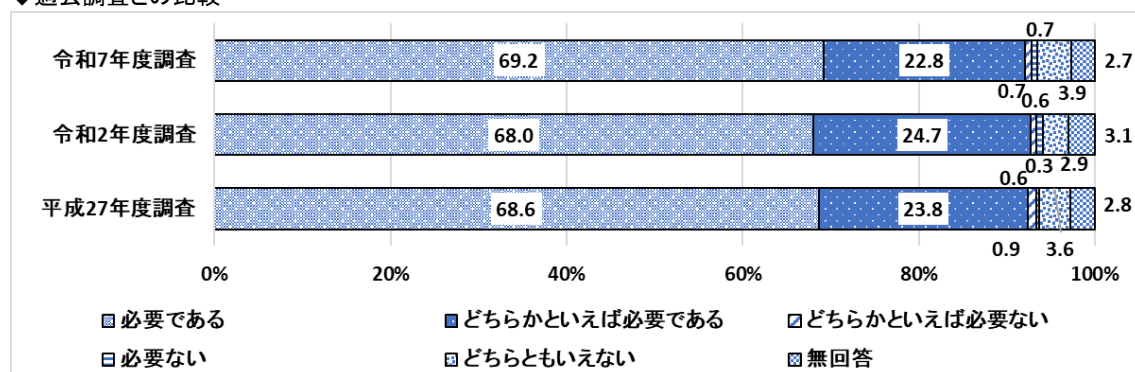
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

G 被災者向けの相談体制の充実(女性相談・男性相談)

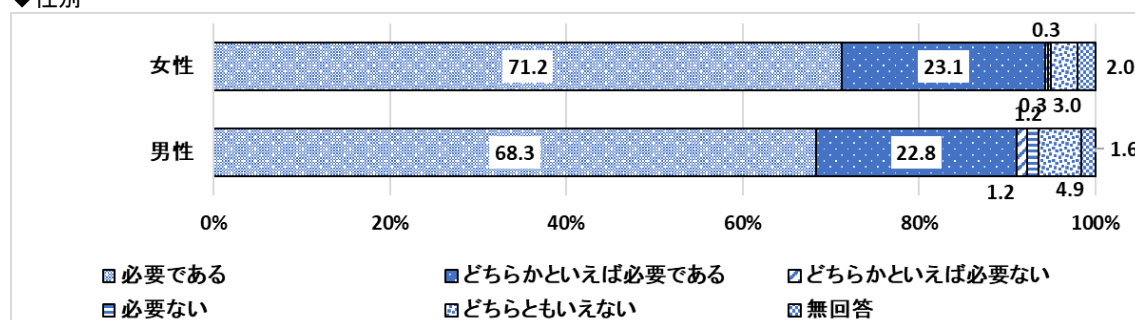
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 92.0%となっており、必要度はかなり高い。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 91.1%となっている。

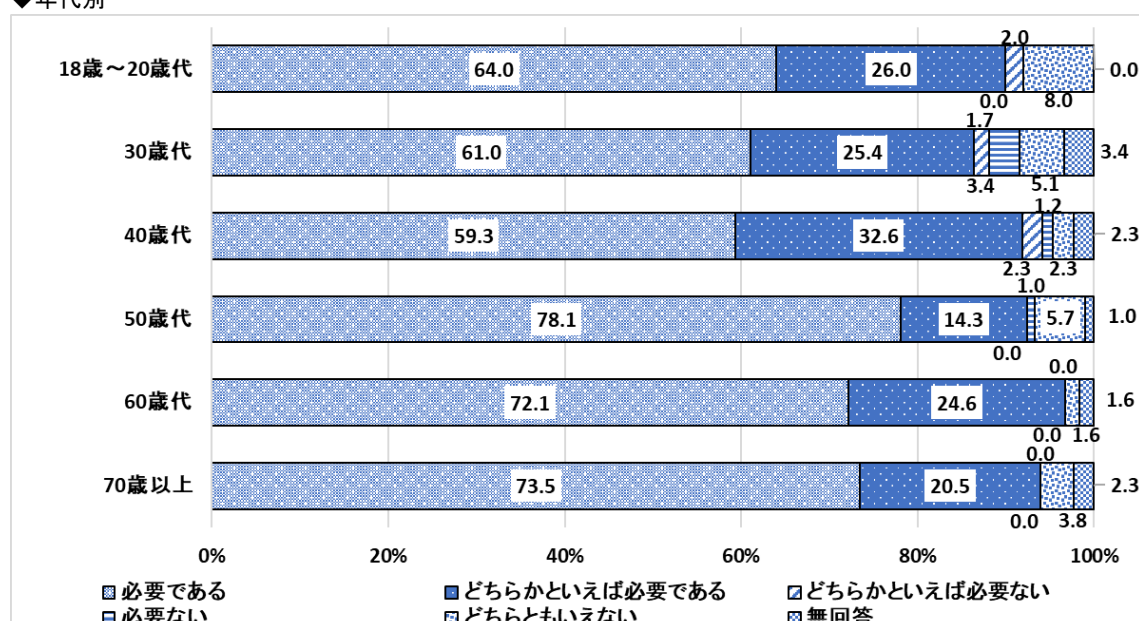
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



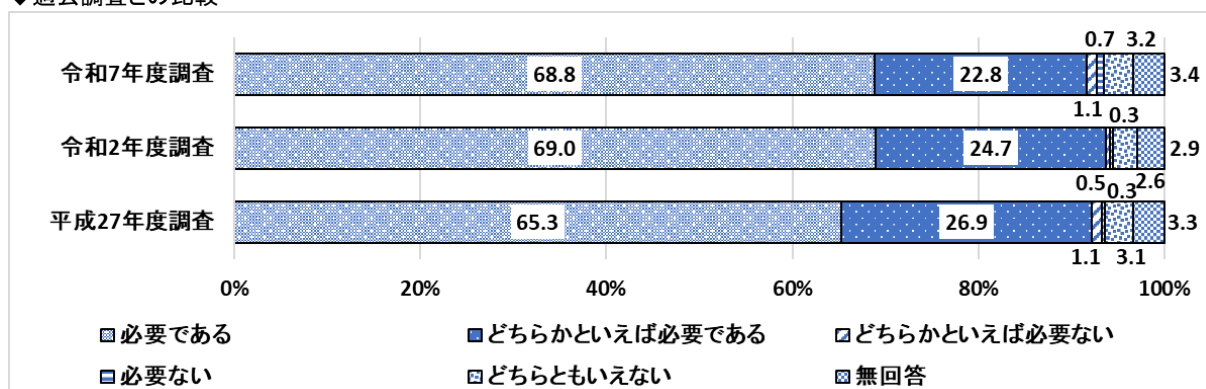
問9 あなたは、防災・災害復興対策において、男女共同参画の視点からどのような取り組みが必要であると思いますか。次のA～Hそれぞれについて、該当する番号に○をお付けください。

H 仮設住宅設置や生活再建支援における配慮(設計への意見反映や乳幼児の一時預かりなど)

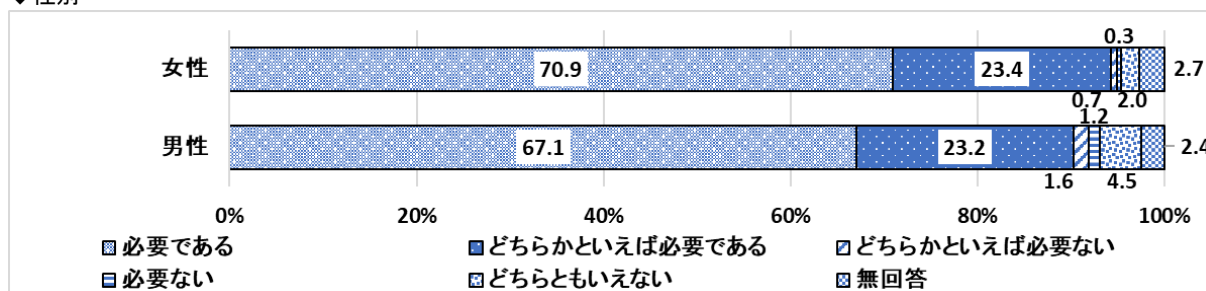
●「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は 91.6%となっており、必要度はかなり高い。

●性別では、「必要である」または「どちらかといえば必要である」割合は女性 94.3%、男性 90.3%となっている。

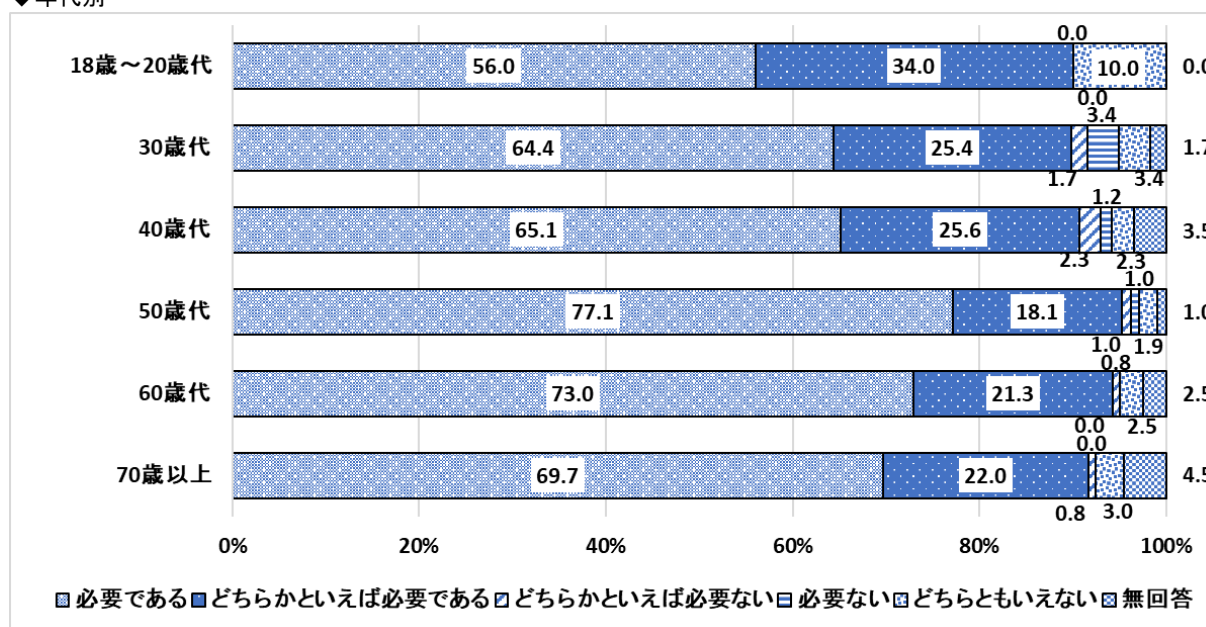
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



7 ワーク・ライフ・バランスについて

生活の優先度 「仕事(学業)、家庭生活をともに優先」が【理想】【現実】ともに最多

問 10 「仕事(学業)」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についておたずねします。

問 10-1 まず、あなたの理想(希望)に最も近いものを一つだけお答えください。

問 10-2 次に、あなたの現実(現状)に最も近いものを一つだけお答えください。

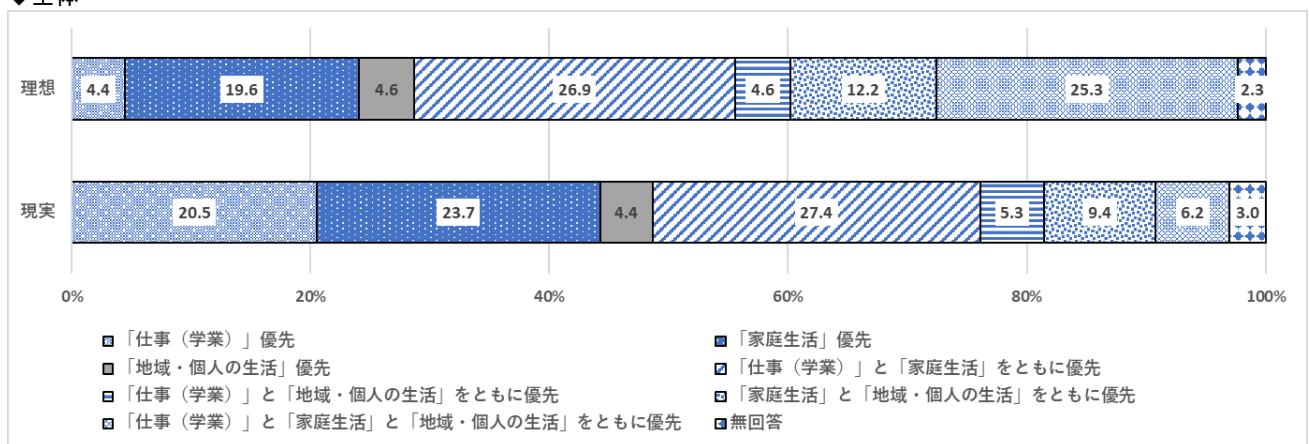
●生活の優先度として、「仕事(学業)」と「家庭生活」をともに優先するを希望する割合は 26.9%で最も高くなっており、現実でも 27.4%と最も高くなっている。

●「仕事(学業)優先」を希望する割合は 4.4%であるが、現実には 20.5%が「仕事(学業)優先」となっており、理想と現実の乖離が見られる。

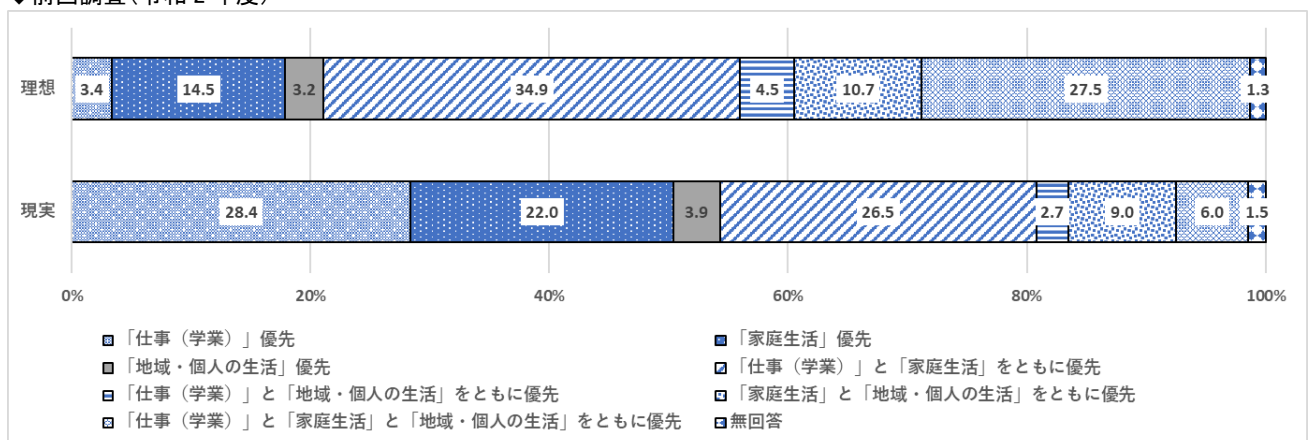
●年代別では、年代が上がるにつれ、現実の生活の優先度として、「仕事(学業)」優先の割合が低くなる傾向が見てとれる。

●前回調査では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先を希望する割合が最も高く(34.9%)、現実には「仕事」優先が 28.4%で最も高い割合であった。

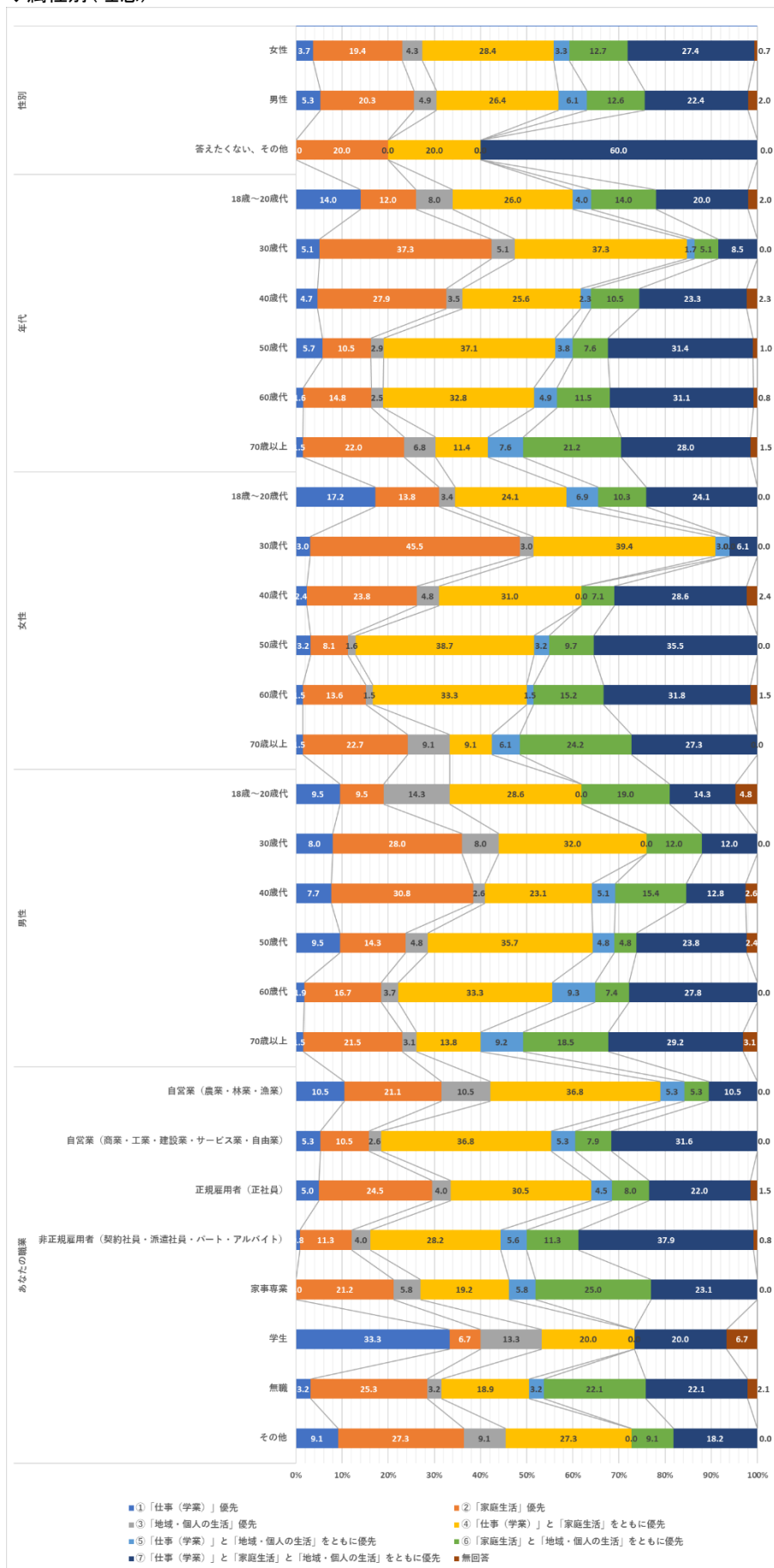
◆全体



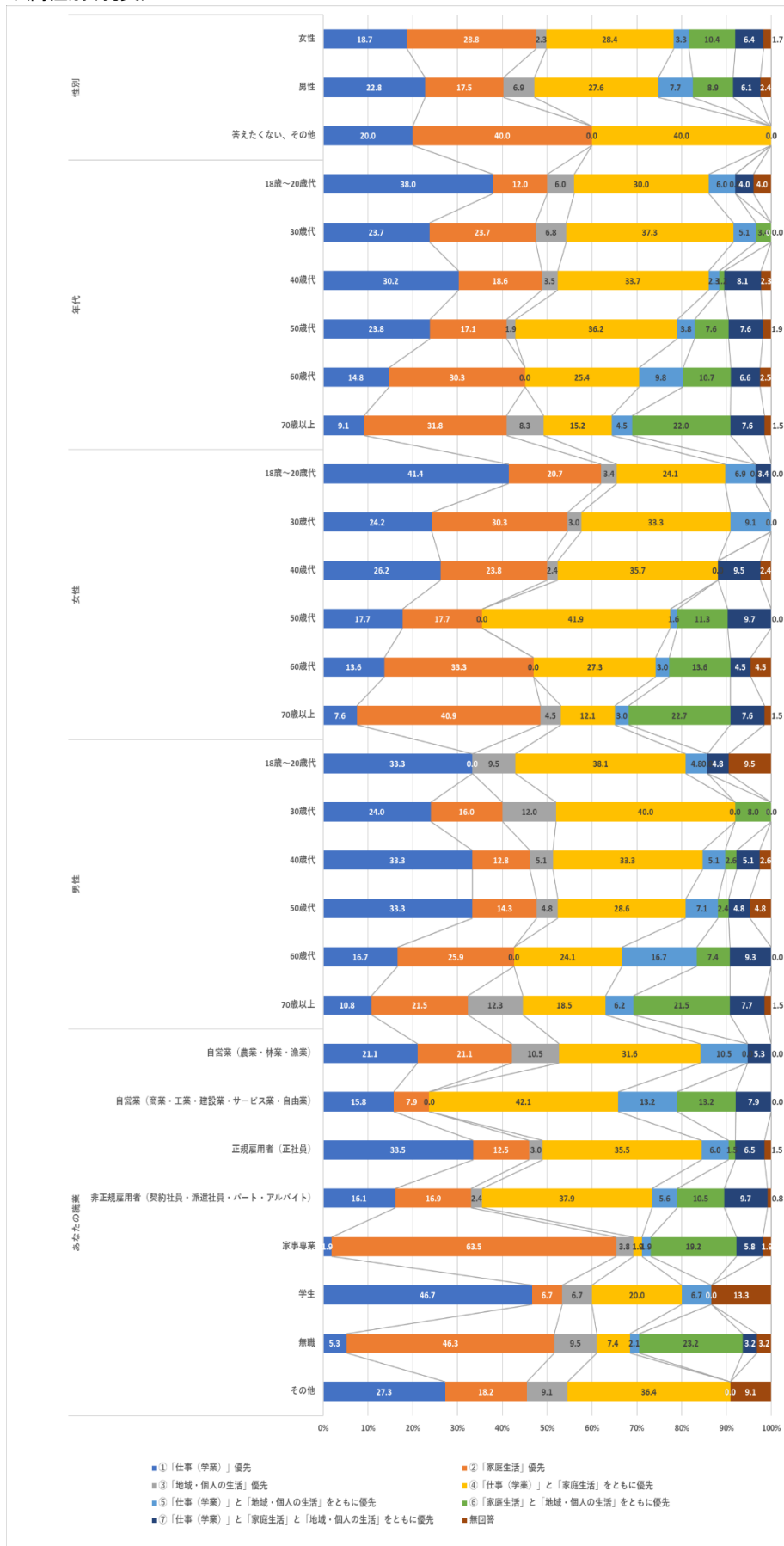
◆前回調査(令和2年度)



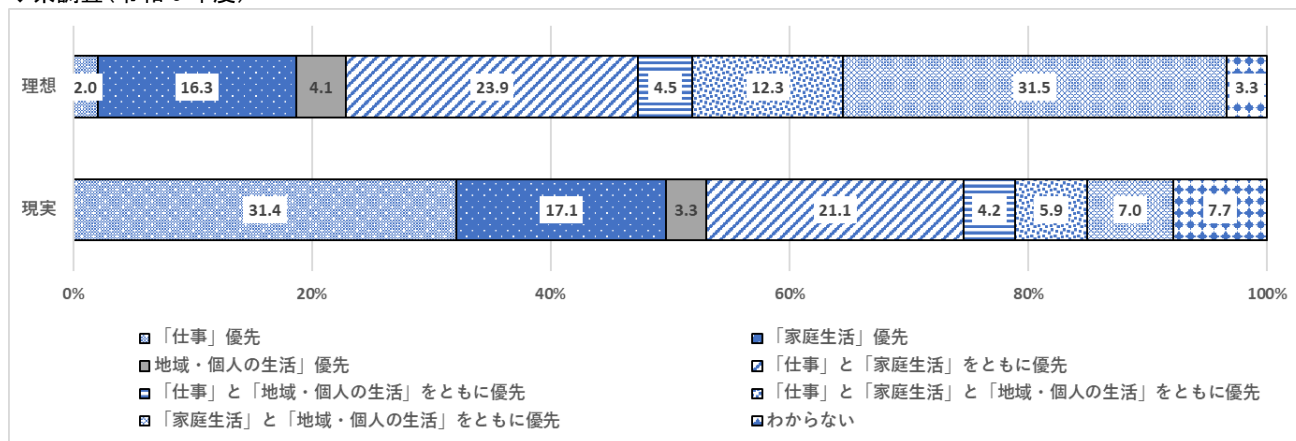
◆属性別(理想)



◆属性別（現実）



◆県調査(令和 6 年度)



育児休業取得 「男女ともに取得するのは当然だ」65.0%

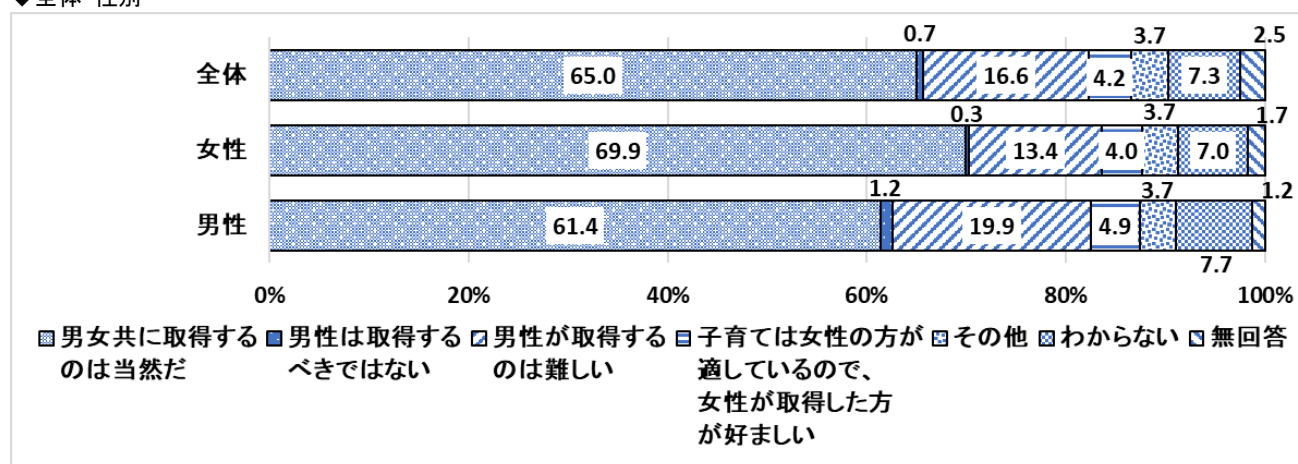
問 11 現在、男女共に育児休業を取得できる制度がありますが、あなたは、どのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを一つだけお答えください。

●「男女共に取得するのは当然だ」の割合は 65.0%と最も高く、「男性が取得するのは難しい」の割合が 16.6%となっている。

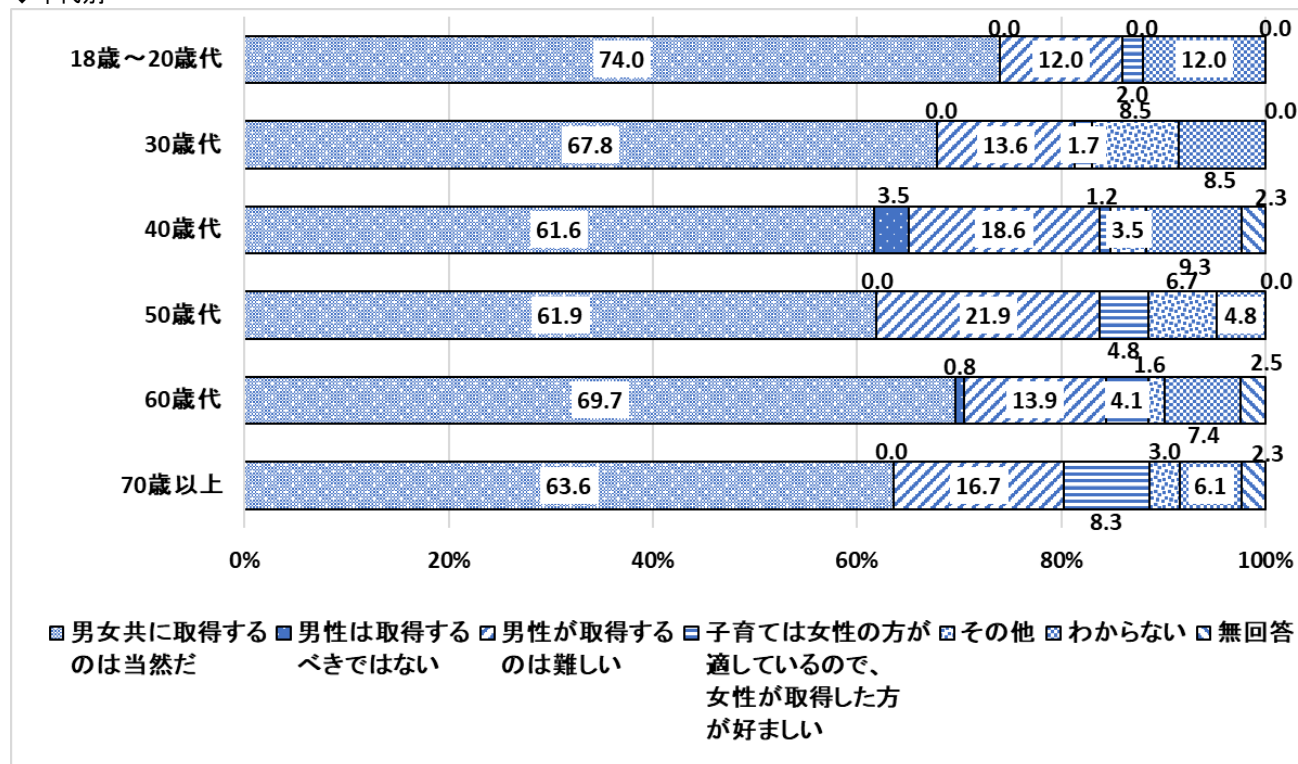
●「男女共に取得するのは当然だ」の割合を年代別に見ると、18 歳～20 歳代が 74.0%で最も高くなっている。職業別に見ると、非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)が 76.6%で最も高くなっている。

●「男性が取得するのは難しい」の割合を年代別に見ると、50 歳代が 21.9%で唯一 2 割を超えている。職業別に見ると、正規雇用者(正社員)が 22.0%で最も高くなっている。

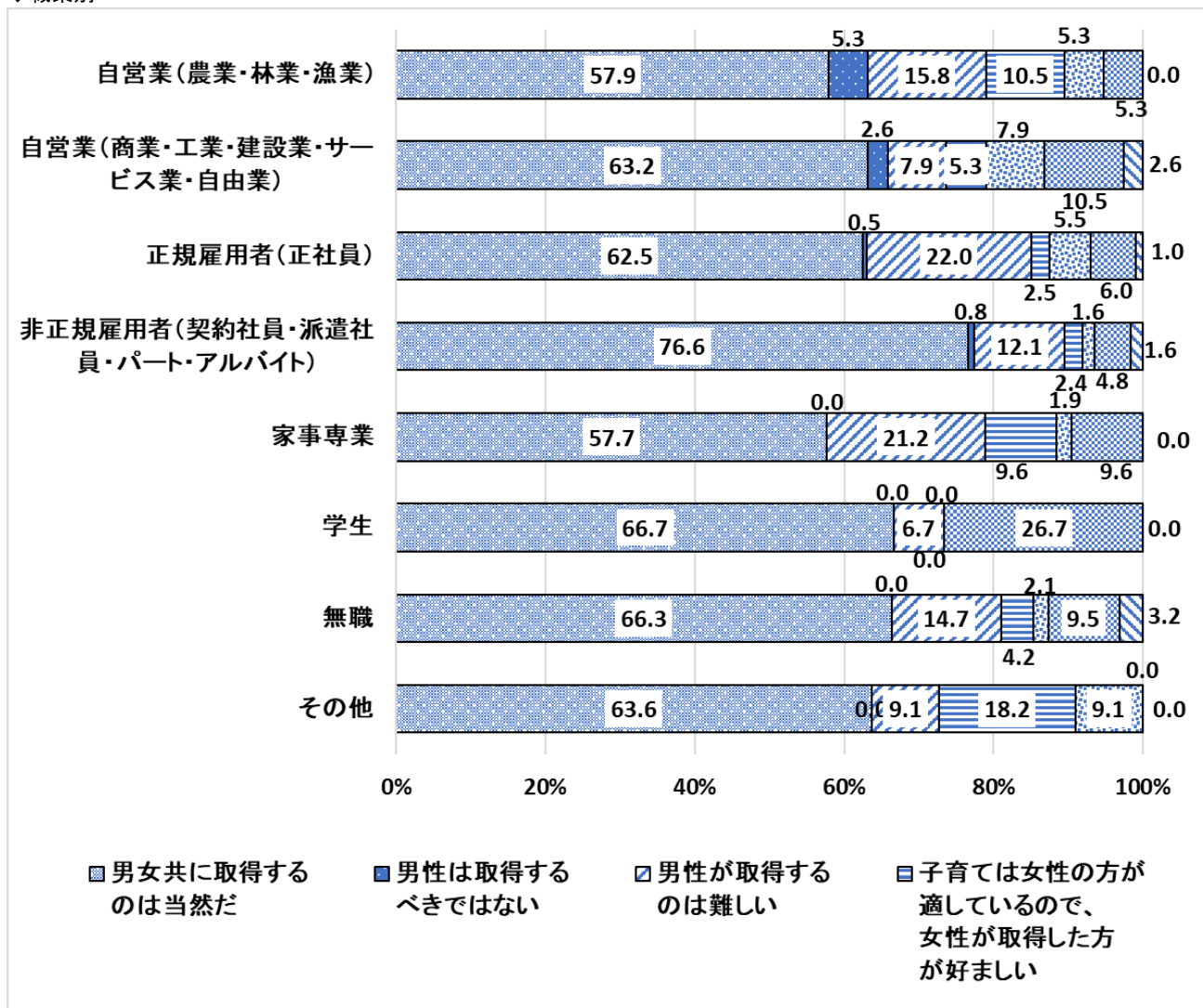
◆全体・性別



◆年代別



◆職業別



女性の参加に重要なこと 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」47.8%

問 12 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

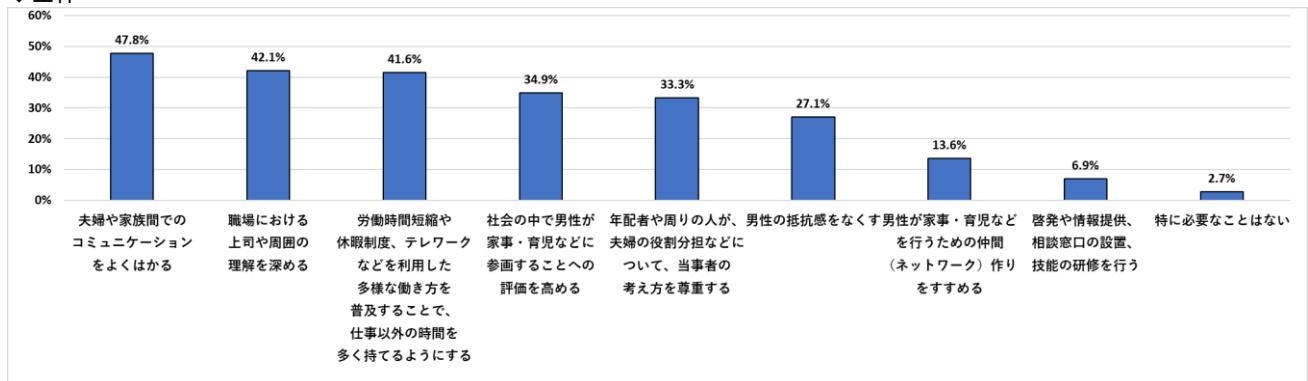
●「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が47.8%と最も高く、以下、「職場における上司や周囲の理解を深める」(42.1%)、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(41.6%)の順となっている。

●性別では、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が50.2%と最も高くなっている。

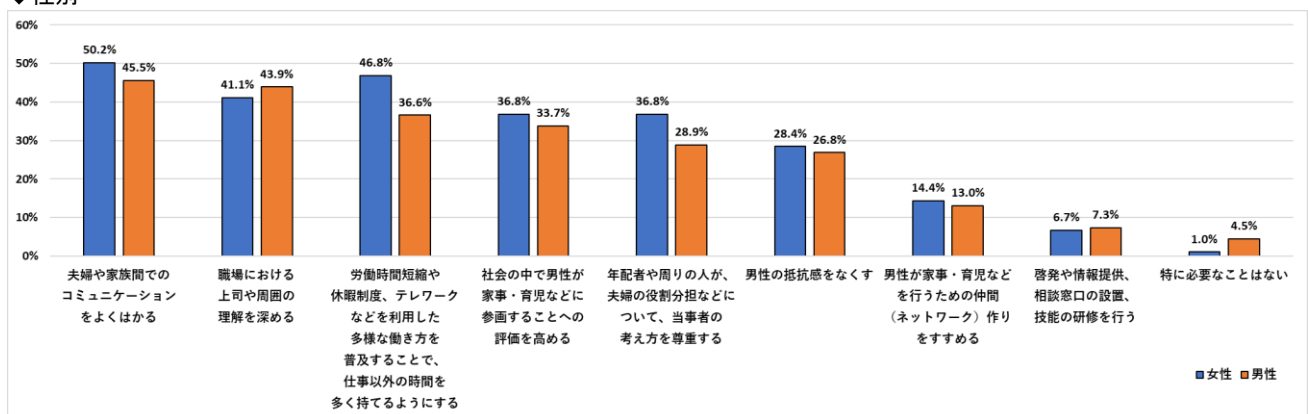
●年代別では、70歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が57.6%と高くなっている。

●県調査では、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や同僚の理解を進めること」(49.8%)、「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(43.3%)の順となっている。

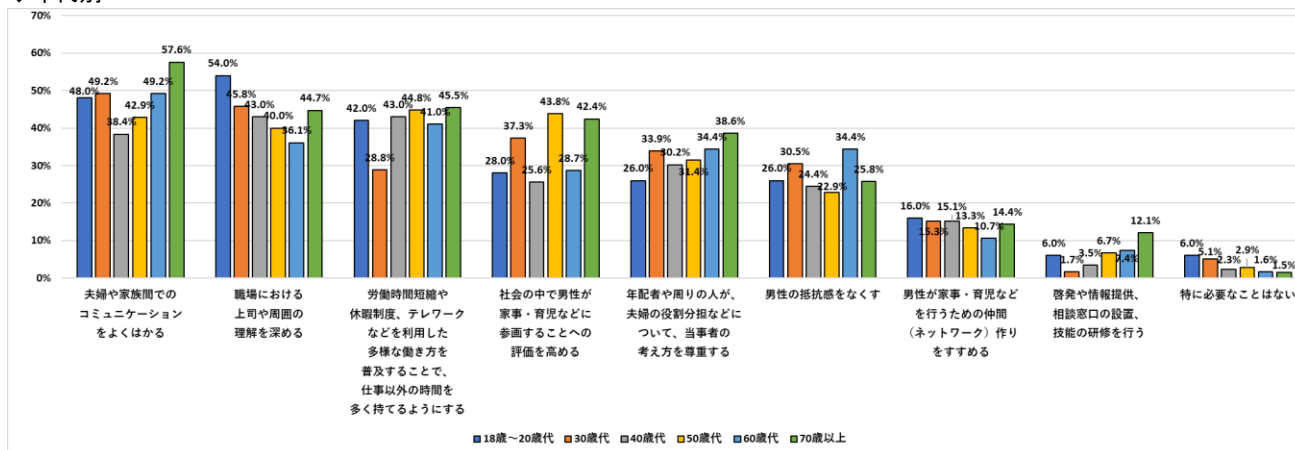
◆全体



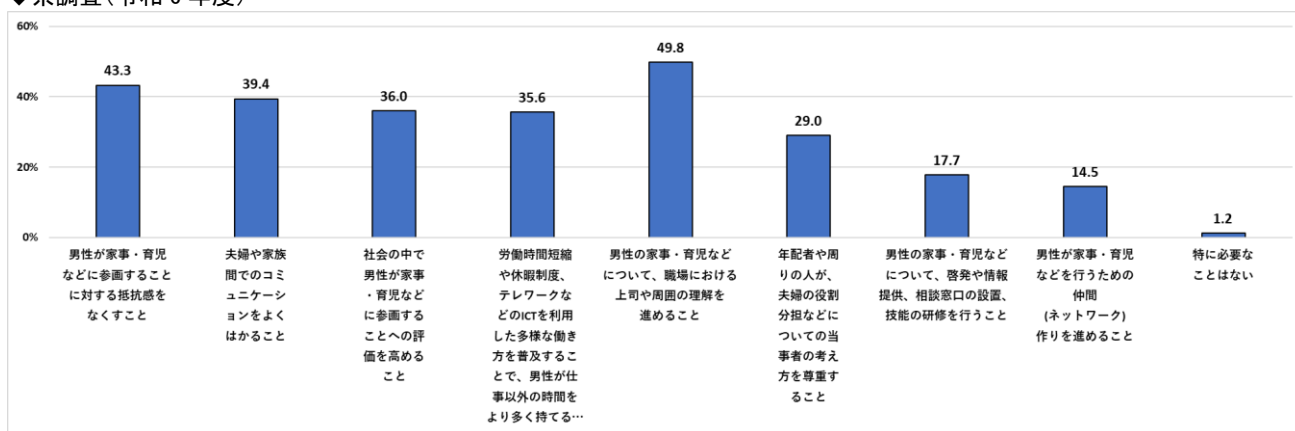
◆性別



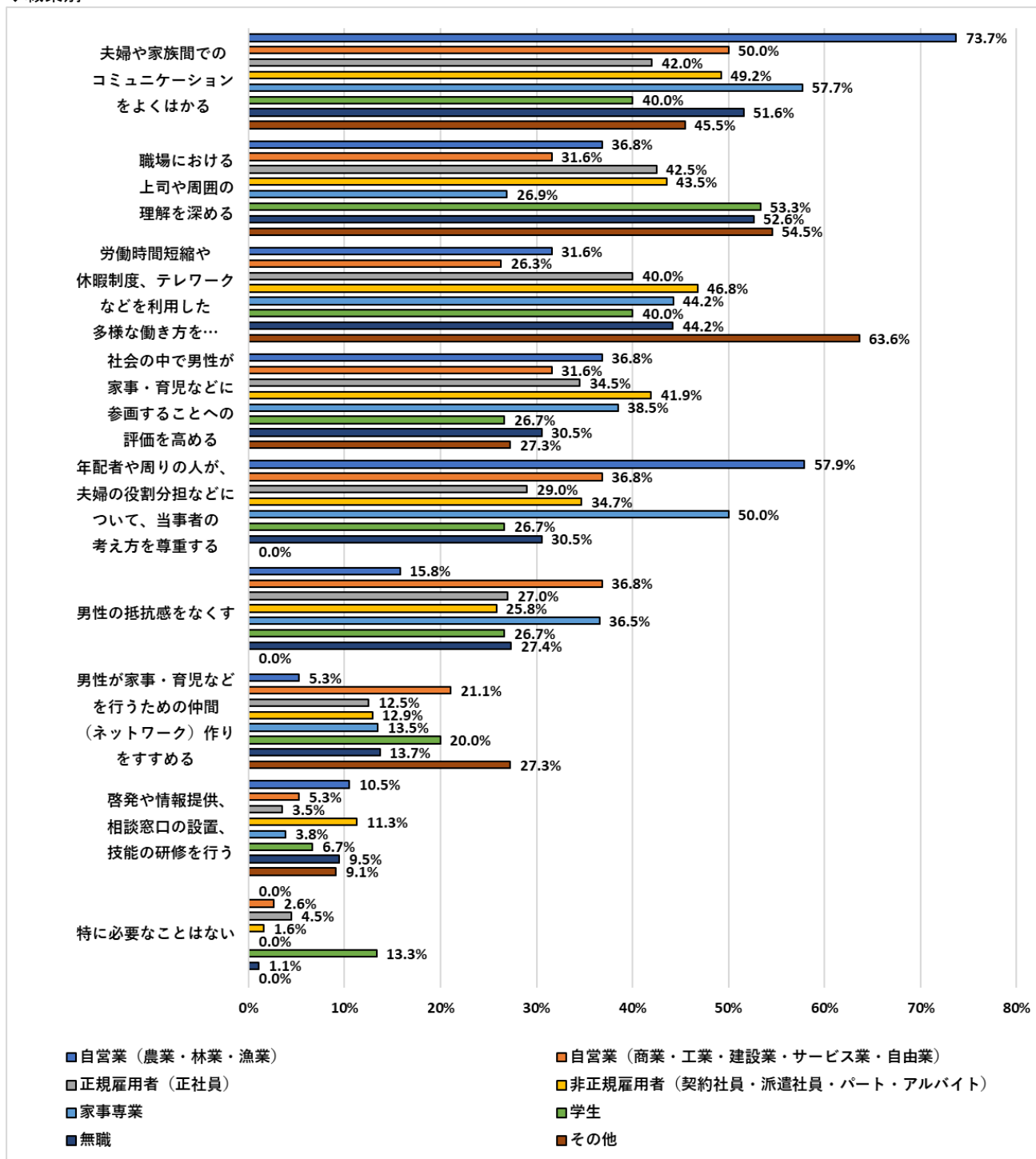
◆年代別



◆県調査(令和6年度)



◆職業別



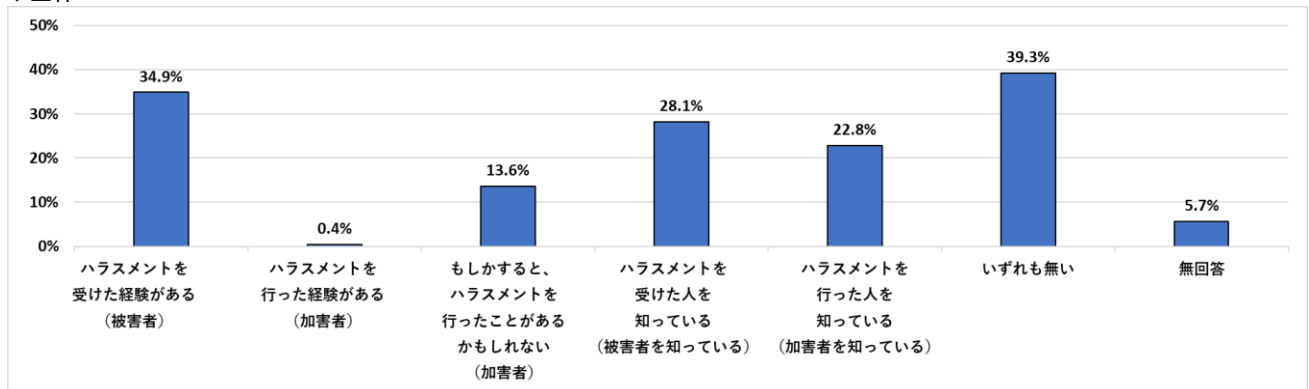
8 ハラスメント・様々な暴力への対策について

ハラスメントについて 「受けた経験がある」女性の約3割

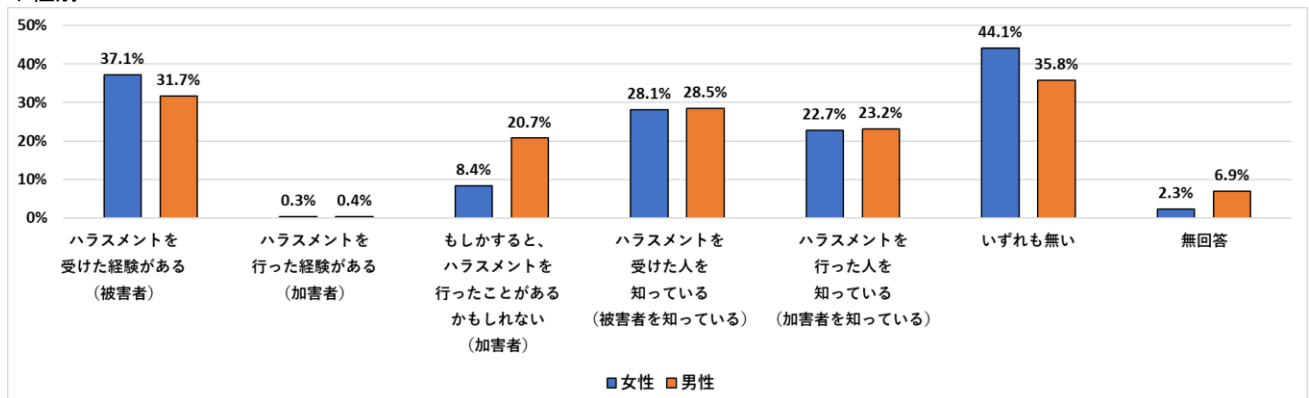
問 13 あなたは、地域や職場などで、ハラスメントを受けた又はしたことがありますか。もしくは、そのようなことをされた人、した人をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。（該当する番号の左側に○をお付けください）

- 「受けた経験がある」とした人は 34.9%で、「受けた人を知っている」は 28.1%、「行った人を知っている」は 22.8%となっている。
- 性別では、「受けた経験がある」とした人は、女性で 37.1%、男性で 31.7%となっている。
- 年代別に見ると、50 歳代で「受けた経験がある」とした人は 48.6%と半数近く、各年代の中で一番高くなっている。
- 職業別に見ると、非正規雇用者(契約社員・派遣社員・パート・アルバイト)で「受けた経験がある」とした人は 39.5%で、職業別の中で最も高くなっている。

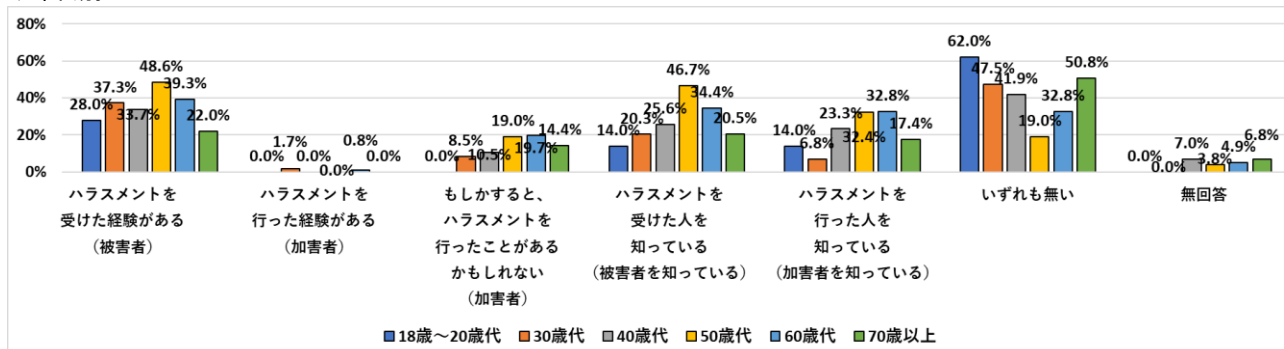
◆全体



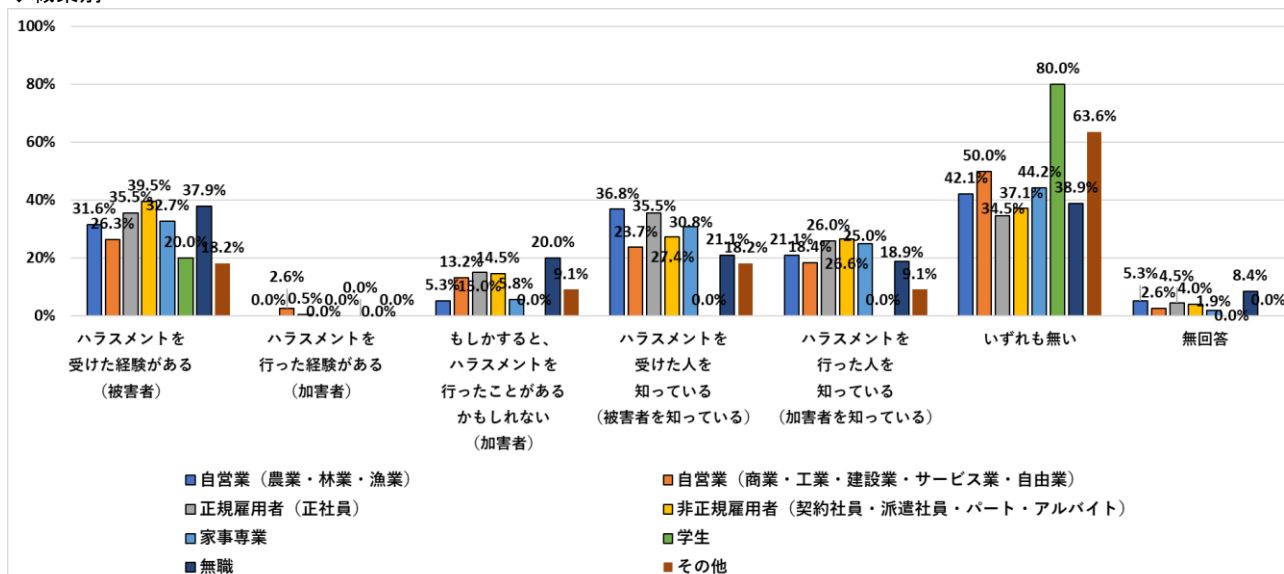
◆性別



◆年代別



◆職業別

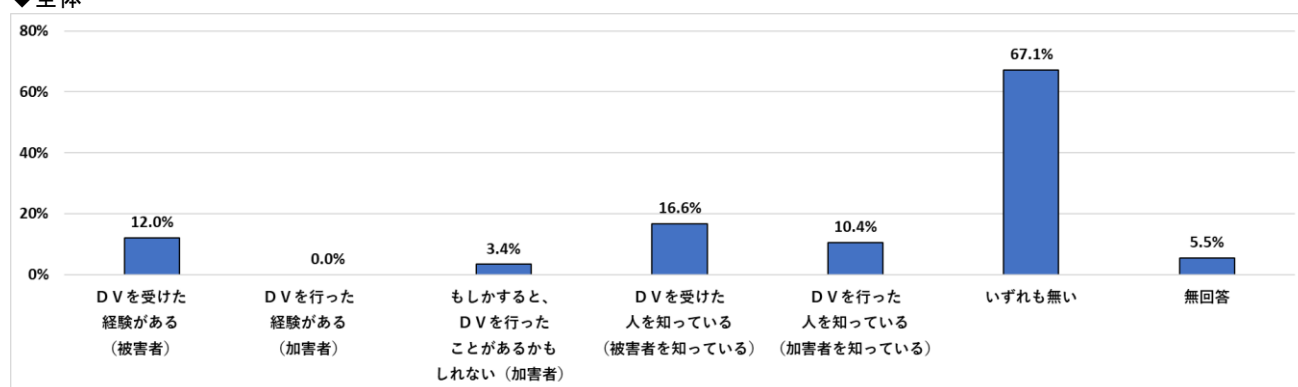


暴力被害について 「受けた経験がある」女性の 15.7%

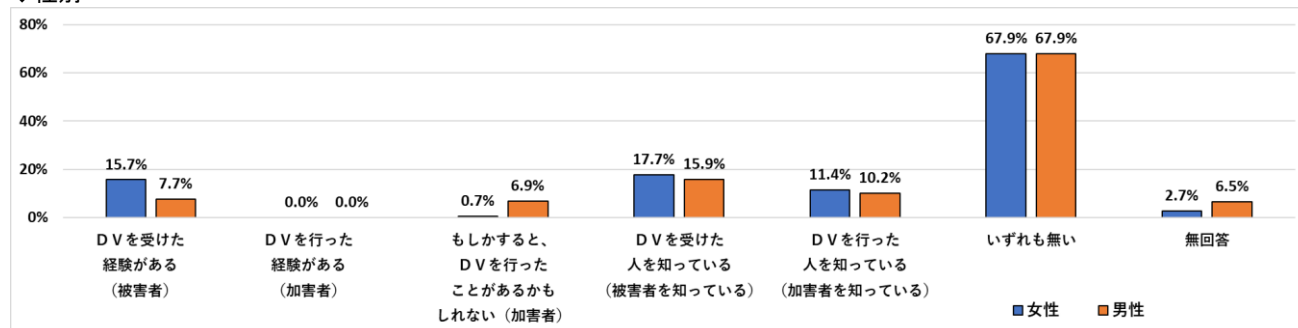
問 14 あなたは、身体的、精神的、性的な暴力(DV)を受けた又はしたことがありますか。もしくはそのようなことをされた人、した人をご存知ですか。あてはまるものをすべてお答えください。(該当する番号の左側に○をお付けください)

- 「受けた経験がある」とした人は 12.0%で、「受けた人を知っている」は 16.6%、「行った人を知っている」は 10.4%となっている。
- 性別では、「受けた経験がある」と回答した人は、女性で 15.7%、男性で 7.7%となっている。
- 年代別に見ると、50 歳代で「受けた経験がある」とした人は 17.1%で、各年代の中で一番高くなっている。

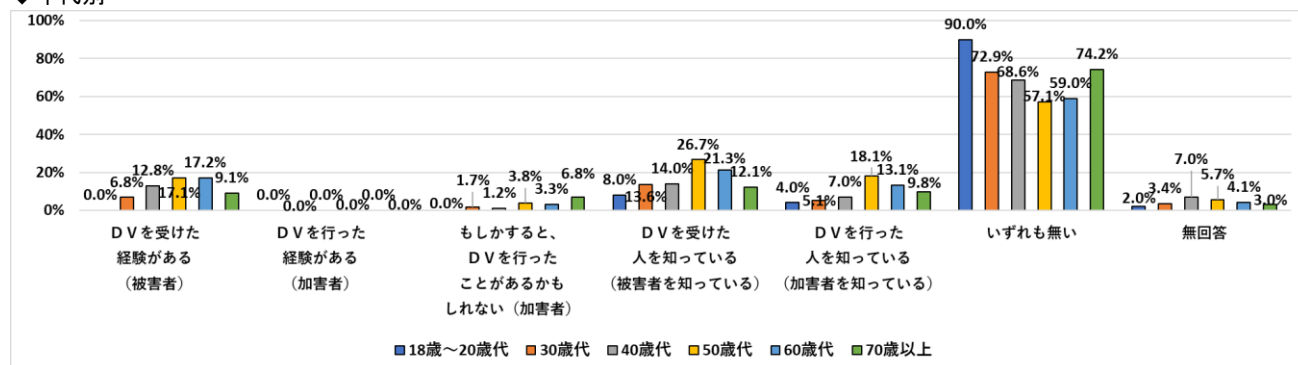
◆全体



◆性別



◆年代別

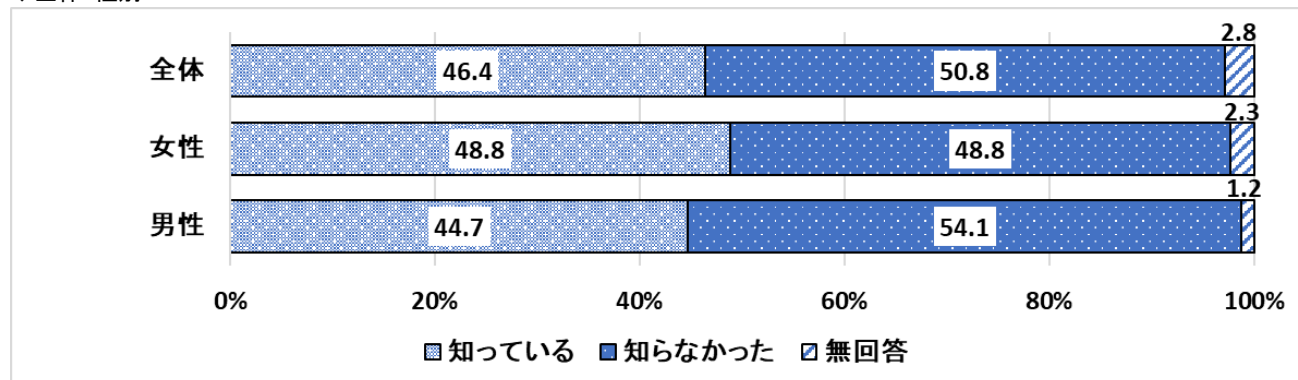


市の相談窓口の周知度 「知っている」約半数

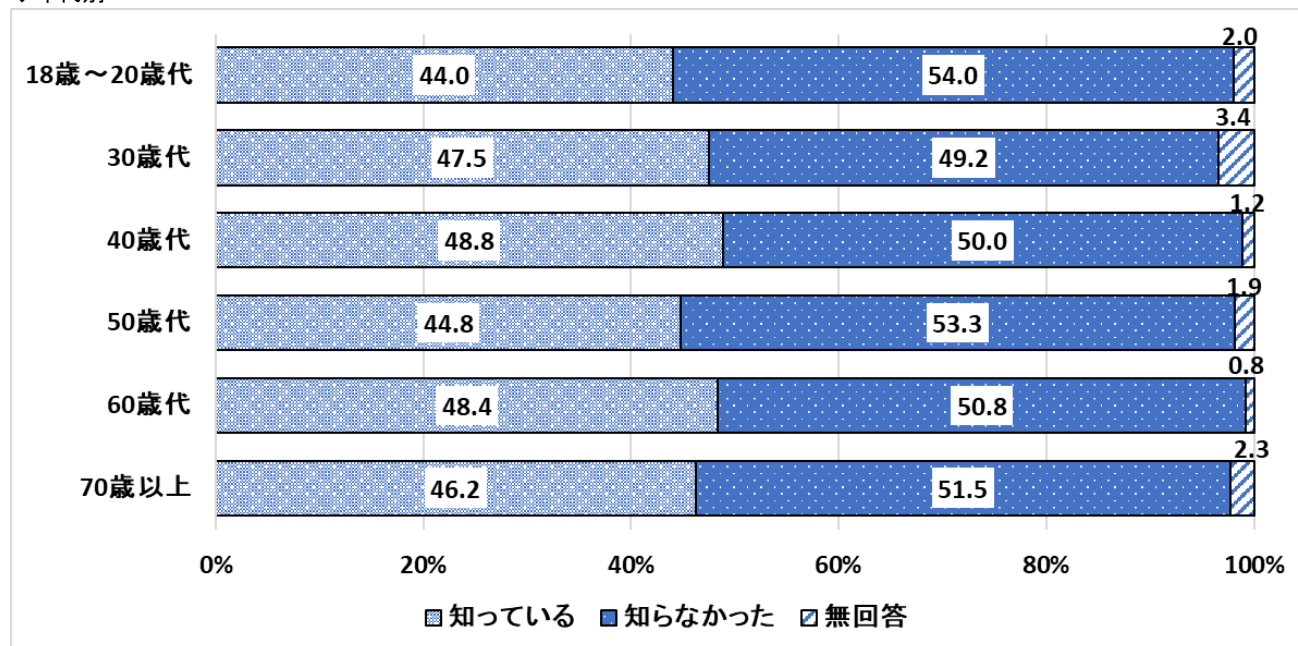
問 15 あなたは、DV被害にあったとき、市に相談窓口があることをご存知ですか。

- 男女ともに「知っている」とする割合は、5割弱となっている。
- 年代別では、どの年代も「知らなかった」割合は5割程度となっている。
- 県調査では、「知っている」とする割合は7割を超えている。（県調査の質問では、「配偶者からの暴力について、相談できる窓口があることをご存知ですか。」となっている。）

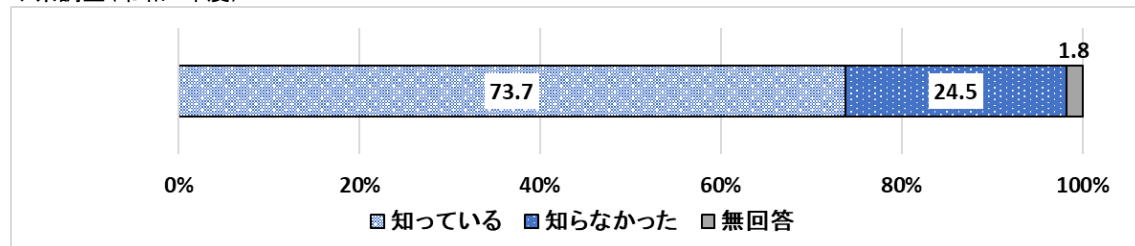
◆全体・性別



◆年代別



◆県調査(令和6年度)



DV・ハラスメントなどの対策 「相談窓口の設置」64.1%

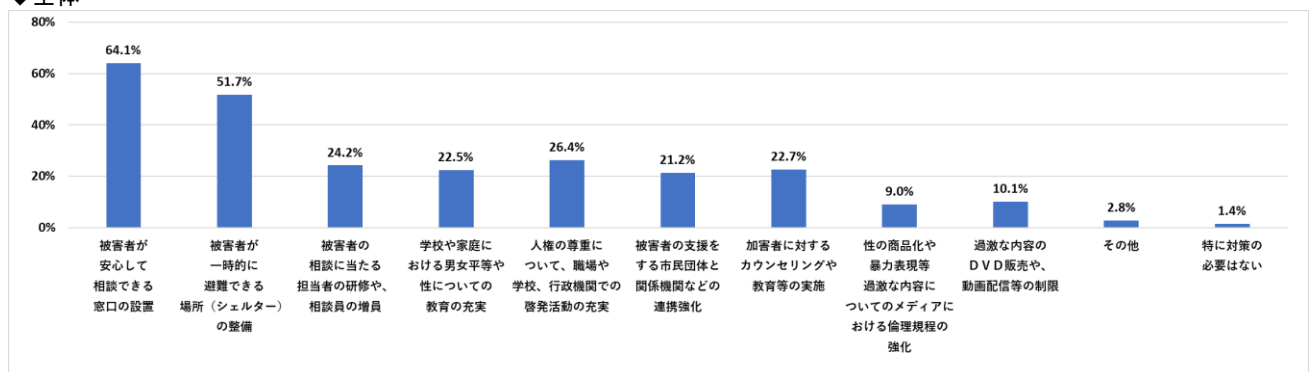
問 16 性犯罪、DV、セクシュアル・ハラスメントなどの対策として、どのようなことをしていって良いと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

●「被害者が安心して相談できる窓口の設置」が 64.1%と最も高く、以下、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」(51.7%)が 50%を超えている。

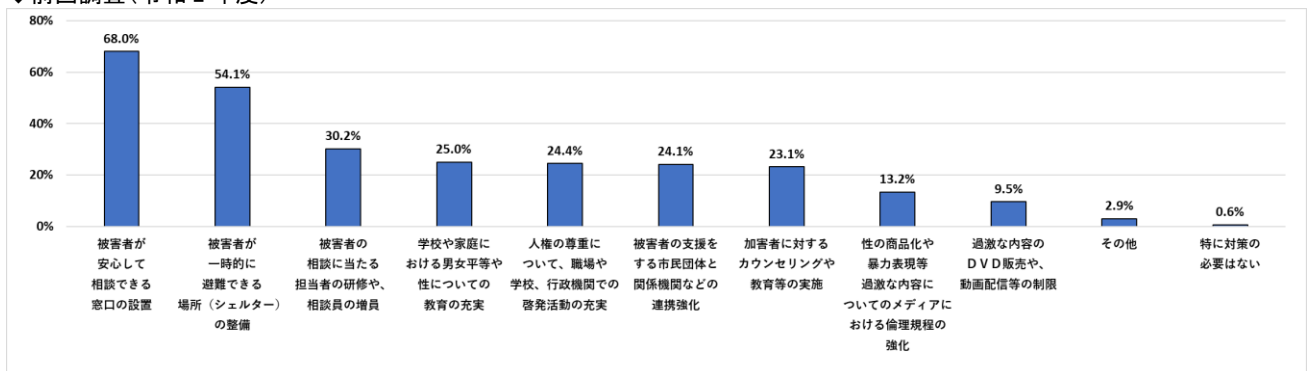
●前回調査においても「被害者が安心して相談できる窓口の設置」、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」が半数を超えていた。

●年代別では、「被害者が安心して相談できる窓口の設置」は 70 歳代以上で 75.0%となったほか全年代で 50%を超えており、「被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)の整備」は 30 歳代で 74.6%が最も高くなっている。

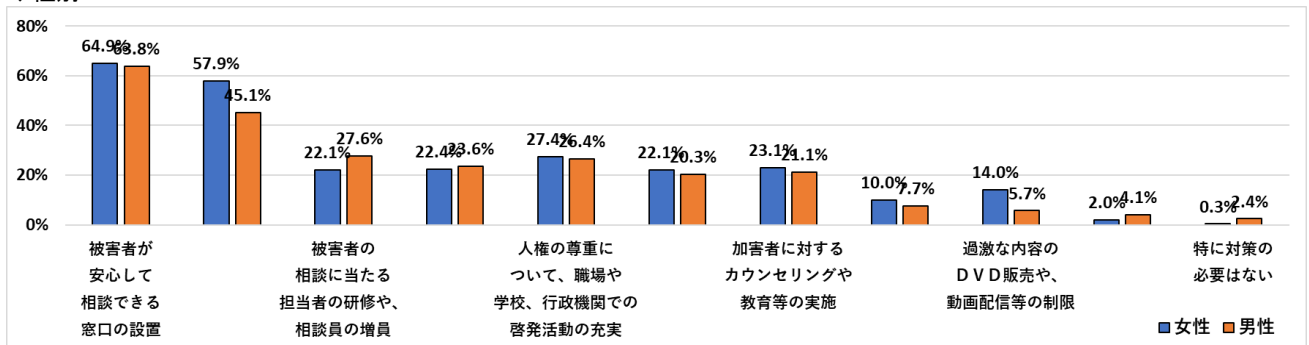
◆全体



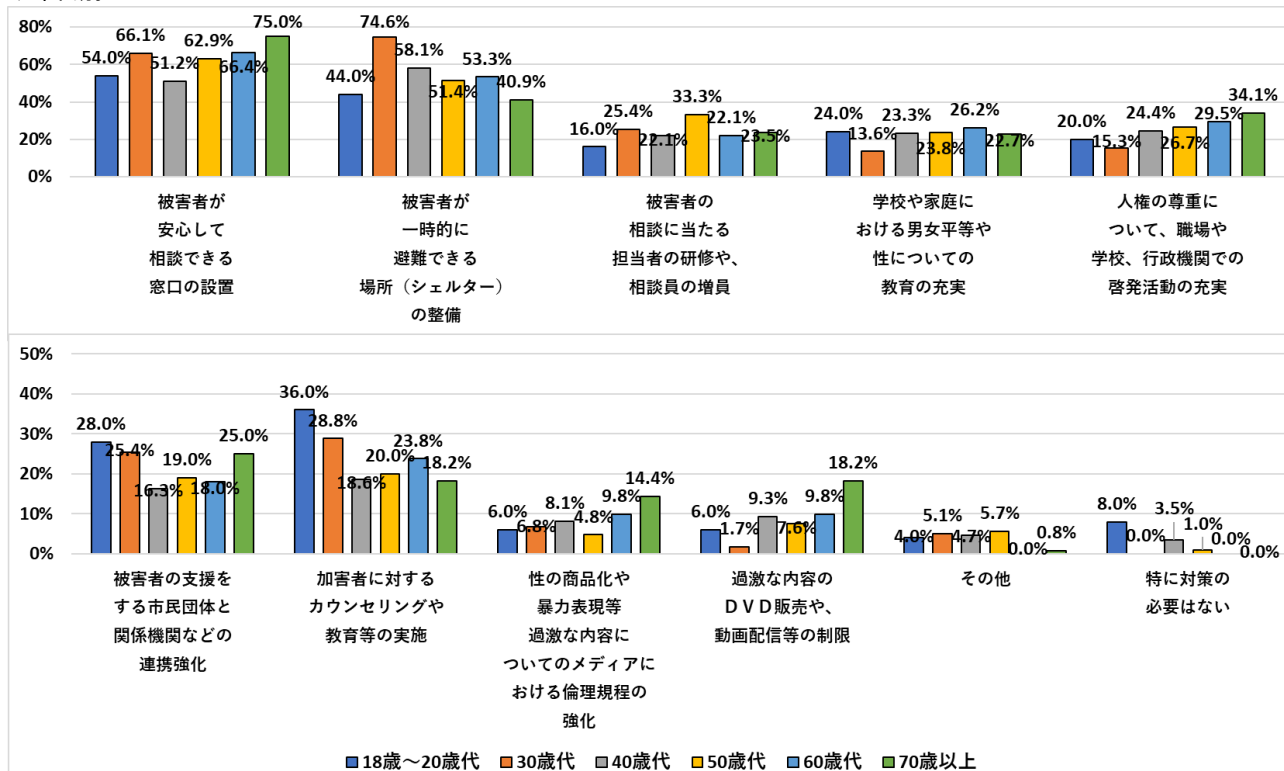
◆前回調査(令和2年度)



◆性別



◆年代別



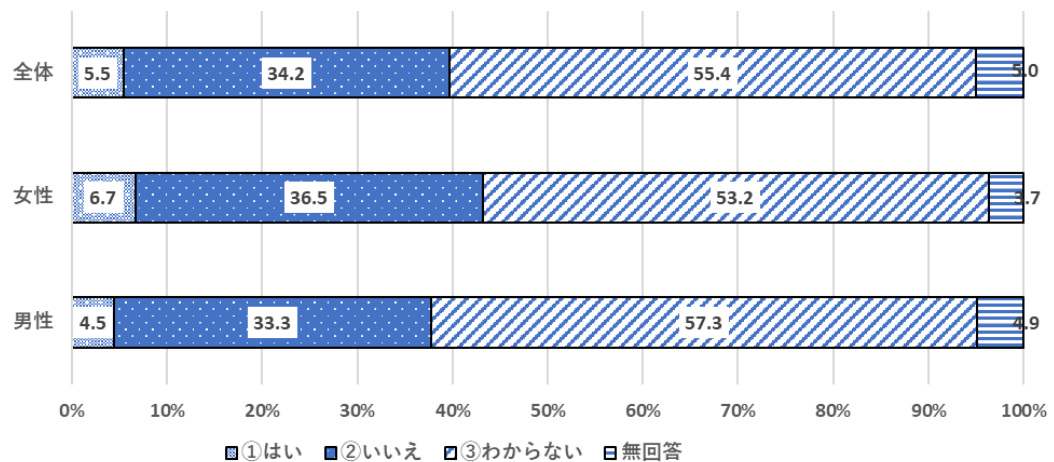
9 困難な問題を抱える女性への支援について

身近に困難を抱える女性の有無 「はい」5.5%

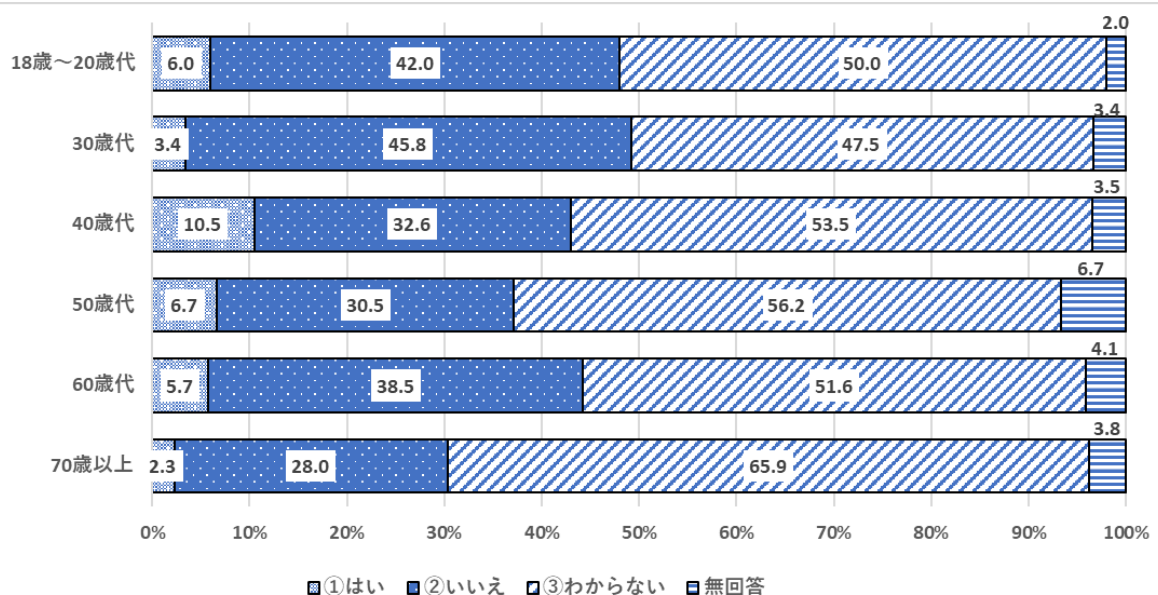
問 17-1 あなたの身近に、困難な問題を抱えている(と思われる)女性はいませんか？

- 「はい」が5.5%、「いいえ」が34.2%、「わからない」が55.4%となっている。
- 性別では「はい」が女性6.7%、男性4.5%となっている。
- 年代別では、40歳代で「はい」が10.5%と最も高くなっている。
- いずれも「わからない」とする回答が半数程度を占めている。

◆全体・性別



◆年代別



問17-2 問17-1で①「はい」と答えた方におたずねします。

どのようなことに困難を感じていると思いますか？

どのようなことにお困りか、自由にご記入ください。

性別	年齢	自由記述
② 男性	⑤ 60歳代	・一人暮らしの高齢女性・若年性認知症（65歳以下の単身女性）
① 女性	⑥ 70歳以上	うつ病があり薬を処方していただき、毎日決められたように服用していますが、気分がしずみがちで外出もあまりできません。
① 女性	⑤ 60歳代	ギャンブル、アルコール依存症の家族とどう向き合うか。介護の負担が嫁に全部かかってくる。
① 女性	⑤ 60歳代	一人暮らしの高齢者～買い物や通院、もしもの時の相談等
① 女性	① 18歳～ 20歳代	家事や介護の負担
② 男性	⑤ 60歳代	介護
② 男性	③ 40歳代	金銭問題
① 女性	④ 50歳代	経済的困窮
① 女性	③ 40歳代	経済的困窮、息子のひきこもり
② 男性	④ 50歳代	経済的困窮（収入が低い）。精神的な孤独（周囲に入っているか心配をくたいて接しづれない）。 身体的、精神的な病、障がい
① 女性	② 30歳代	出産育児と仕事でのキャリアの両立
① 女性	④ 50歳代	職場でのパワーハラスメントで適応障害になった女性がいて出勤できず、療養している。
② 男性	⑤ 60歳代	職場でのパワハラ問題
① 女性	④ 50歳代	税金の支払いに苦労している（国保）給料面
① 女性	③ 40歳代	体を壊し仕事が出来ない
① 女性	③ 40歳代	配偶者からの暴力（友人）話は聞くが聞くだけで対応ができない
② 男性	⑤ 60歳代	母子家庭で経済的に（働く時間が限定される為）
① 女性	① 18歳～ 20歳代	未成年の時に、成人男性に妊娠させられて 子どもを産んだが、責任をとって貰えなかった女性

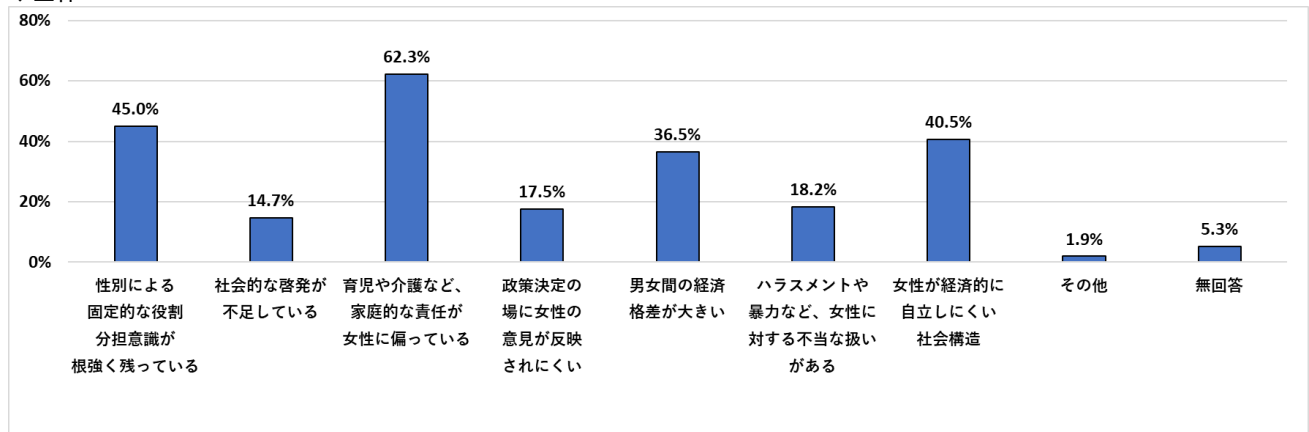
女性が困難を抱える背景 「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」62.3%

問 18 女性が困難な問題を抱える背景や原因として、どのようなことが考えられると思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

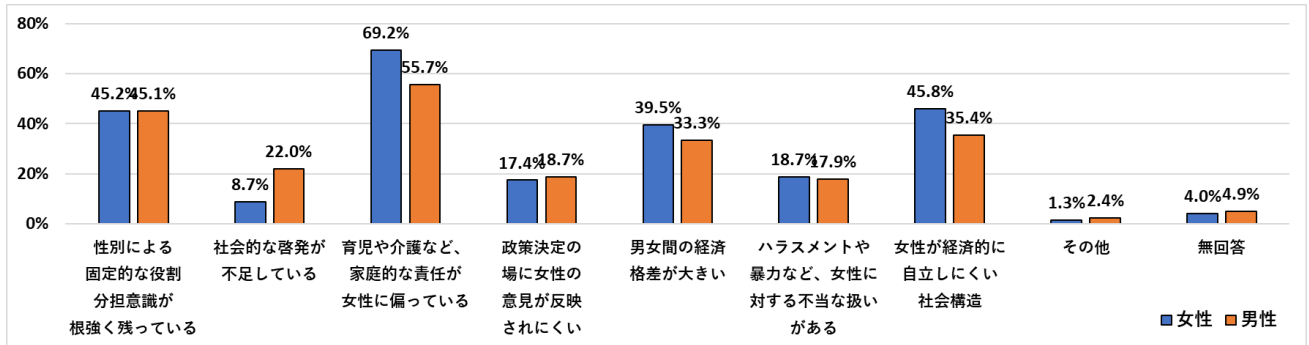
●「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」が 62.3%と最も高く、以下、「性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている」(45.0%)、「女性が経済的に自立しにくい社会構造」(40.5%)の順となっている。

●性別では女性の「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」69.2%が最も高くなっている。

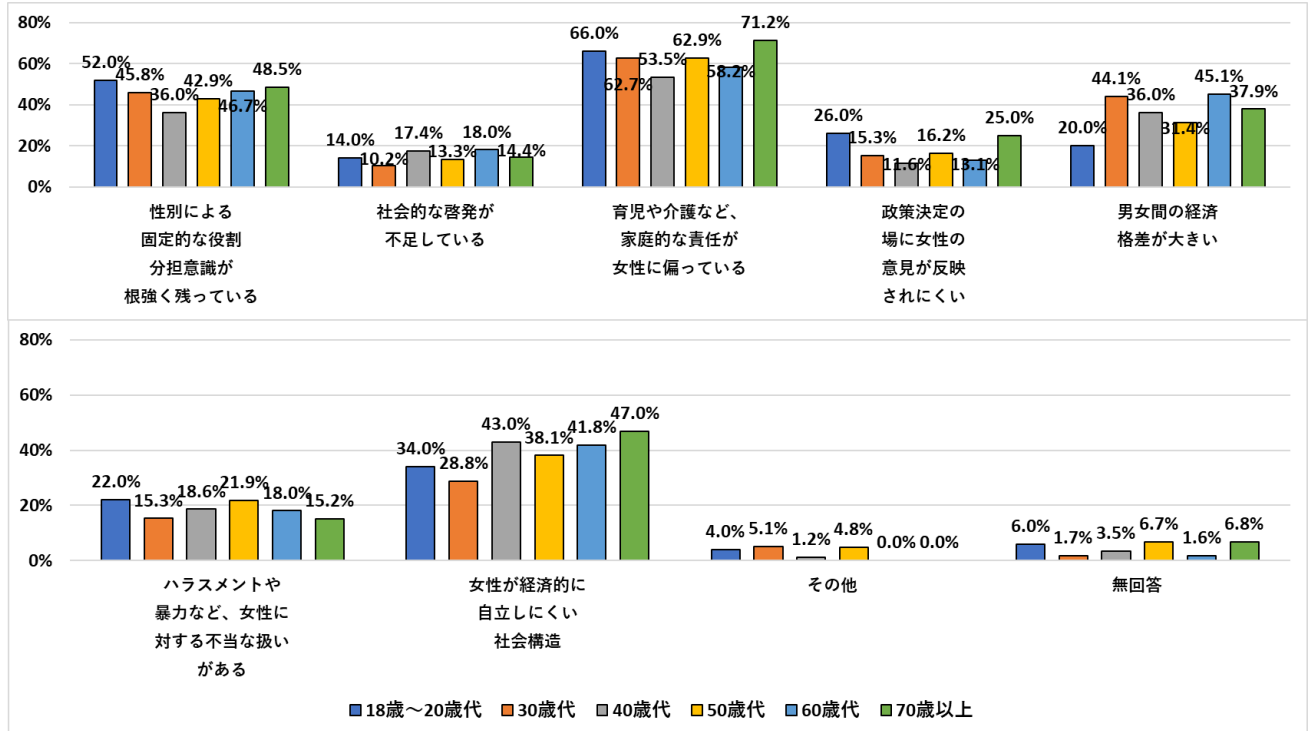
◆全体



◆性別



◆年代別



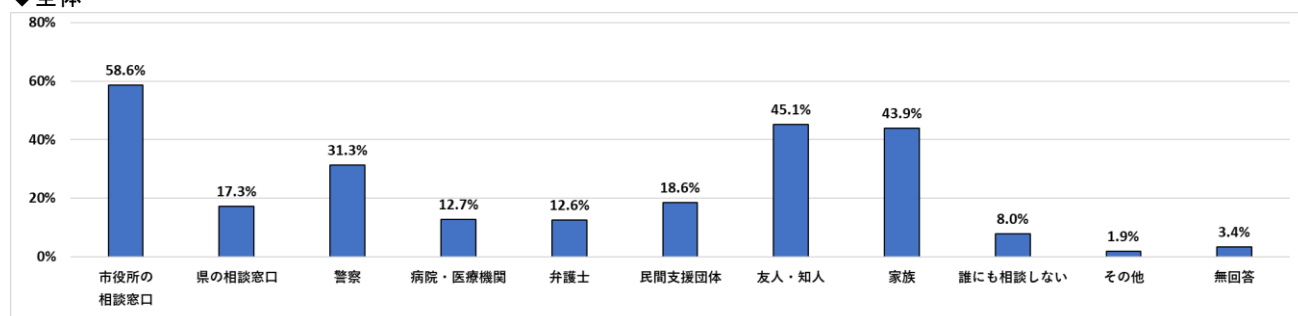
その場合の相談先 「市役所の相談窓口」58.6%

問 19 もしあなたが、あるいはあなたの周りの女性が、困難な問題を抱えた時に、どこに相談しようと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

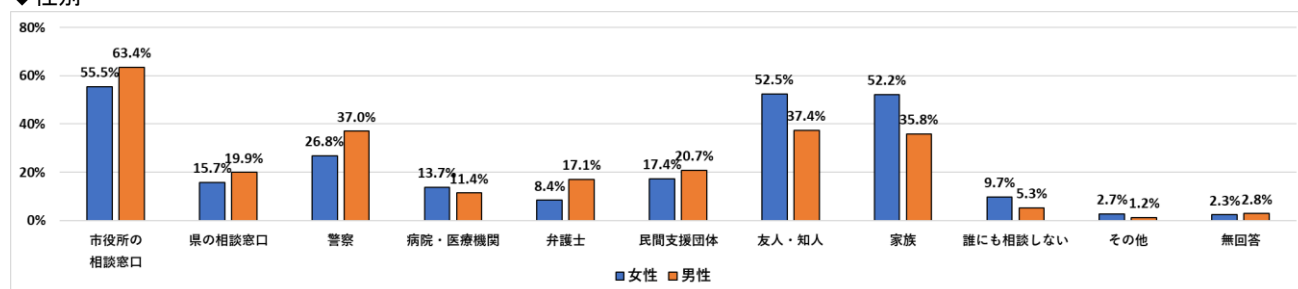
●「市役所の相談窓口」が 58.6%と最も高く、以下、「友人・知人」(45.1%)、「家族」(43.5%)、「警察」(31.3%)の順となっている。

●性別では女性の「友人・知人」が 52.5%であるのに対し、男性 37.4%、「家族」女性 52.2%に対し、男性 35.8%と男女差が見られる。

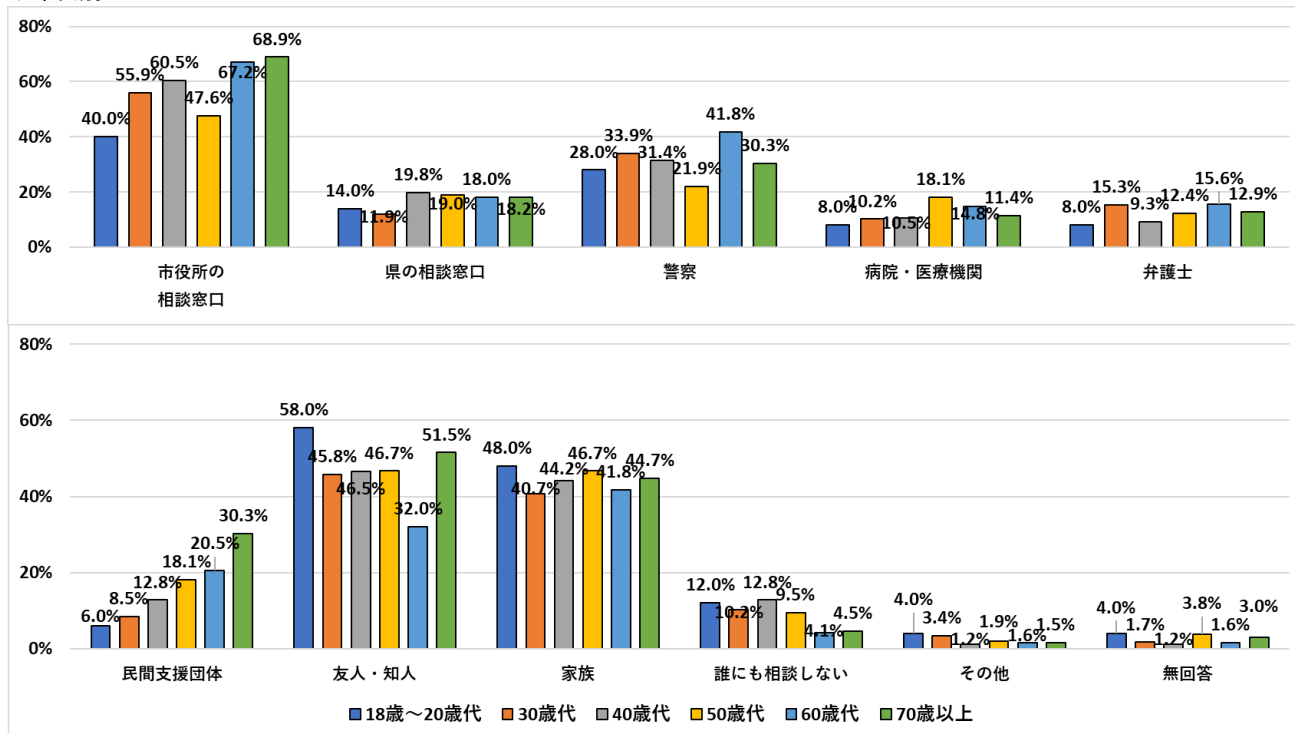
◆全体



◆性別



◆年代別



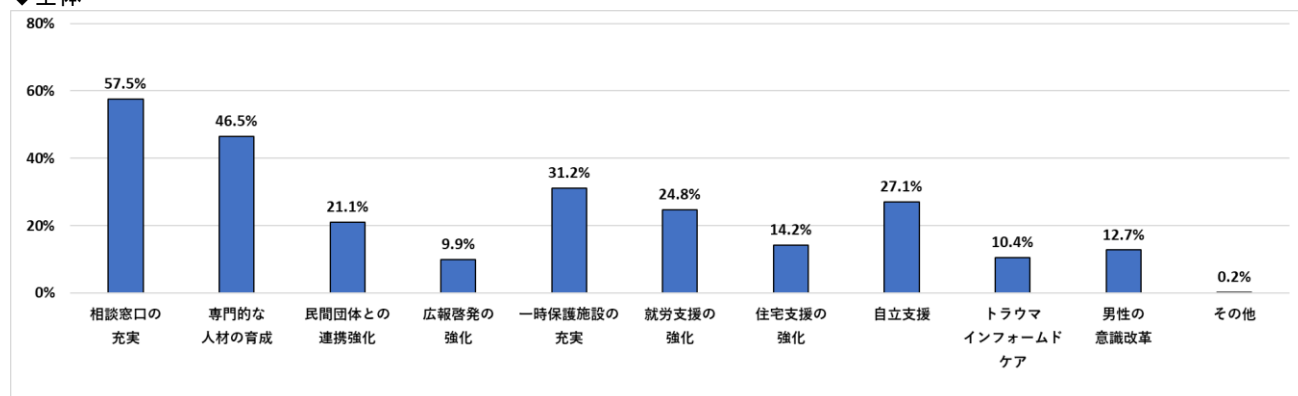
市が支援すべきこと 「相談窓口の充実」57.5%

問 20 佐久市が、困難な問題を抱える女性への支援に関して、特に力を入れるべきだと思うことは何ですか。次の中から、3つまでお選びください。

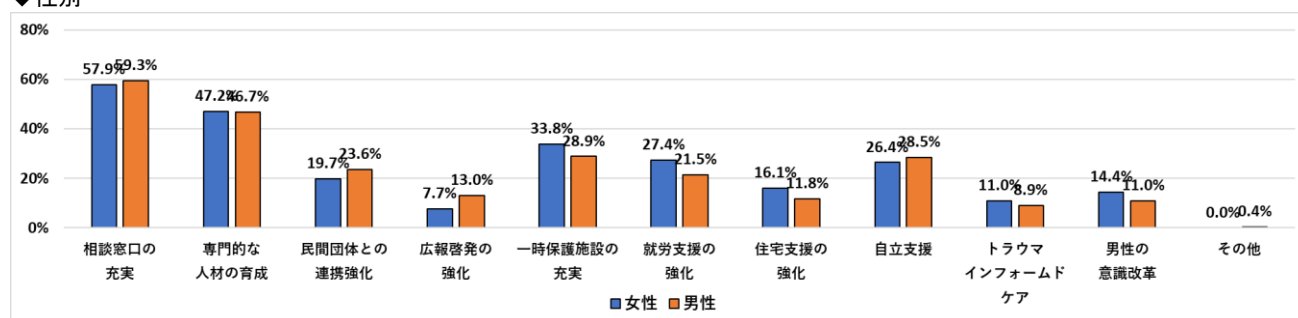
●「相談窓口の充実」が 57.5%と最も高く、以下、「専門的な人材の育成」(46.5%)、「一時保護施設の充実」(31.2%)、「自立支援」(27.1%)の順となっている。

●年代別では、「専門的な人材の育成」で 18 歳～20 歳代の 28.0%に対し、60 歳代では 55.7%と約 2 倍の差が見られる。

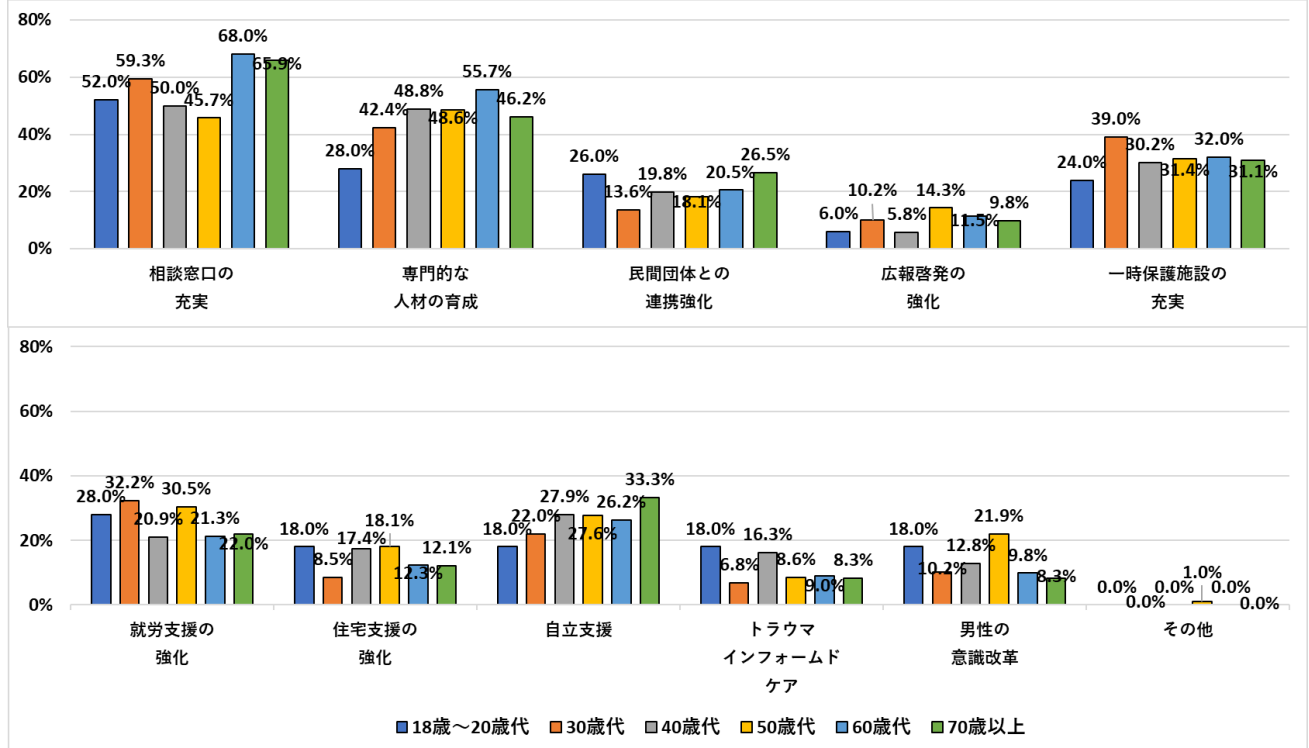
◆全体



◆性別



◆年代別



10 男女共同参画社会の実現について

男女共同参画社会の実現 「実現できていない」45.6%

問 21 「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮することができる社会」です。

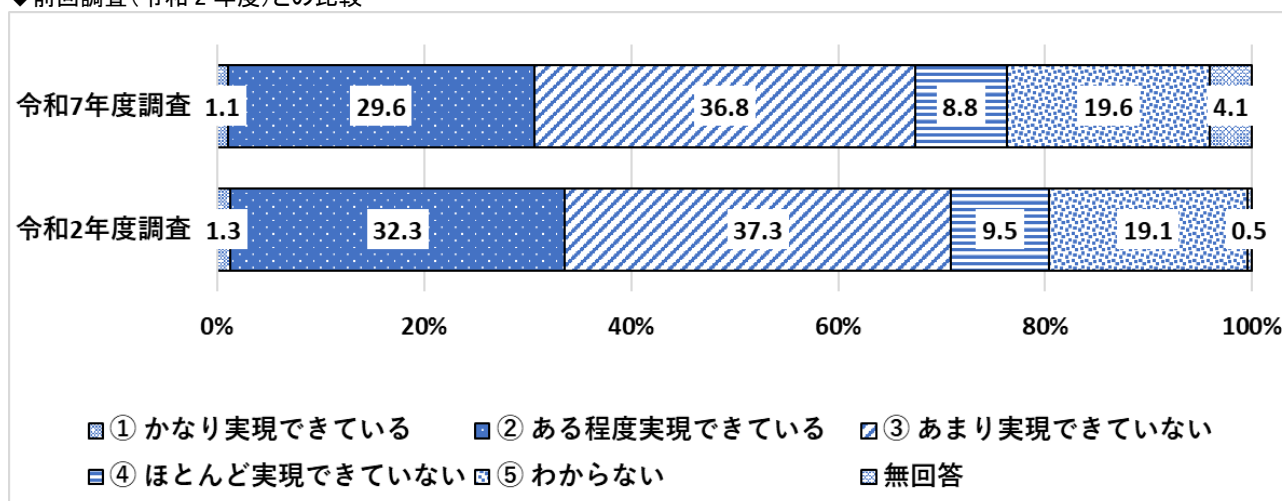
「男女共同参画社会」を実現するための基本理念を定めた「男女共同参画基本法」が平成 11 年に成立して、今年で 26 年目になります。

あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は実現できていると思いますか。

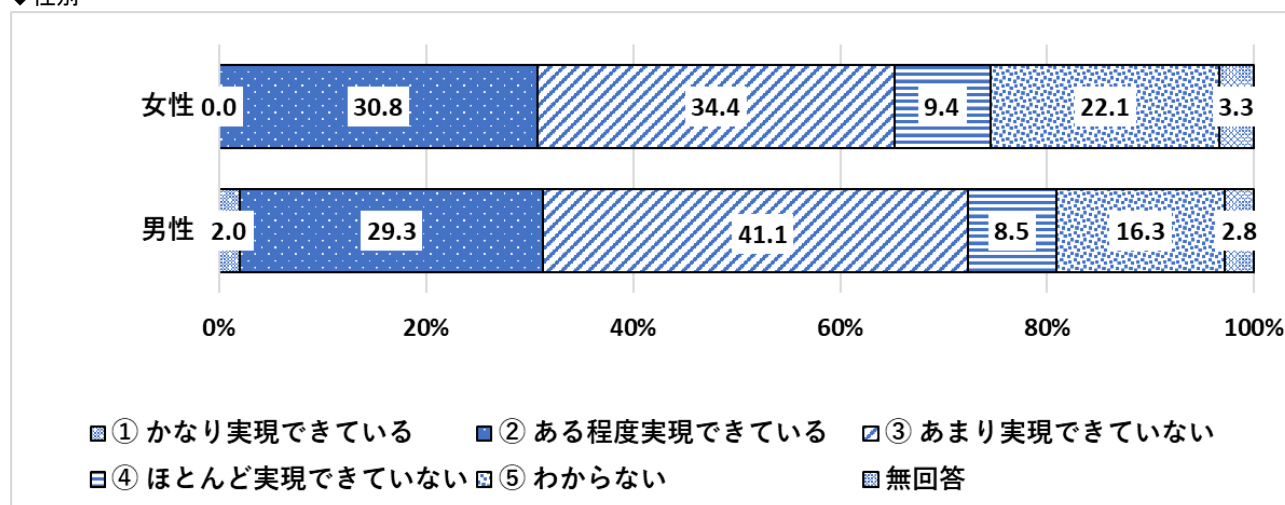
●「あまり実現できていない」または「ほとんど実現できていない」割合は 45.6%となっている。

●年代別では、「かなり実現できている」または「ある程度実現できている」割合は 18 歳～20 歳代で 44.0%、70 歳以上で 25.8%と差が見られる。

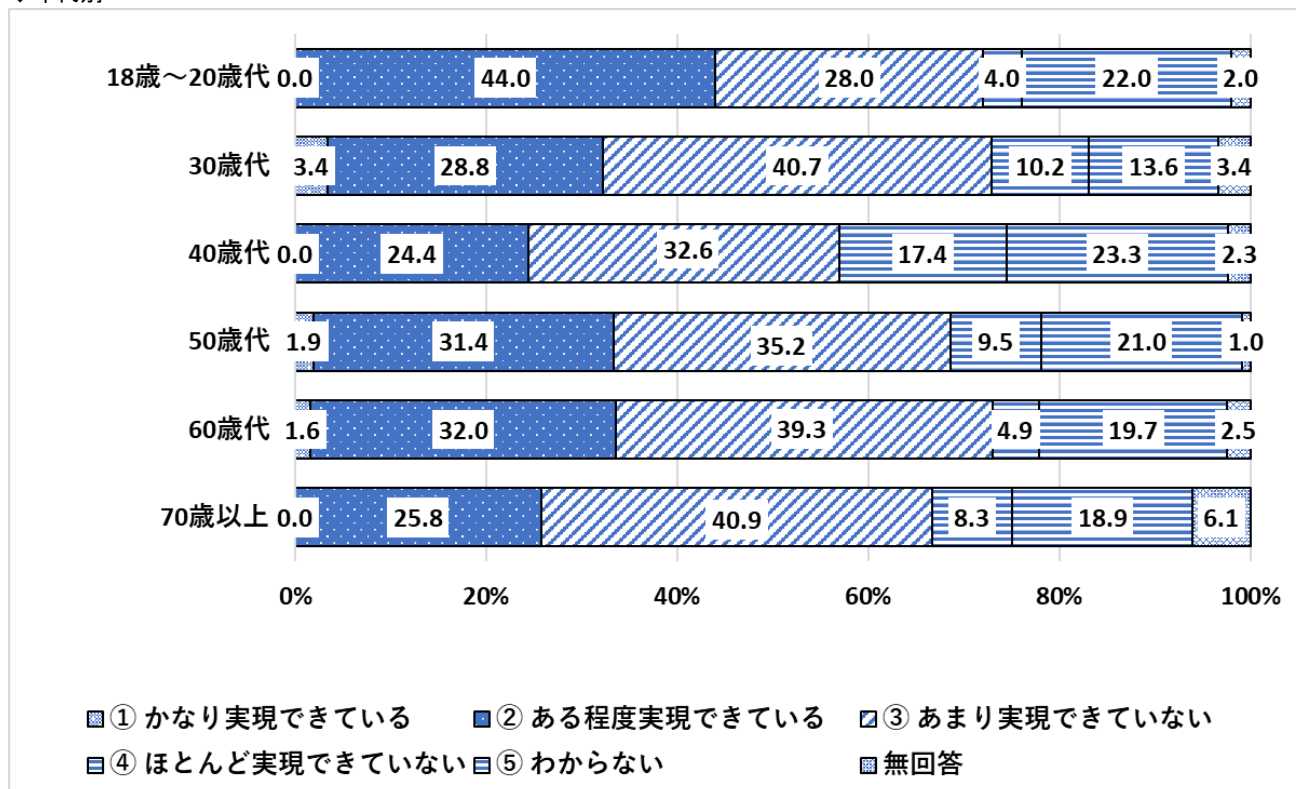
◆前回調査(令和2年度)との比較



◆性別



◆年代別



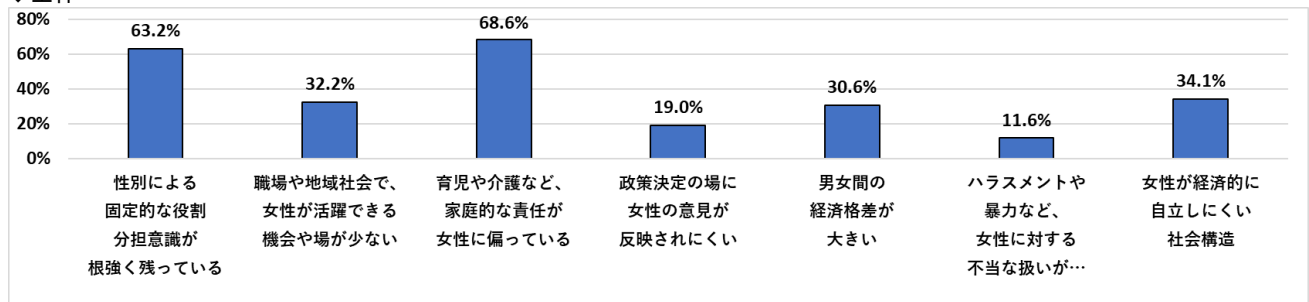
実現できていない要因 「家庭的な責任が女性に偏っている」68.6%

問 21-1 問 21 で「③ あまり実現できていない」「④ ほとんど実現できていない」と回答した方におたずねします。男女共同参画社会が実現できていない要因として、どのようなことが考えられますか。次の中から、3つまでお選びください。

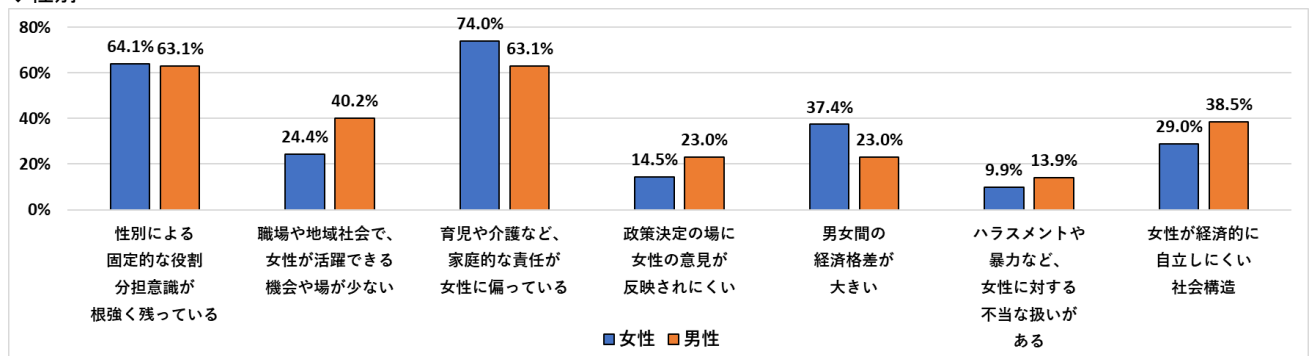
●「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」が 68.6%と最も多く、以下、「性別による固定的な役割分担意識が根強く残っている」(63.2%)、「女性が経済的に自立しにくい社会構造」(34.1%)の順となっている。

●性別では、「育児や介護など、家庭的な責任が女性に偏っている」で女性 74.0%、男性 63.1%と 10.9 ポイントの差が見られる。

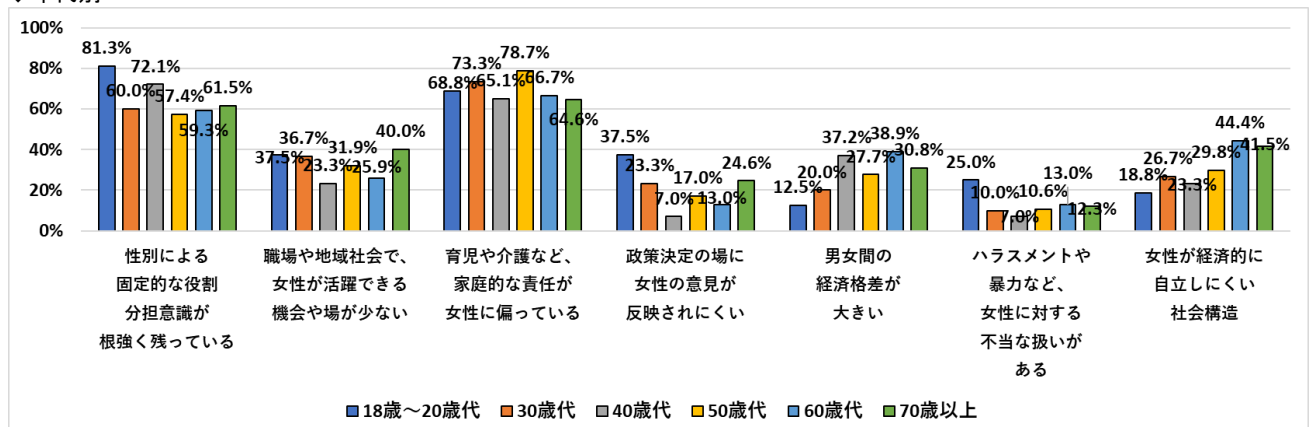
◆全体



◆性別



◆年代別



佐久市が力を入れていくべき施策 「仕事・子育て・介護両立の支援策」55.4%

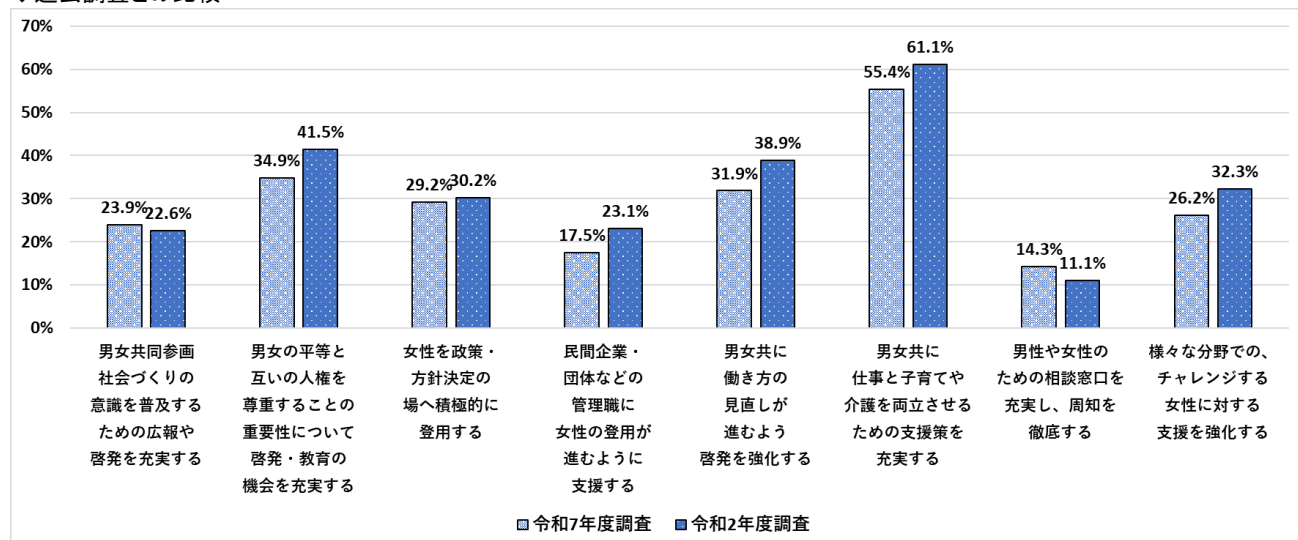
問 22 男女共同参画社会づくりを進めるために、佐久市は、どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、3つまでお選びください。

●「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が 55.4%と最も高く、以下、「男女の平等と互いの人権を尊重することの重要性について啓発・教育の機会を充実する」(39.4%)、「男女共に働き方の見直しが進むよう啓発を強化する」(31.9%)の順となっている。

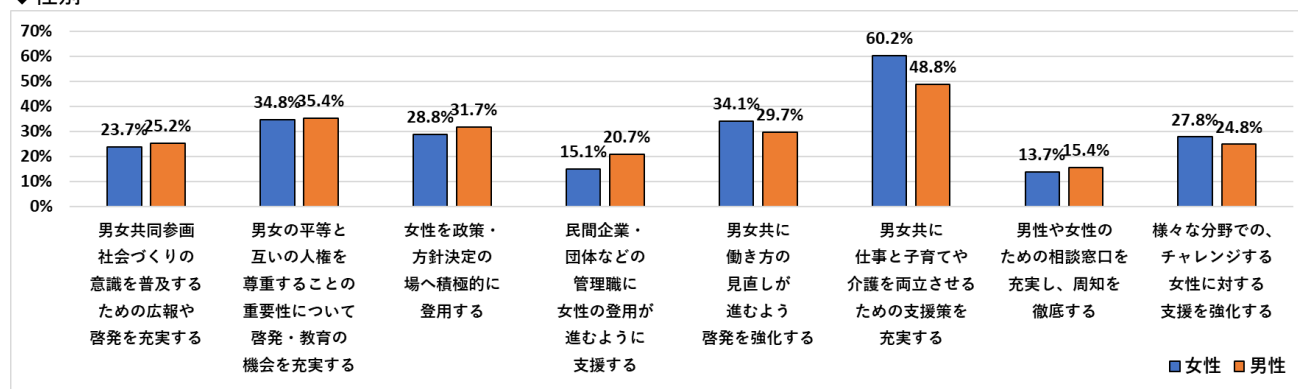
●過去調査との比較においても、「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が割合こそ減少しているが最も高い。

●性別では、「仕事と子育てや介護を両立させるための支援策を充実する」が女性 60.2%に対し男性 48.8%と 11.4 ポイントの差が見られる。

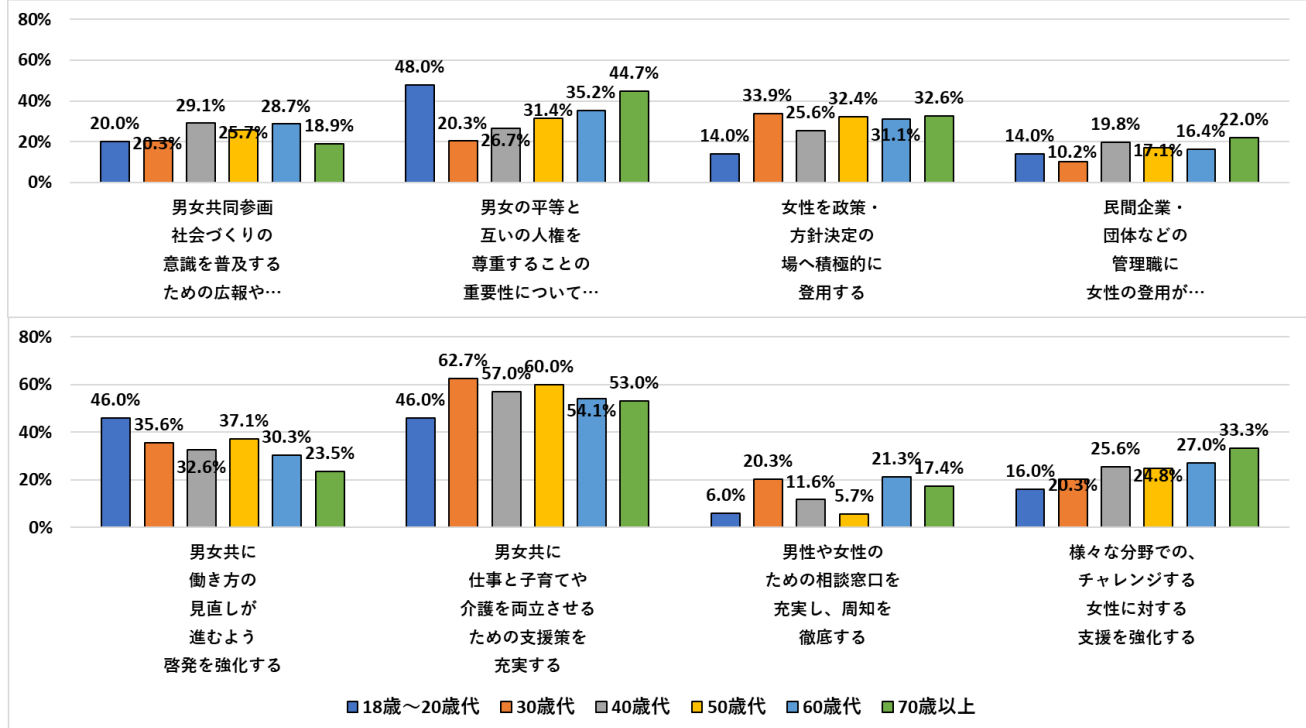
◆過去調査との比較



◆性別



◆年代別



問 23 男女共同参画について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。